

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

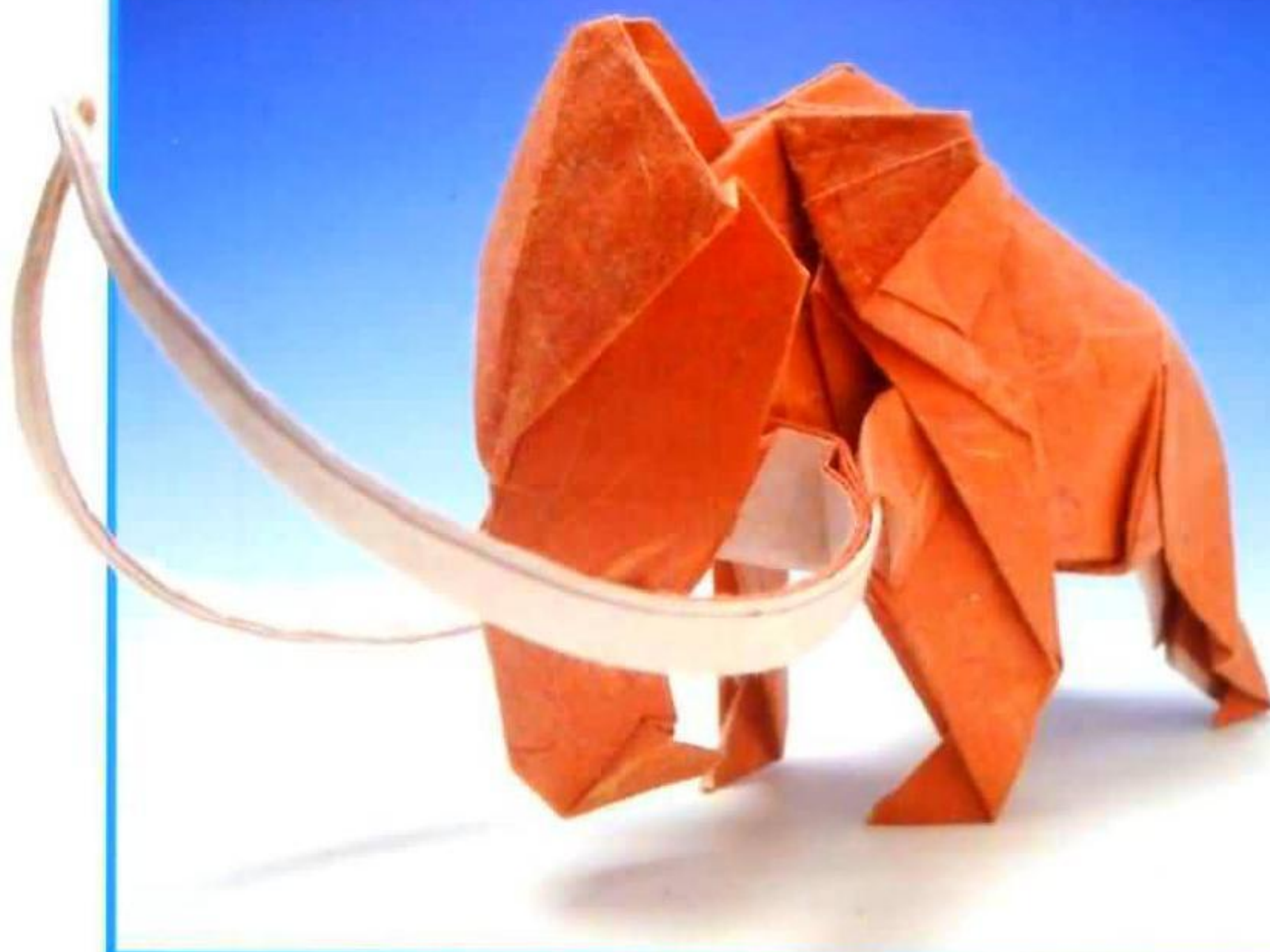
M A G A Z I N E

定価 600円

イベント情報

第2回 折紙探偵団関西コンベンション案内

Information About the Kansai Tanteidan Convention



クローズアップ

Close-up : A Bibliographical Introduction of the Works of Nakajima Taneji

Takagi Satoshi

中島種二の著作解題

高木 智

折り図

マンモス

Mammoth

Model and Diagrams
by Miyajima Noboru

宮島 登

展開図折りに挑戦

ダイス

Crease Pattern Challenge : Dice

Tanaka Masashi

田中 将司

好評連載

Origami × Mathematics : Kawasaki Toshikazu / A Philological Survey of Origami : Okamura Masao / New Origami Sampo : Maekawa Jun

折紙×数理:川崎敏和／おりがみ庵・読み歩き:岡村昌夫／新・折紙散歩:前川 淳

Tomoko in the Box : Fuse Tomoko / Tomoko's Shikishi-Hyakka : Tanaka Tomoko

TOMOKOのびっくり箱:布施知子／ともこさんの色紙百花:田中具子

通巻

65

号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

手前に折る
Fold forward.

後ろへ折る
Fold backward.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

段折り
Pleat.

裏返す
Turn over.

引き出す
Pull out flap.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

見えない
ところ
X-ray.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

マンモス
作:宮島 登 (P.24)
Mammoth
Miyajima Noboru(P.24)

■折紙探偵団コンベンション折り図集vol.3に掲載された作品に、さらに改良を加えた最新バージョンです。巨大な象牙と丸みのある胴体を組み合わせたコミカルな雰囲気はそのままに、さらに耳をバランスよく折り出すことが可能になっています。無愛想な表情もマンモスらしさを強調しているようです。 (解説:北條高史) Comments: Hojo Takashi

No. 65

C O N T E N T S

■ 好評連載陣

Series

TOMOKOのびっくり箱

4

Tomoko in the Box

ぜんまい折り・2 Whirlpool Patterns - 2

布施知子 Fuse Tomoko

ともこさんの色紙百花

8

Tomoko's Shikishi-hyakka

フリージア Freesia

田中具子 Tanaka Tomoko

折り紙×数理

14

Origami×Mathematics

第4回 一曲線折り(2) A Monocurve Folding 2

川崎敏和 Kawasaki Toshikazu

おりがみ庵 読み歩き

16

A Philological Survey of Origami

第5回

岡村昌夫 Okamura Masao

新・折紙散歩

18

第5回 折鶴の街

New Origami Sampo (Origami Walk)
- A Paper Crane Town -

前川 淳 Maekawa Jun

世界の折り紙団体

佐藤直幹

35

World's Origami Organizations Sato Naomiki

第5回 MFPP(フランス)

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY

20

解説・北條高史 Comments: Hojyo Takashi

「フリージア」田中具子／「無限平織り・スター」布施知子

／「タツノオトシゴ」エリック・ジョワゼル

／「龍神」神谷哲史

Freesia: Tanaka Tomoko／Infinite Whirlpool Patterns:

Stars: Fuse Tomoko／Sea Horse: Eric Joisel

／"Ryu zin"Chenese Dragon: Kamiya Satoshi

■ クローズアップ

Close-up

中島種二の著作解題

11

A Bibliographical Introduction of the Works of
Nakajima Taneji

高木 智 Takagi Satoshi

■ 折り図

Diagrams

雛人形

Dolls Displayed at the Girls'
Festival (March 3)

22

作・図:前川 淳 Model and Diagrams by
Maekawa Jun

マンモス

24

Mammoth

作・図:宮島 登

Model and
Diagrams by
Miyajima Noboru

展開図折りに挑戦!

34

Crease Pattern Challenge

ダイス

Dice

田中将司 Tanaka Masashi

■ エッセイ・コラム

Essay & Column

おりすじ

堀口昌哉

32

Orisuji ("Fold-Creases") Horiguchi Masaya

折紙三昧

西川誠司

33

Origami-Zanmai Nishikawa Seiji
(This Origami and That)

■ インフォメーション

つまみおり Rabbit Ear (Information)

36

・「第3回静岡コンベンションレポート」
3rd Shizuoka Tanteidan Convention Report

・第2回関西コンベンション案内
Information About the
2nd Kansai Tanteidan Convention

・第3回折り紙の科学国際会議
3rd International Meeting of Origami
Science Math & Education

ぜんまい折り・2 (無限平織り)

今回も目下筆者が没頭している「ぜんまい折り」です。イキのいいところを見て下さい。ですが、だれでも折れる(はずの)作品がいいという声もあるので、次回からは軌道を修正します。



前回の「ぜんまい折り」の写真を見て、川崎敏和さんの「バラの結晶」に似ているのではないか?という指摘を前川淳さんから受けました。「少なくとも、言及すべきだ」と。

実は「ぜんまい折り」より先にこの折り方から「ばら」(図1)ができて、その時点で川崎さんに実物を送ってチェックしていただいてありました。

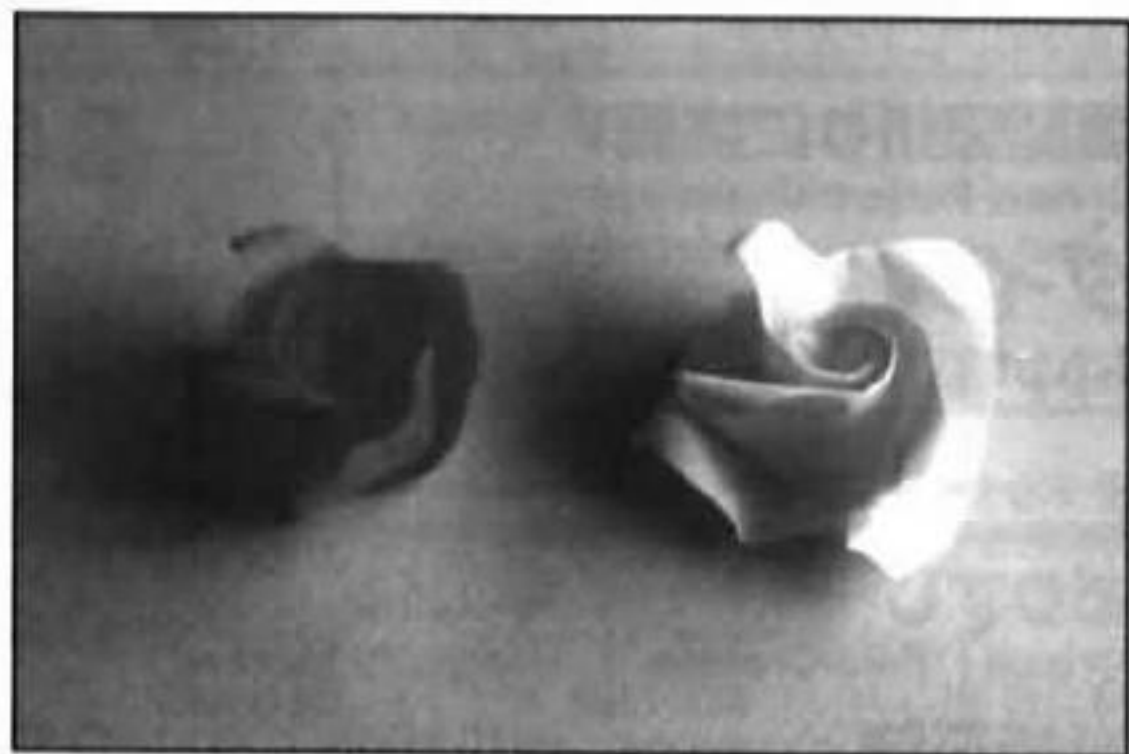
「この折り方はすでにご研究済みでしょうか。もしそうなら、うむむ残念。だけど、やっぱり、私、寝込むなあ!」というような手紙を添えて。

そして「やっていません」と返事をいただき、胸をなでおろし、「ばら」から一連のぜんまい折り作品へと熱中がはじまりました。

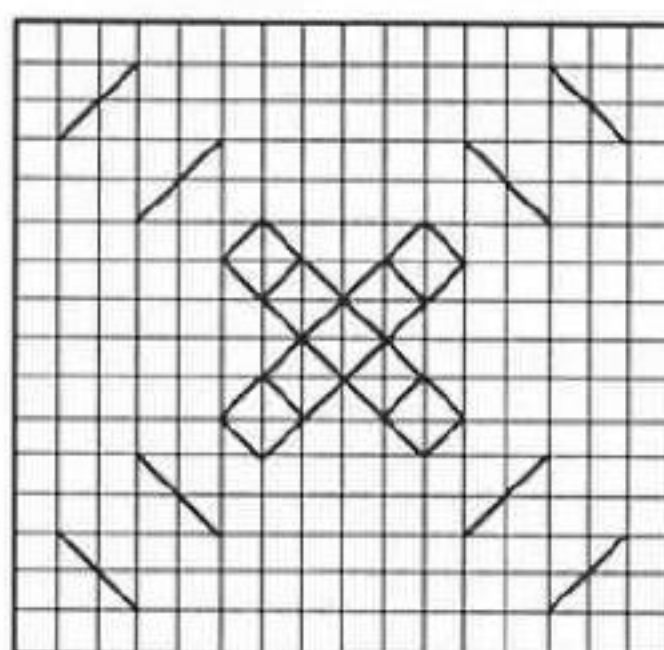
前回はその報告一号だったのですが、それを見ての前川さんの感想には、「おいおい、しっかり見てからいってよ」と思いながらも、正直あわてました。「ぜんまい折り」そのものは川崎さんにお見せしたわけではなかったからです。で、またやりとりがあって、同じものではないことが分かったのですが、ここで川崎さんの「バラの結晶」と「ぜんまい折り」を比べてみるもの意味のあることだと思い、川崎さんにコメントをお願いしたところ、実物を送っていただきました。そこで今回の前半は「ぜんまい折り」開発の足どり、のような体裁になりました。

(図1)

「ぜんまい折り」のもとになった「ばら」



<展開図：表側>



左は外側の一段を折らずにまとめたもの

太線：山線
細線：谷線

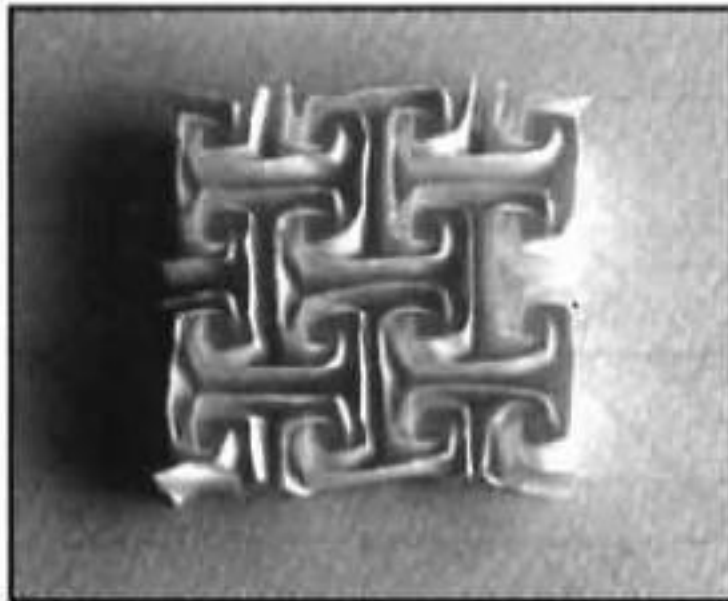
「川崎ローズ」を見ているだけに、筆者にとって完成形は満足できるものではありません。ただ、上から順に折っては開き折っては開きし(前回の「ぜんまい折り」参照)、最後に全体をまとめるとき、人さし指をまん中に立てて、ぐるぐるとねじり折りを始めると、紙が自動的に動いて指に吸い付くように巻き付いてくる感じかなんとも言えずおもしろいという、まあ、それだけの作品でしょう。

その手順のいちいちを書き表わすのはむずかしく、また紙面を割いての価値があるかどうか疑問なので、左に展開図を書きました。

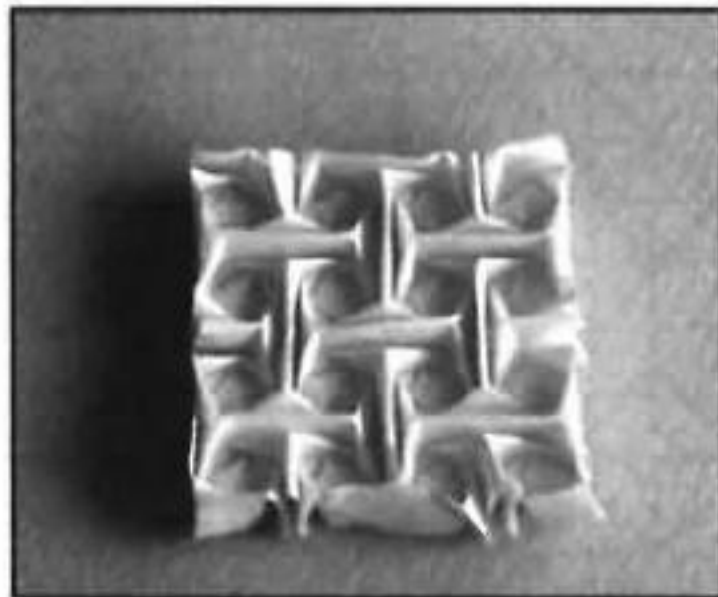
しかし、この「段重ねねじり」を見つけたときは、これは何かたくさんのものを含んでいるぞ、という予感に胸がふくらみました。

「バラの結晶」

15 × 15 cm の紙から折ってあるそうです。
完成形は折りの自然なゆるみを含めて 5 × 5 cm。
きっちり絞めると 4.3 × 4.3 cm ほど。
もっと小さく折れますよ、ということです。



[裏側]



「バラの結晶」はこれで安定した形ですが、「バラぜんまい」は立てたひだを折り畳んで平らにしたときに形が安定します。ひだを立てたとき、両者は似た形に見えます。「ねじり」連続させるという手法が同じためでしょう。

両者の違いは裏から見たときに、よりはっきりします。「バラの結晶」は中空の柱が並んだ凹凸のある裏面で、「バラぜんまい」は織物の縦糸と横糸が交互に並んだような平面です。すべての「ぜんまい折り」は同様な裏面になります。その点から見ても「ぜんまい折り」は藤本修三さんの「平織り」を母体としていることがわかります。(今回の連載にあたって、藤本さんに了解を求めたところ、快く承知していただきました。ここでお礼を申し上げます)

川崎さんの「バラの結晶」は、ここでその折り方を紹介できません。川崎さんご自身の著書の中で発表される日を待つことにします。

また布施の「ぜんまい折り」はパターンが豊富で、いつか著書で発表できたら、と考えています。

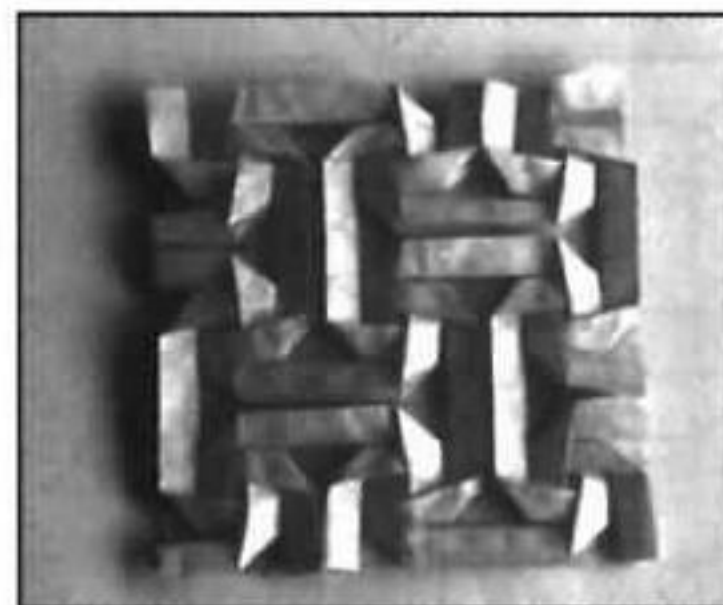
なお「バラぜんまい」は比較のため、「バラの結晶」と似たパターンになるものを選びました。

「バラぜんまい」

36 × 36 cm の紙から折ったもの。
完成形は 12 × 12 cm。
構造が異なるせいでしょう、バラぜんまいは小さく折ることがむずかしく、技術力がないせいもあってか、筆者はまだ小さくは折れません。

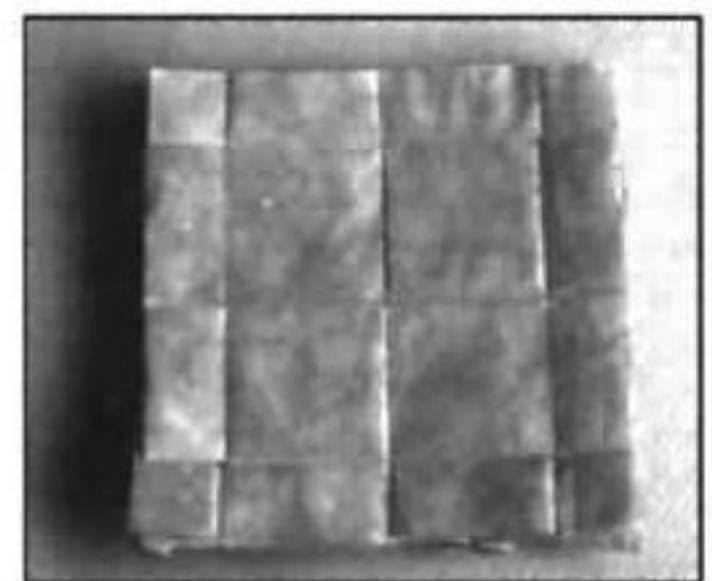


ひだを立てたもの



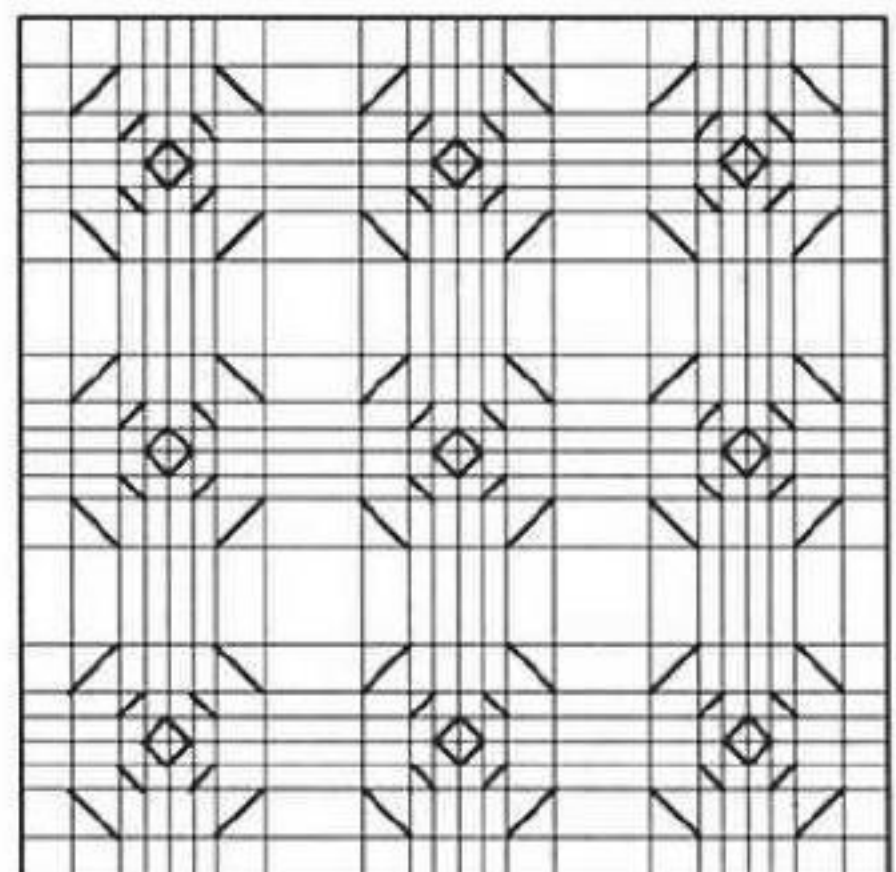
ひだを平らに折ったもの

[裏側]



<展開図：表側>

太線：山線
細線：谷線



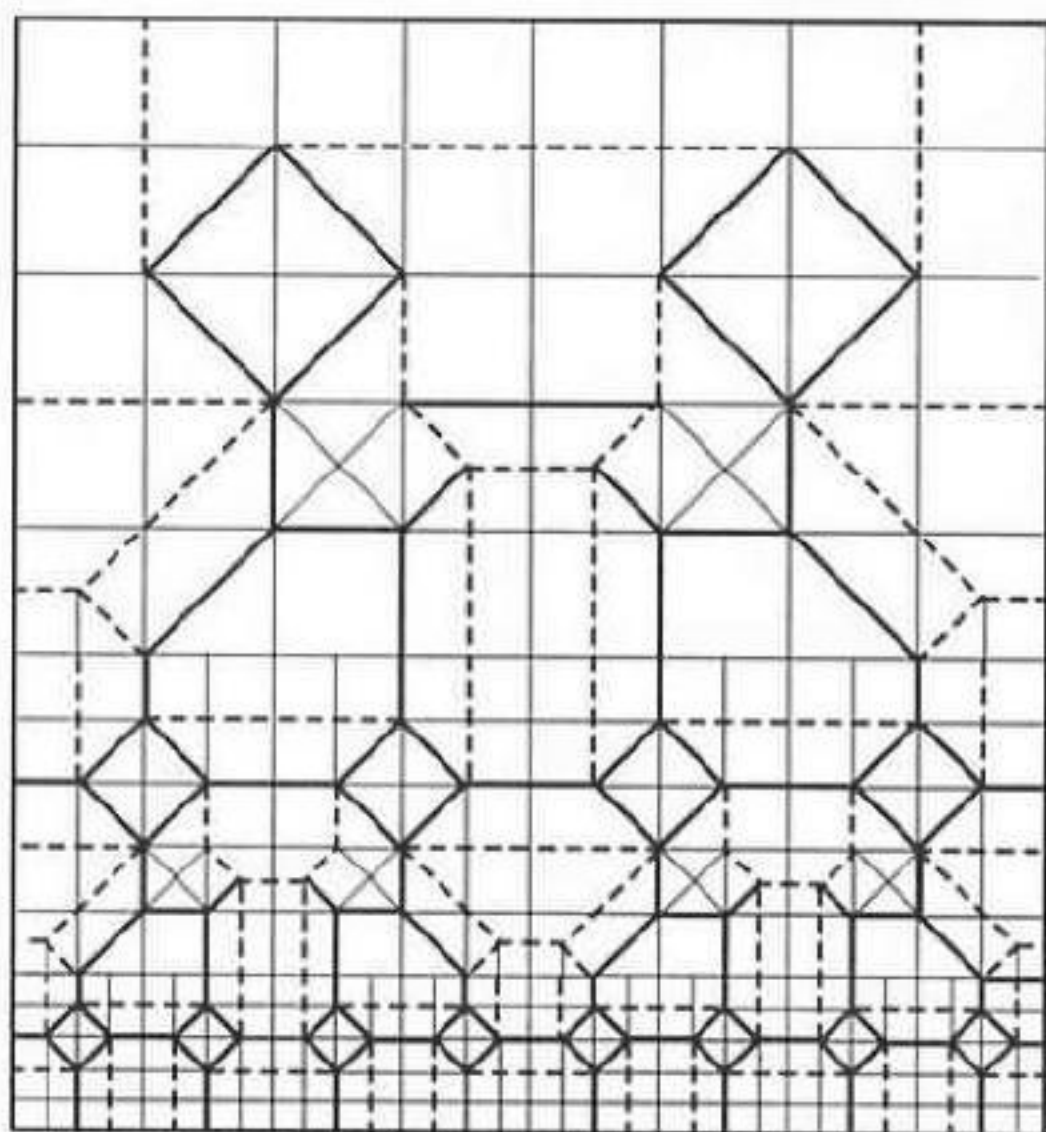
無限平織り

藤本修三さんの「平織り」を半分半分と折って
いける「無限平織り」です。これも先にどなたか
やっていらっしゃったらお知らせください。

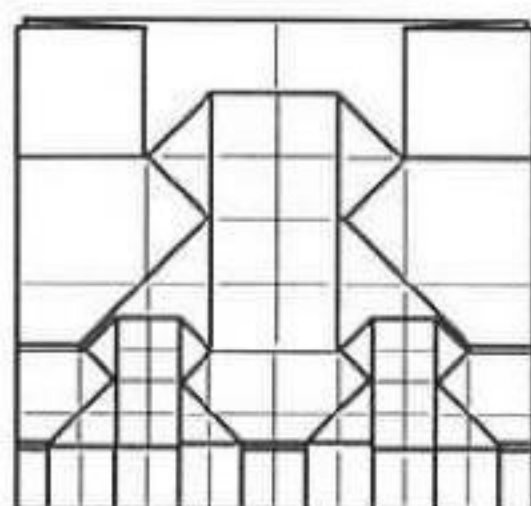
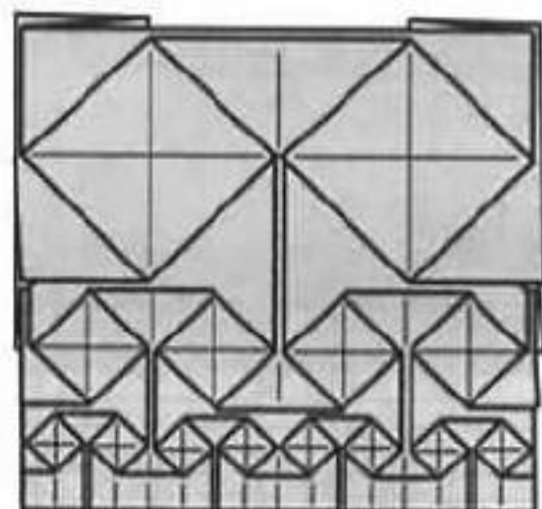
で、おまけとして、無限平織りに「ぜんまい折
り」をほどこしたものを2点紹介します。

なんだか今回の連載は「展開図折りに挑戦」の
コーナーになってしまったような……

「無限平織りー基本」＜展開図：表側＞

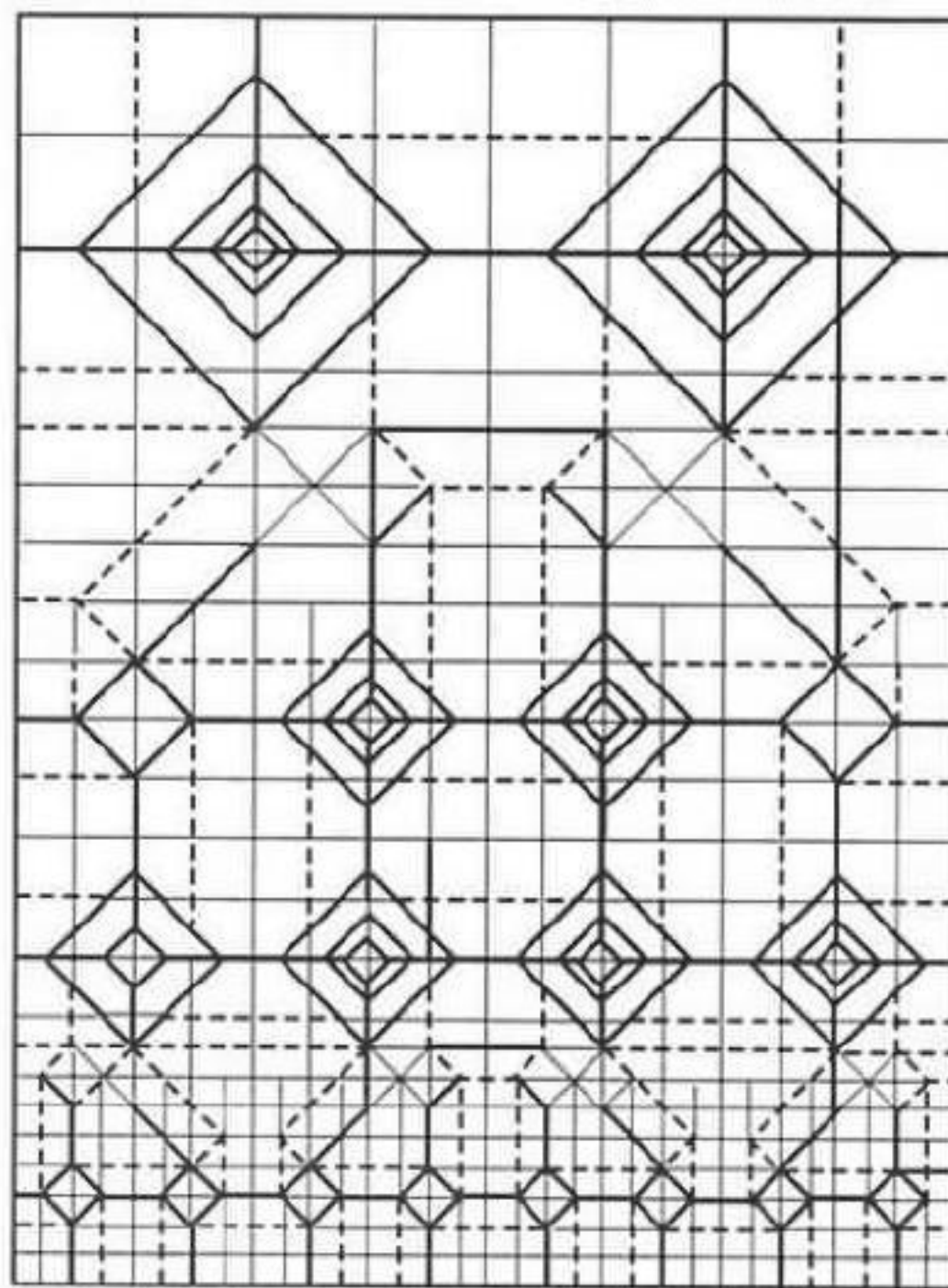


太線：山線、細線：谷線
ただし、大切な谷線は特に点線で示しました

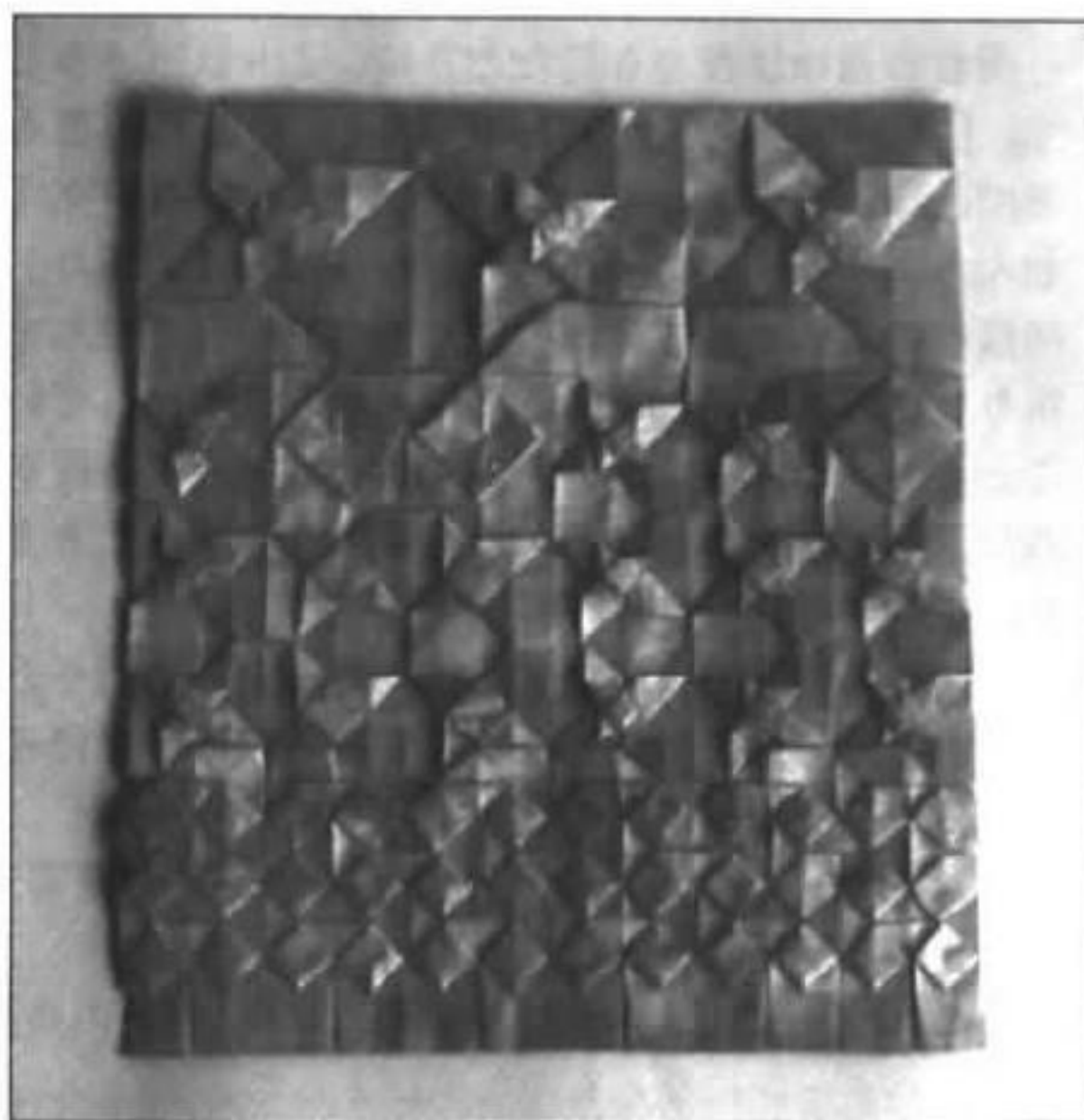


スターの部分は、平織りの四角にぜんまい折
りの折り筋を入れ、ねじる方向をぜんまいと逆
にします。右ページにその部分折りを書きました。

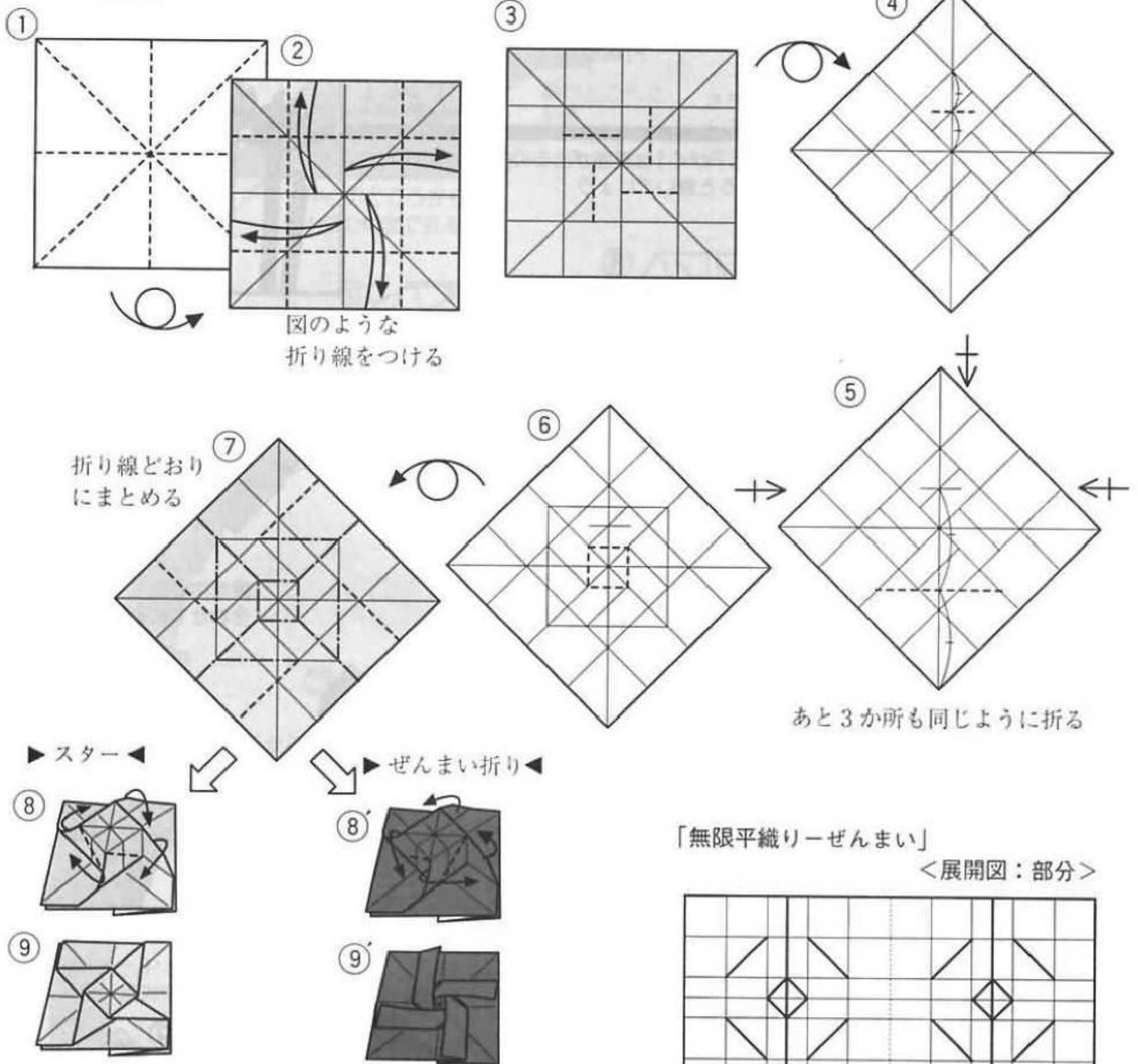
「無限平織りースター」＜展開図：部分＞



裏面はスターもぜんまいも
基本と同じです。

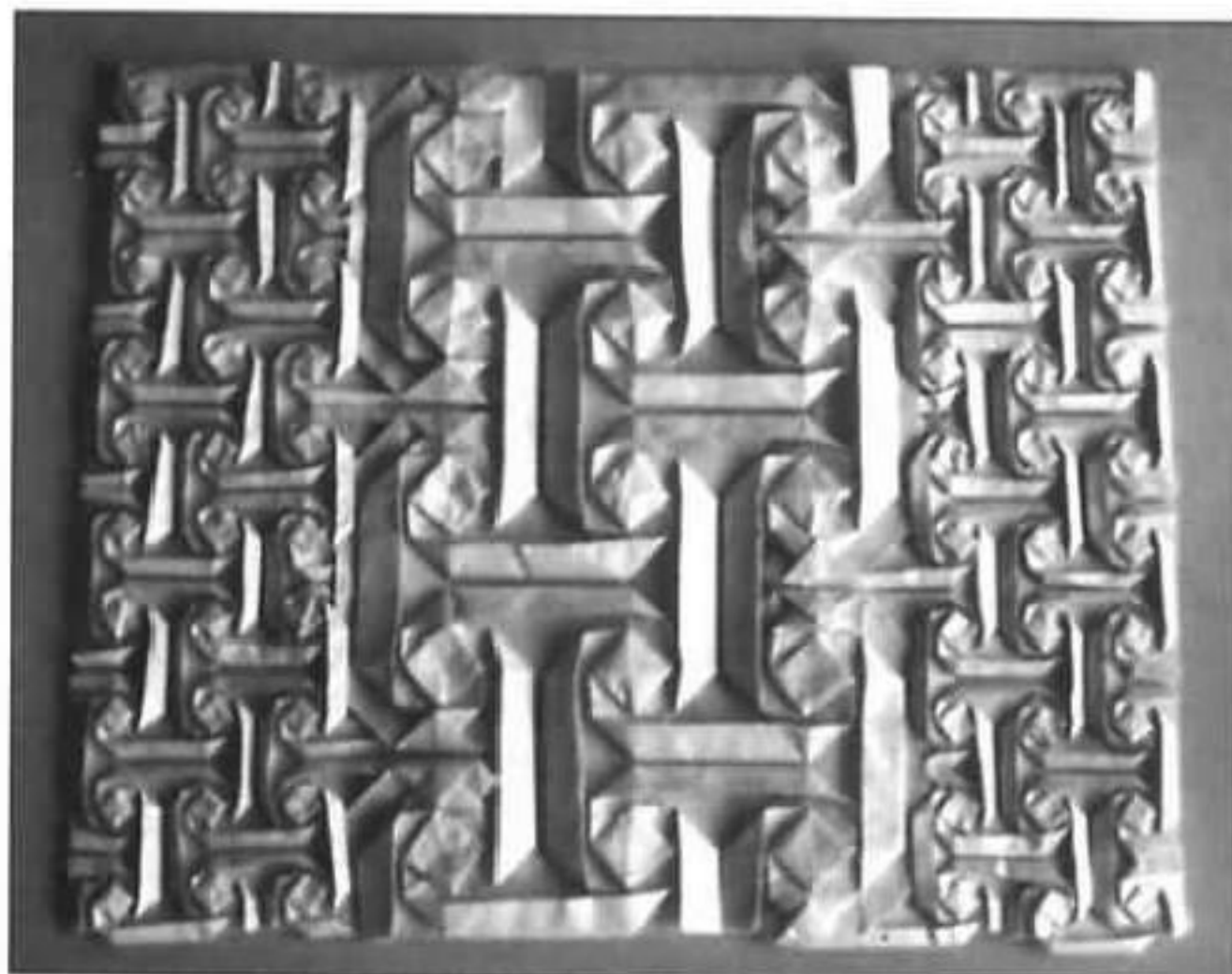
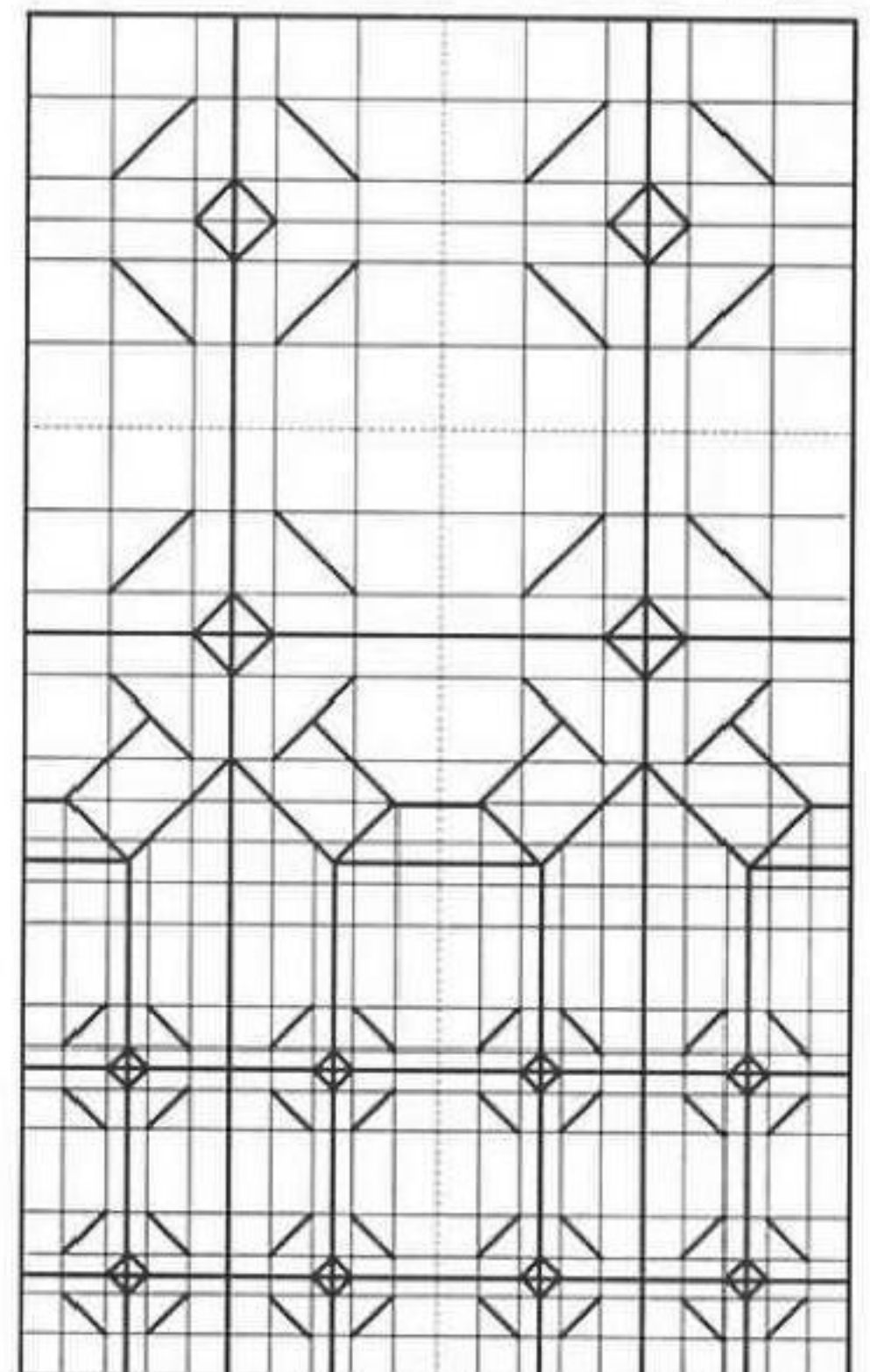


スターの部分折り



「無限平織りーぜんまい」

<展開図：部分>

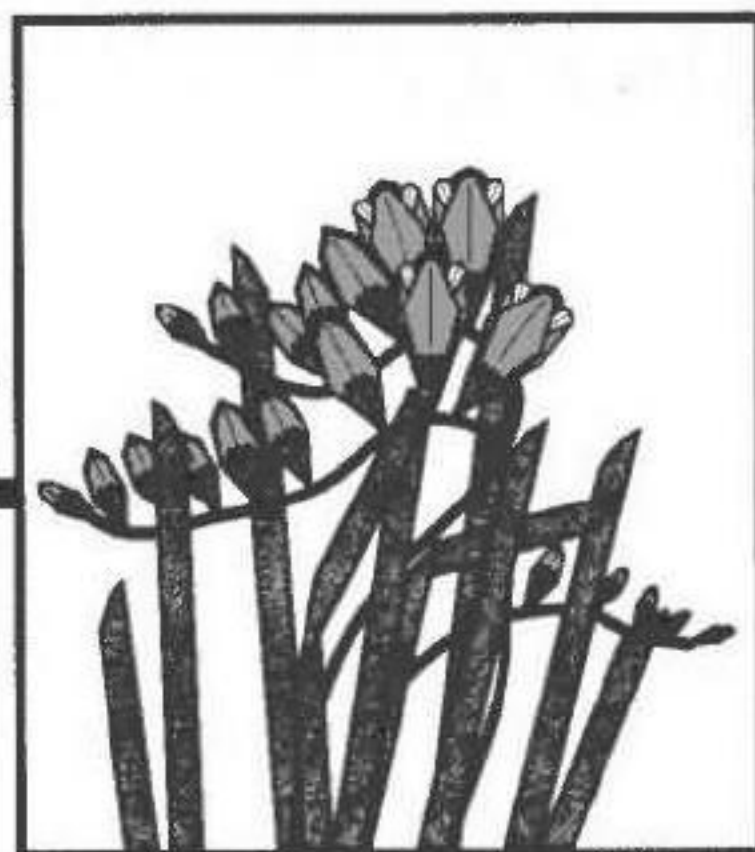


ももこさんの 色紙 百花

フリージア

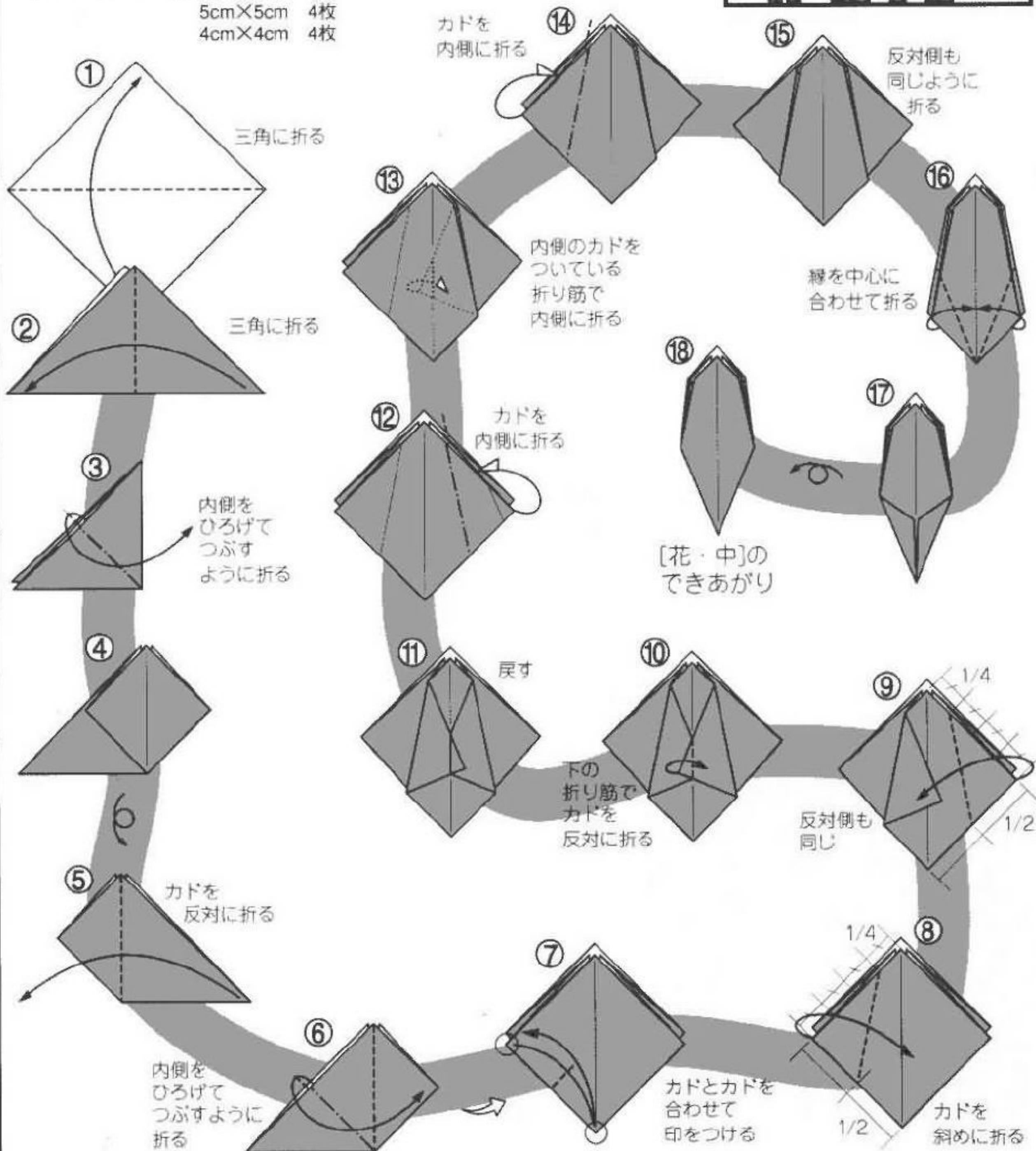
Freesia

田中具子
Tanaka Tomoko



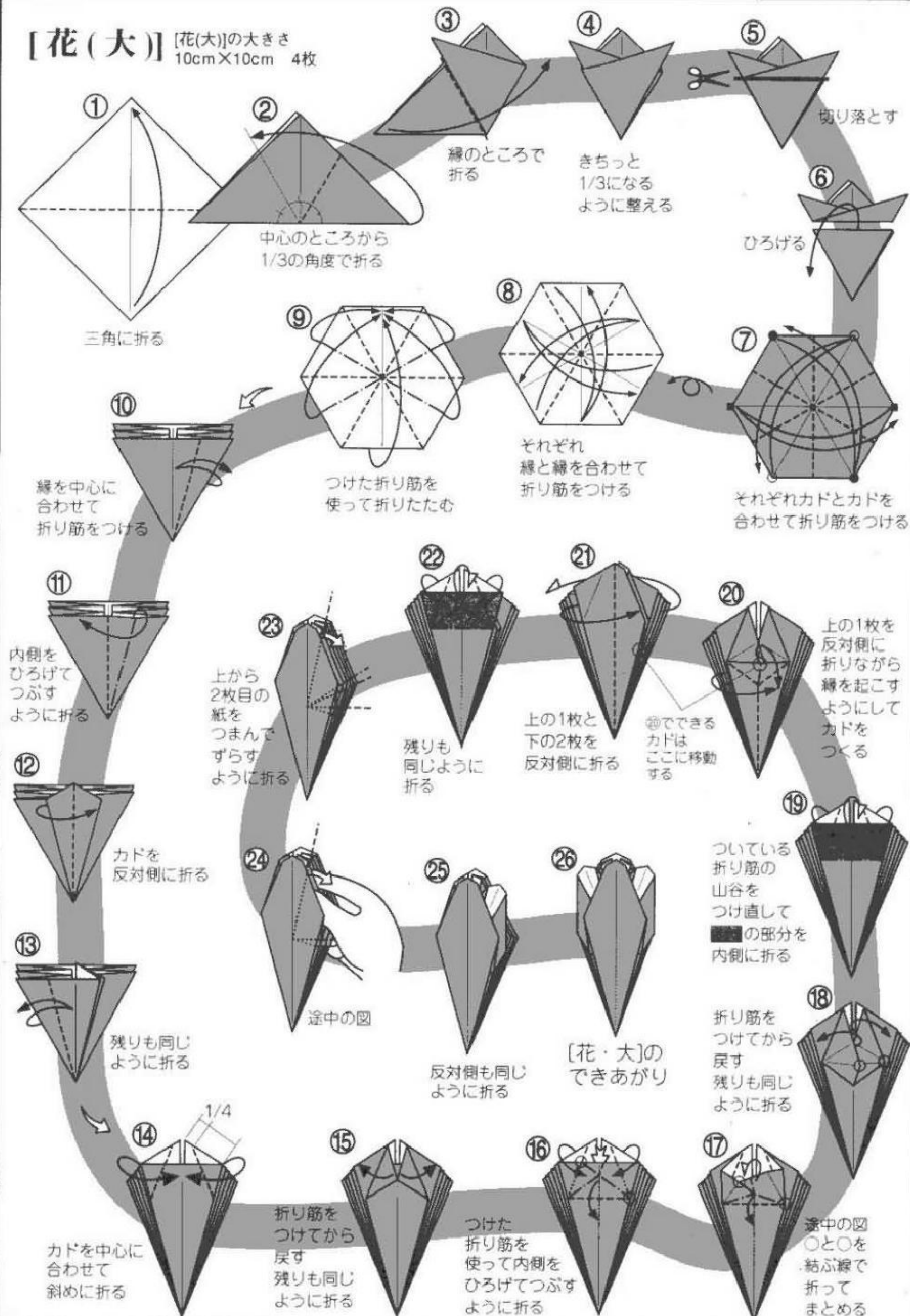
[花]と[がく]は裏面が出るので両面同色の紙で折ると良いでしょう

[花(中)] [花(中)]の大きさ
6cm×6cm 2枚
5cm×5cm 4枚
4cm×4cm 4枚



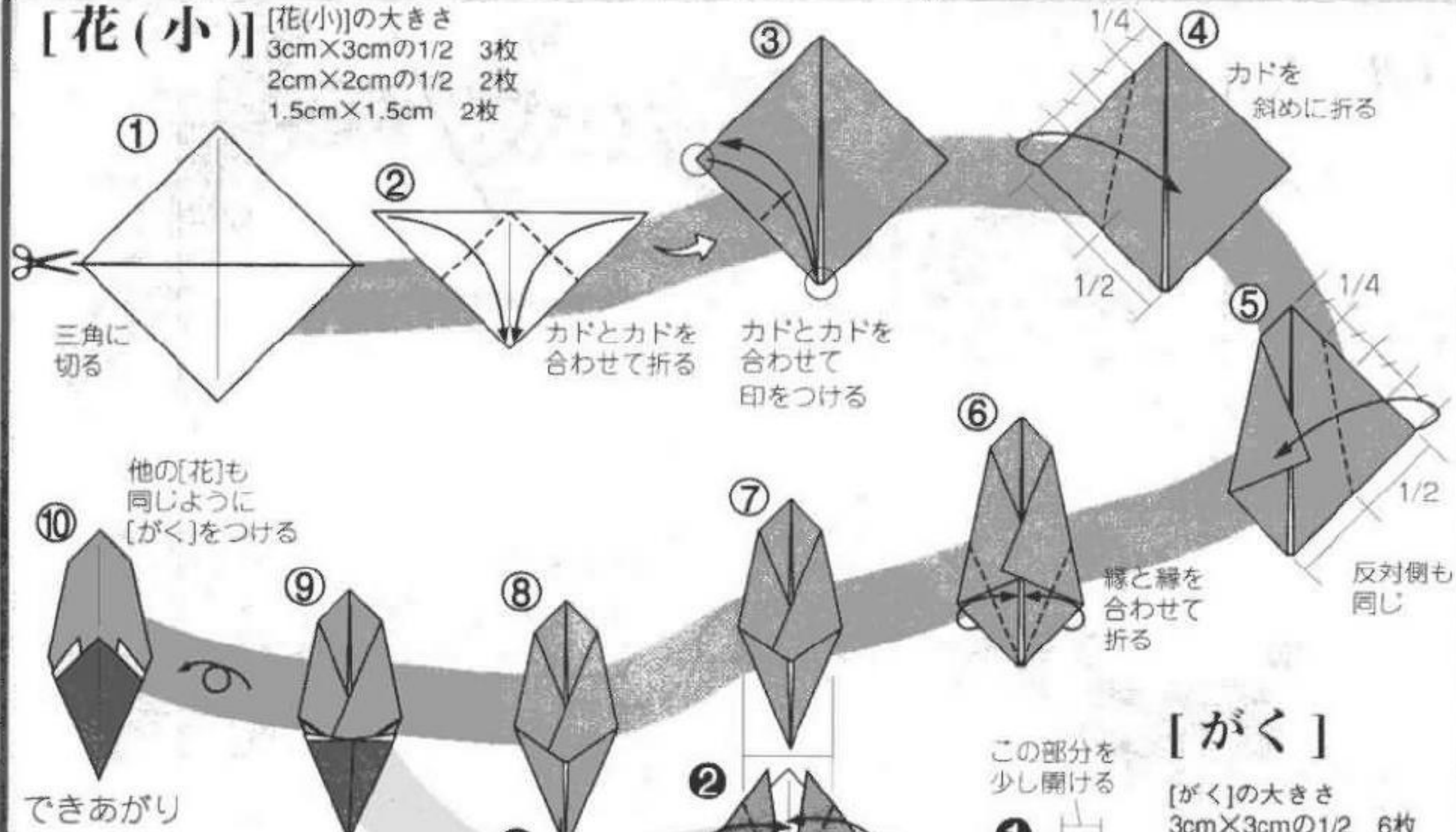
[花(大)]

[花(大)]の大きさ
10cm×10cm 4枚



[花(小)]

[花(小)]の大きさ
3cm×3cmの1/2 3枚
2cm×2cmの1/2 2枚
1.5cm×1.5cm 2枚



[葉]

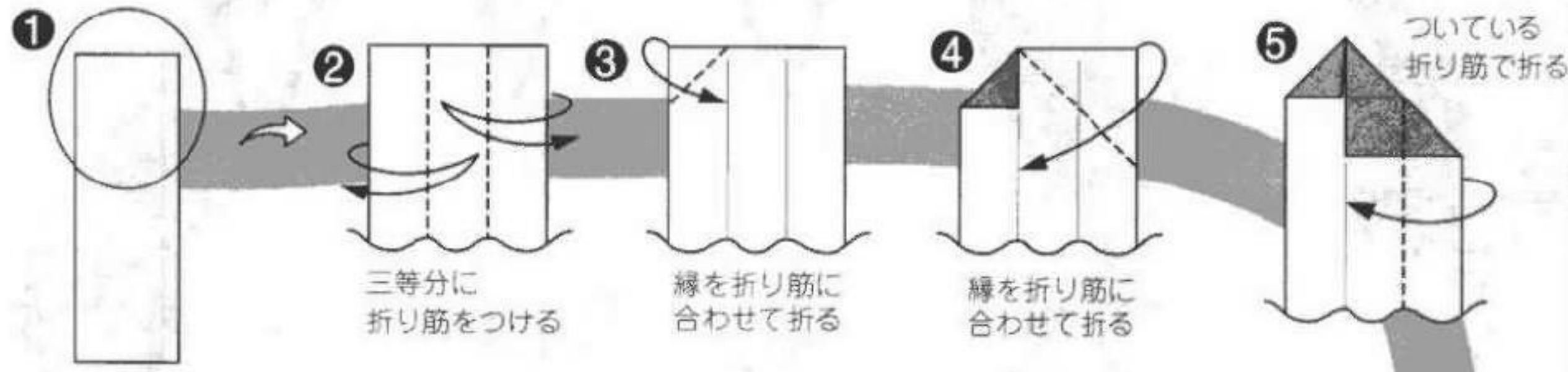
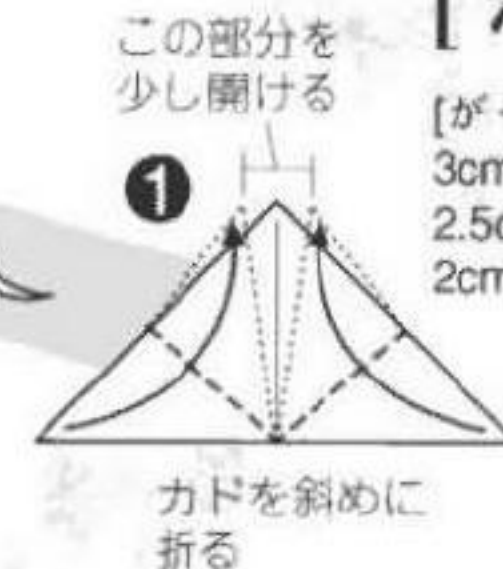
[葉]の大きさ
3cm×22cm 1枚
3cm×20cm 1枚
3cm×17cm 2枚
3cm×17cm 4枚
3cm×17cm 2枚

[花]を[がく]のすき間に差し込む



[がく]

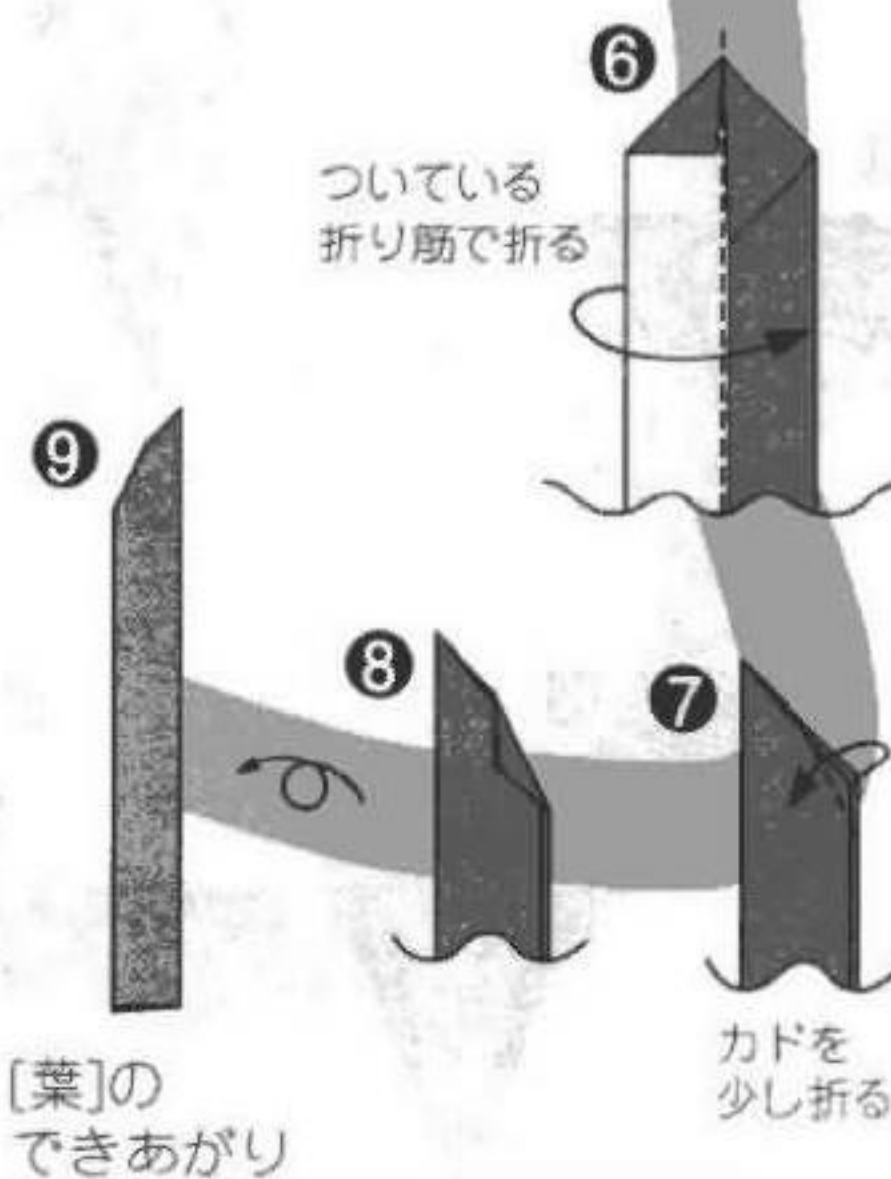
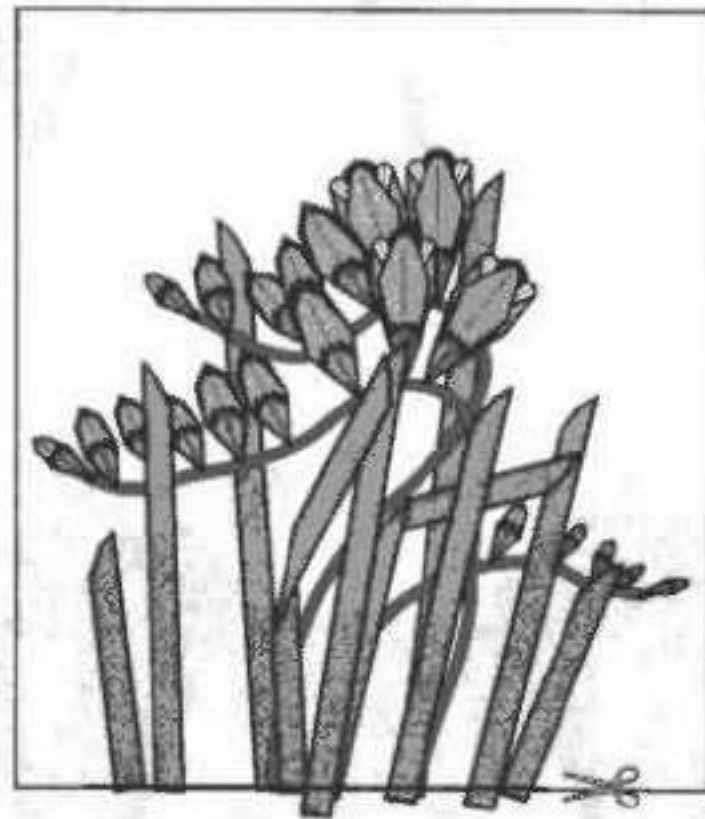
[がく]の大きさ
3cm×3cmの1/2 6枚
2.5cm×2.5cmの1/2 8枚
2cm×2cmの1/2 6枚



[じく]

[じく]の大きさ
1cm×30cm 2枚
1cm×18cm 1枚

[組み方]





中島種二の著作解題

A Bibliographical Introduction of the Works of Nakajima Taneji

高木 智

Takagi Satoshi

かつて笠原邦彦氏が紹介した「おりがみ」の先達の一人である中島種二の著作はあまり知られていないと思われる。従って管見に及んだところを記録しておくのも、あながち無意味とも思えない。さらにご存じの方はご教示いただきたい。

まず、私が最初に知ったのは、荒木京子先生旧蔵の『手工教材 折紙細工』（昭和18年、建設社刊、四六判 袋綴じ、21×15センチ、152ページ）である。表紙は白地に赤で元禄格子縞になっている。

奈良女子高等師範学校教授横井曹一氏（『アタラシイ オリガミト キリガミ』の著者）は、序で、次のように記している。

「中島氏は斯道の権威者で既にこの方面の著述も沢山あります。氏は多年折紙細工について根本的に研究してゐます。

本書はかうした氏の研究発表で、その内容は全く従来の形式を一変した実に目新しい様式のものばかりで、民芸としても、手工材料としても創作味の豊かな研究書であり指導書であります。茲に一文を序して、斯道研究者並に学

校家庭の皆さんにお奨めいたします。」

つまり、本書は「全く従来の形式を一変した」「研究書であり指導書」でもあるというユニークなものである。目次を見ると、

- 1.をりものあそび
- 2.新傾向の折紙細工
- 3.基礎折りの種別
- 4.折紙細工と用紙
- 5.子供の生活と折紙細工
- 6.練習とテスト
- 7.折紙細工と彩色
- 8.新しい作例

となっている。

たとえば2の「新傾向の折紙細工」では、新しい傾向として「1.複式折紙」「2.和紙折紙」「3.自由折紙」「4.修正折紙」「5.組立折紙」等を挙げて、1.は連鶴のような用紙の使い方による複雑な作品、2.は円味を帯びた「ほおずき」や「たこ」を、3.は不規則に紙の四隅を折って優美な平面作品を、4.は伝承作品の一部に切込みを

入れて変化を持たせるだけのもの、5.は二種以上の折紙細工を組合わせて一個の作品を得ようとするもの（「くすだま」やその他の「複合折紙」）というふうの説明している。

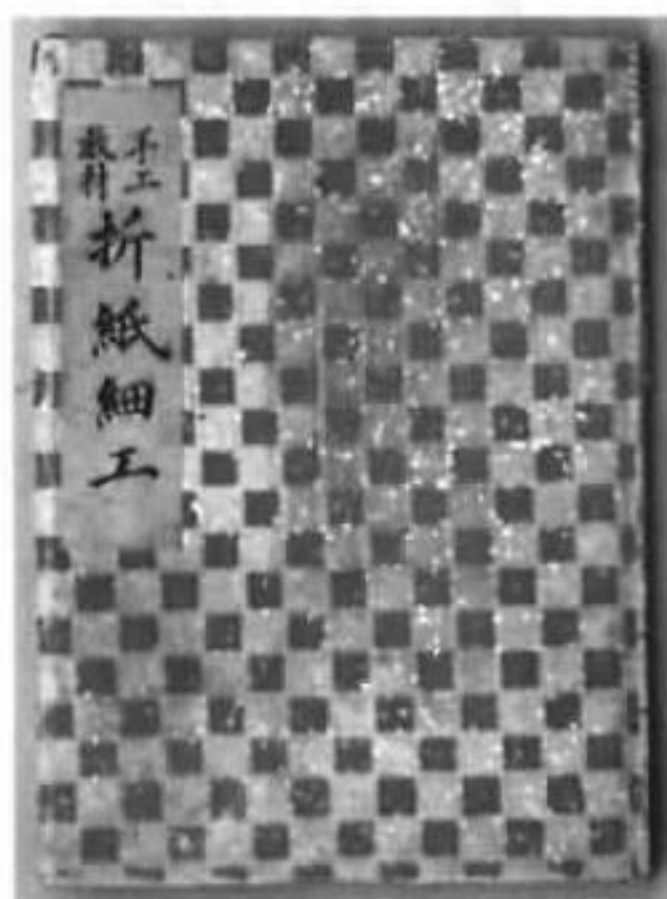
その上で、「本書は昔の折紙細工をすべて分解して、その基礎折りを調べ、同所を発足点として進路を示すこと」「そして折紙細工の鍵が、用紙の正方形のもつ四周の辺と四隅の直角にあることを知らしめ、その美術としての価値が「単純化」された形態美にあること」を述べている。さらに、「折紙細工が単純に見え、変化に乏しく見えるのは、「直線から出来てゐる」「角度が一定してゐる」「シンメトリに出来てゐる」といった諸点によるのであって、「この平凡こそ折紙細工の生命とする「単純の美観」である」と喝破している。

3.の「基礎折りの種別」には12種の基本形が記され、それぞれに作例が記されるが、それらはごくシンプルでありながら、立体の机や椅子だとかコンドルなど、意外性に富んだ作品である。

さらに8.の「新しい作例」には、動物たちのお面や指人形、ごくわずかな切込みを加えて豊かな表情を持たせた「たこ」「つばめ」「かかし」など、さらにユニークな建物や家具類に至るまで、80点の創作作品が発表されている。なお本書は夙（つと）に笠原氏が、また本誌63号で岡村昌夫氏が記述するところである。

ところで、種二は折紙研究の集大成である本書を出版する前に幾つかの著述を行っている。

『新折紙細工参考書』上中下3巻（昭和7年、京都市東枝書店刊）



『手工教材 折紙細工』表紙



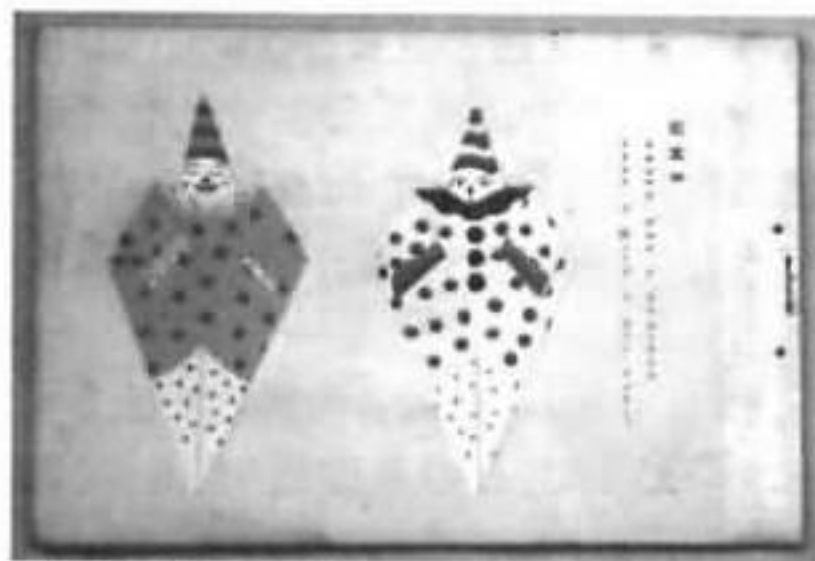
『新折紙細工参考書』表紙

中島種二の著作解題

A Bibliographical Introduction of the Works of
Nakajima Taneji

高木 智

Takagi Satoshi



「新折紙細工参考書・上」 一頁

15×22センチ、ボール紙、横長、本文20～22ページ、1冊に11～12点、奇数ページに完成品の実物、もしくは多色刷図を、偶数ページに折り方と解説を配している。上巻には「ピエロ」「お雛さま」「人形」「山羊(鹿、駱駝=らくだ)」「浦島太郎」「亀」「七面鳥」「兎の帽子」「歩む鶴、坐わる鶴」「孔雀」「つばめ」「お多福、福助」が、中巻には、「青鬼、赤鬼」「立雛」「白鳥」「案山子」「めでた猿」「果ごもり鶴」「海老」「烏賊」「坐わる鹿」「雉子」がある。

なお、家蔵は上中2冊で、下巻は未見である。

『折雛細工手ほどき』(昭和7年、京都市芸艸堂刊)

20×12センチ、表紙は鳥の子紙に木版多色刷り、本文上質厚手16ページ、定

価2円

著者はその内容を、「新作一枚雛数種を選び」と表現している。それらのタイトルには、「どう見ても一枚雛とは思へないほど巧みな 平安雛」「雛壇に飾るに適はしい美しい 奈良折雛」「幼き方々の雛遊びに恰度よろしき 揃ひ折雛」「上品な式紙向きの 紫紅雛」「古風な立古雛」「折り方の殊に趣味深き 京折雛」「立雛姿の珍らしい 鬘斗雛」と記している。

『あたらしい・をりがみざいく』上中下3巻(昭和10年、京都市河原書店刊)

19.5×22.5センチ、厚手、横長、20ページ、表紙は全面赤に墨刷り一色。本書は読者を意識してか各ページ(作品)毎に全部カタカナ、ほぼひらかな、総ルビ、ルビなし等書き分けている。本文は墨刷りだが、上辺に細く格子状に緑(上巻)、朱(中巻)など1色を掛け、その色で随所にアクセントを施している。

内容は、上巻に「はるこま」「あしのあるつる」「うぐひす」「獅子」「海老」「カウモリ」「変り折紙(鬼とお多福)」「ヤッコサン」「うさぎ」「兎帽子」「おたふく」「山羊」「ウキンド・ミル」「ポスト」「たいぐるま」「かあいい住宅」「オランダ船」「鳩時計」

「おひなさま」「かつぎ人形」、中巻に、「こひのぼり」「トラ」「ながかぶと」「つものながいかぶと」「しをり」「尾をひろげた孔雀」「インコ」「折り方のやさしいかうもり」「ヒュッテ」「七夕の切紙たこ」「折紙のたこ」「金魚」「餅搗き兎」「黒鳥」「海ノ魚」「テント」「キリン」「ハトボッポ」「ねこ」「つばめ」。下巻に「お山の狐」「カワイイピエロ」「タカラブネ」「狸公の面」「レター・バード」「案山子と雀」「田舎の家」「サンタ翁」「天狗面」「カメサン」「あいのし」「コトリ」「椅子」「坐つてゐる鹿」「脚のある鹿」「ラットセイ」「支那面」「鬼の面」「黒猫」「フラワーバスケット」の折り図と完成図が記されている。

『をりがみざいく』(昭和13年、京都市河原書店刊、四六判か。本文90ページ)

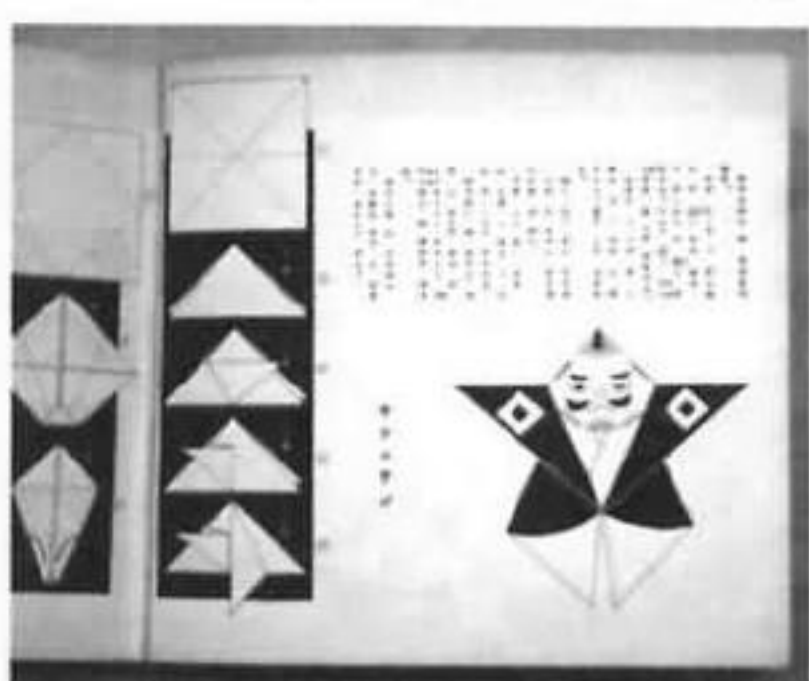
京都府立資料館所蔵。手元にあるコピーによれば、目次は、「二枚重ねの美しい折紙細工」「折紙細工と 新しい工夫」「昔なつかしい いろいろの折紙細工」「可愛い指芝居 折紙九種」「机の上に立ついろいろの「家」の折り方」「折紙を上手に手際よく折る法」「巧妙な鉄の使い方」「新しい趣味の折紙細工」「鳥類の折り方いろいろ」「おもしろい折紙面いろいろ」「その他いろいろの折紙



「折雛細工手ほどき」 巻き表紙



「あたらしい・をりがみざいく」 上巻表紙



「あたらしい・をりがみざいく」 上巻本文

○高木 智(たかぎ さとし)=昭和10年6月10日京都市生まれ。京都大学教育学部卒。昭和42年頃荒木京子に師事折り紙を始め。現在日本折紙協会理事。著書に『古典に見る折り紙』他実用書多数。



「創作をりかみ実物集」 第一輯表紙

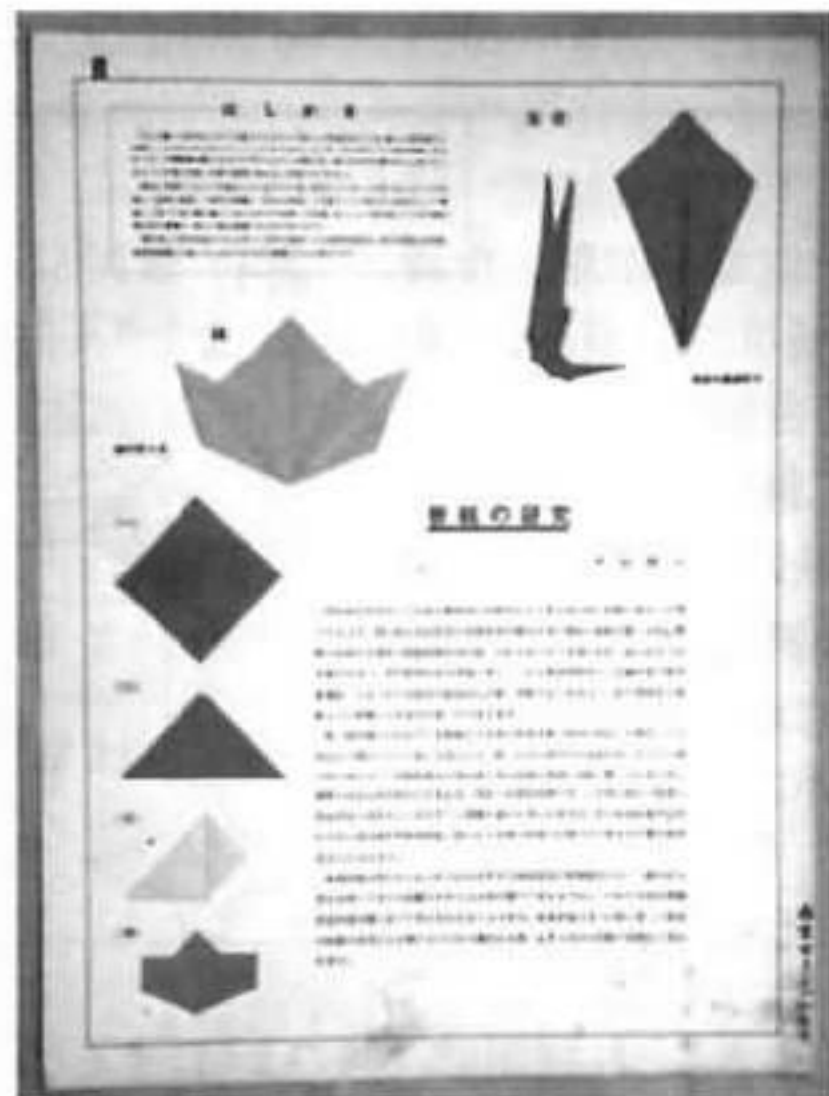
細工」および「索引」「季節別索引」からなっている。

『創作をりかみ実物集』全六輯(昭和14~15年、大阪保育研究社刊)

38×28.5センチの厚手の用紙に「折紙の研究」を記し、1紙ごとに2、3点の実作を貼込んでいる。5、6枚を1輯とし、全6輯、32枚からなり、都合77点の作品(類似作や別案を含む)を紹介している。

「はしがき」には、「本書は作例集であると同時に研究者のよい手引書であり、折紙の起源やその発達を語る固有民芸の解説書として編輯しました。第二輯よりは極く平易に基礎折の種別と古今の作例について詳しくお話し申し上げ度いと考へます。著者」と述べている。

「折紙の研究」は全紙を通じて記している。第一輯には折紙の発祥から一気に創作論にまで及び、第二輯では彩色について、その可否を論ずるのではなく、一点ごとに其の適否を論ずべきだとする。彼の作品の場合、同じ折りを、彩



「創作をりかみ実物集」 本文
第一輯第一頁

色によって、たとえば「犬」を「虎」と、他の作品に見立て変えることがイージーに行われる。

第三輯では、折紙には簡単な8の基礎折りがあり、基礎折りを知ることは創作への近道であるとする。

第四輯では折紙と季節との関係に言及し、本来折紙は汗をかく夏向きではないとしつつも、特に夏季の折紙細工として、昆虫や魚類をあげている。また、折紙は「美術」であることを力説し、正方形の用紙がもたらせる直角と、その2分の1、4分の1を基調としたシンプルさとシンメトリーが、その美を形成するとする。

第五輯では用紙を論じ、和紙に刷毛染めを最上とし、ついで模造紙に着色を認め、更紙着色は不適とする。しかし、家など立体にするときは画紙を使うこともある。大きさは3寸(9センチ)、4寸(12センチ)、5寸(15センチ)、6寸(18センチ)

程度を基準として、お面などには1尺8寸(54センチ)ほどの紙も使う。しかし、あくまで淡雅な民族美術であるから、作ることを楽しむべきであるとしている。

最後に第六輯において、「新興作品」の全貌を知らせるとして、当時の作家たちの作品を列挙している。そこには、竹川氏の「松茸」、上田氏の「あねさま」、「孔雀」と「柱時計」、篠原氏の「鹿」、山田氏の「洪団扇」「魚」、高木氏の「飛行機」、吉村氏の「扁額」と「ホホヅキ」粟津氏の「ダイビング」などをあげている。

最後に、中島氏自身が『創作をりかみ実物集』に記している著書を挙げて稿を終える。

『創作折紙集』(昭和5年 芸艸堂刊)
『折紙細工参考書』(昭和6年 東枝書店刊)

『彩色折紙細工の教授用掛軸24図』(昭和7年 日本出版(株)刊)

横井曹一氏校閲、小学校低学年手工科用

『児童折紙書』上中下3巻、(昭和10年河原書店刊)

赤い表紙の、挿絵の多い図解本位の児童書、表紙裏に英文解説を付す。(['あたらしいをりがみざいく']に同じ)

また、創作折紙を発表した新聞、雑誌には次のような物がある。「少女世界」(博文館)、「婦人世界」(実業の日本社)、「主婦の友」(主婦の友社)、「アサヒグラフ」(東京朝日新聞社)、「コドモアサヒ」(大阪朝日新聞社)、「コドモテキスト」(日本放送協会)、「コドモノクニ」(東京社)

なお、横井曹一や大竹拙三の著作中の「新しい折り紙細工」はすべて自分の作品であると明言している。



○川崎敏和=1955年11月26日生まれ。九州大学理学部数学科卒業。専門は代数的整数論。博士課程2年より研究テーマを折り紙の幾何学に変更。佐世保工業高等専門学校基礎専門科目助教授。



筆者近況。家庭菜園のナスと共に。一苗から大きなスイカ3個収穫しました。

川崎敏和

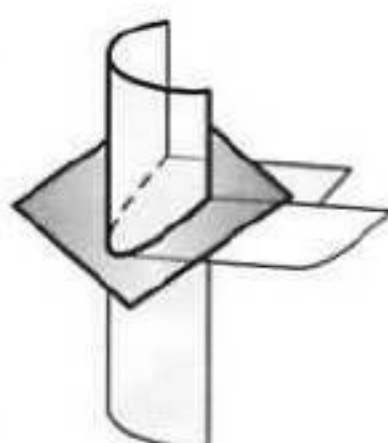
Kawasaki Toshikazu

第4回 — 一曲線折り(2) — A Monocurve Folding 2

これまでのあらすじ

休講で間が空いたので復習します。一つの曲線に沿った折り(一曲線折り)の話をしていました。一曲線折りは折り目となる曲線と曲面からなりますが、紙を曲げてできる曲面は、捻りや球面的丸みが許されないため、柱面と錐面の二種類に限られます。実際に一曲線折りしてみると、たいてい鏡映により作られたものになります(図1)。また折られた部分は元と鏡映対称(合同)です。したがって柱柱型か錐錐型一曲線折りにしかありません。では錐柱型の一曲線折りは存在するのでしょうか? またどうすれば作ることができるのでしょうか?

[図1]



◆ 折れ線近似 ◆

前回、柱柱型を変形して錐柱型を作ろうとしました(図2→図3)。しかし曲面はふにゃふにゃして形が不安定なうえ母線が見えないので、図3の曲面が錐面になる確証が得られませんでした。

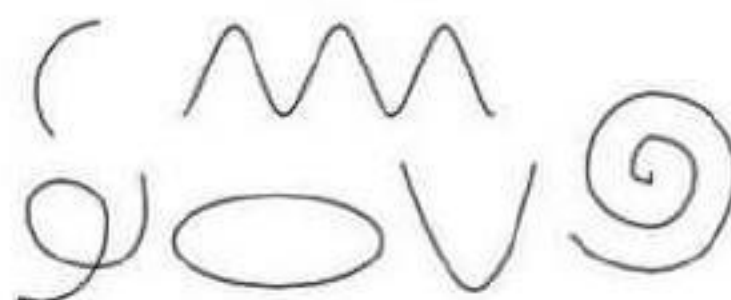
曲線(図4)の代わりに、折れ線(図5)を折ります。曲線の場合と違って、折れ線は単独で折ることができません。折り目を追加しなくてはなりません。例えば図6のよう

にすると柱柱型に、図7のようにすると錐柱型になります。そして追加した折り目は母線になっています。節を増やせば折れ線は元の曲線に近づき、錐柱型一曲線折りが得られます(図8→図10→図11)。図11ではよくわかりませんが、図12のように細くして真横から見ると、折り目が一平面に納まらないことが観察でき(図13)、鏡映でできる一曲線折りとは別物であることがわかります(第3回命題5)。

◆ ループは折れるか? ◆

曲面から曲線に目を移しましょう。曲線は図14のように色々あります。円弧、放物線、サインカーブは一曲線折りできます。折って試してみてください。円はどうでしょう。

[図14]



やってみればわかりますが、うまく折れません。円は絶対に折れないのでしょうか?

楕円は円と同じ、渦巻きは円以上に折りにくそうです。交叉する場合は手も足もでません。

[図15]

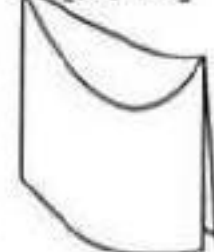


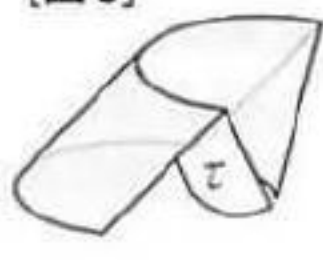
図15はパッケージなどに使われる構造で、ひらくと図16になります。図16に似た図17も折れます。でもこれで「楕円も折れる」と早合点してはいけません。図18が折れないからです。図19は図17の

[図2]



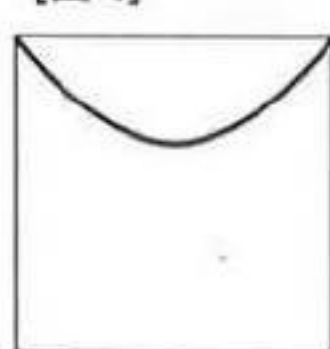
柱柱型

[図3]

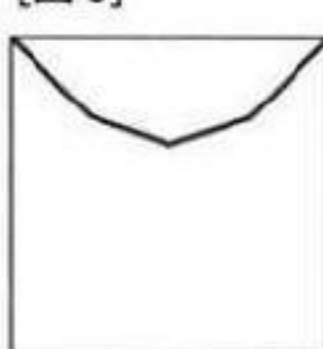


錐柱型?

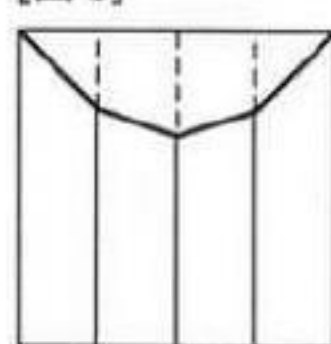
[図4]



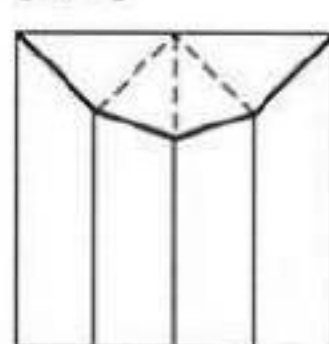
[図5]



[図6]



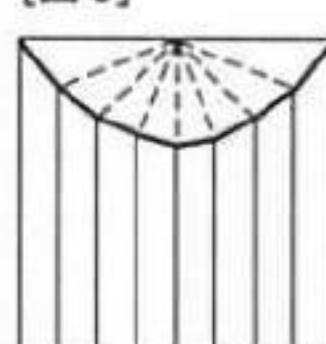
[図7]



[図8]



[図9]



[図10]



[図11]

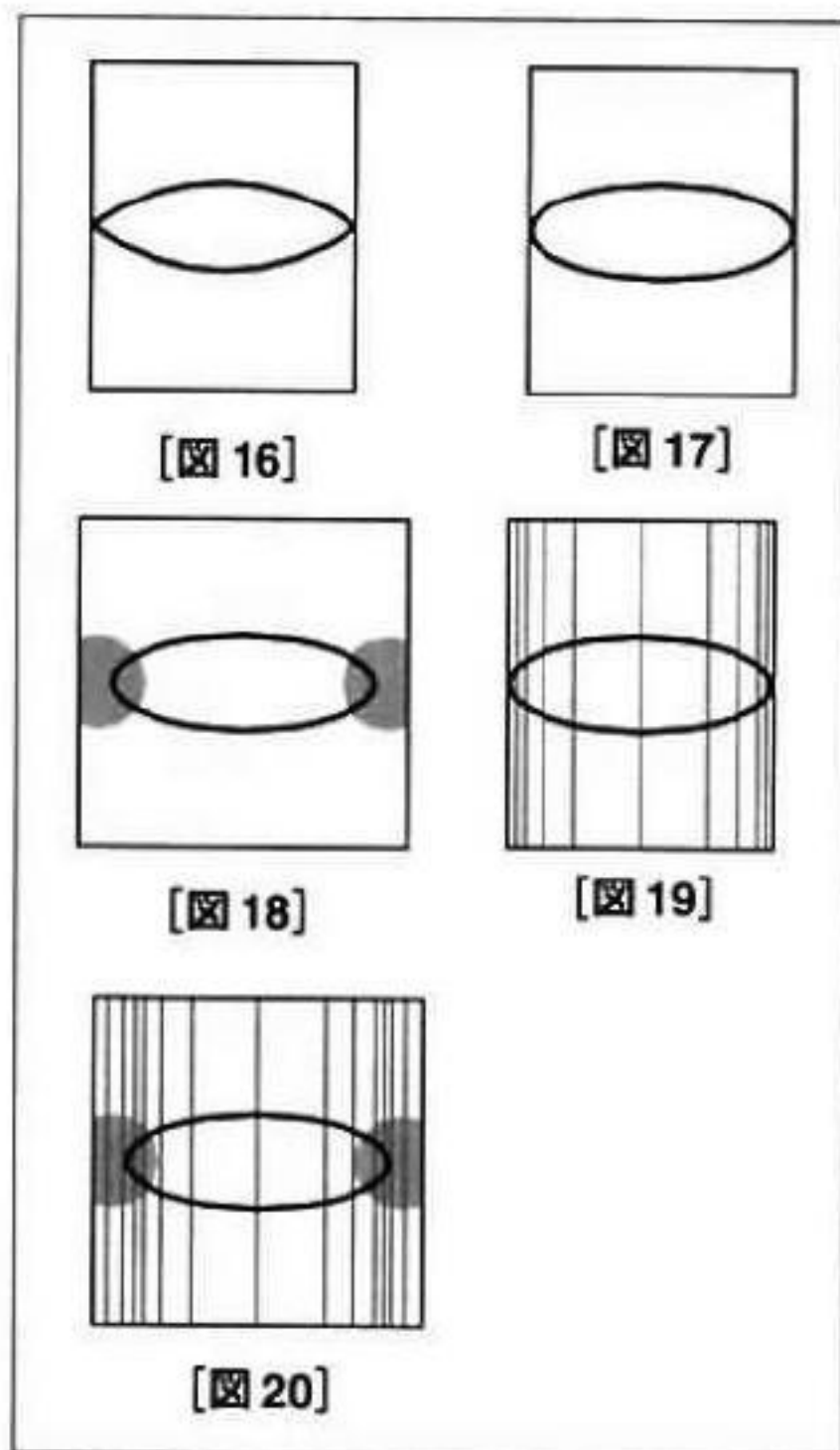


[図12]



[図13]





母線です。図15をまねて図18を折ろうとすると、影の部分(図20)にも母線をつけないければなりません。しかしこの部分は、図16でわかるように、折ったあとで折れ曲がらなければなりません。でもこの部分の母線は折れ目曲線と出会っていないので折れ曲がれません。矛盾です。したがって図18は図15のように折ることができません。そこで、

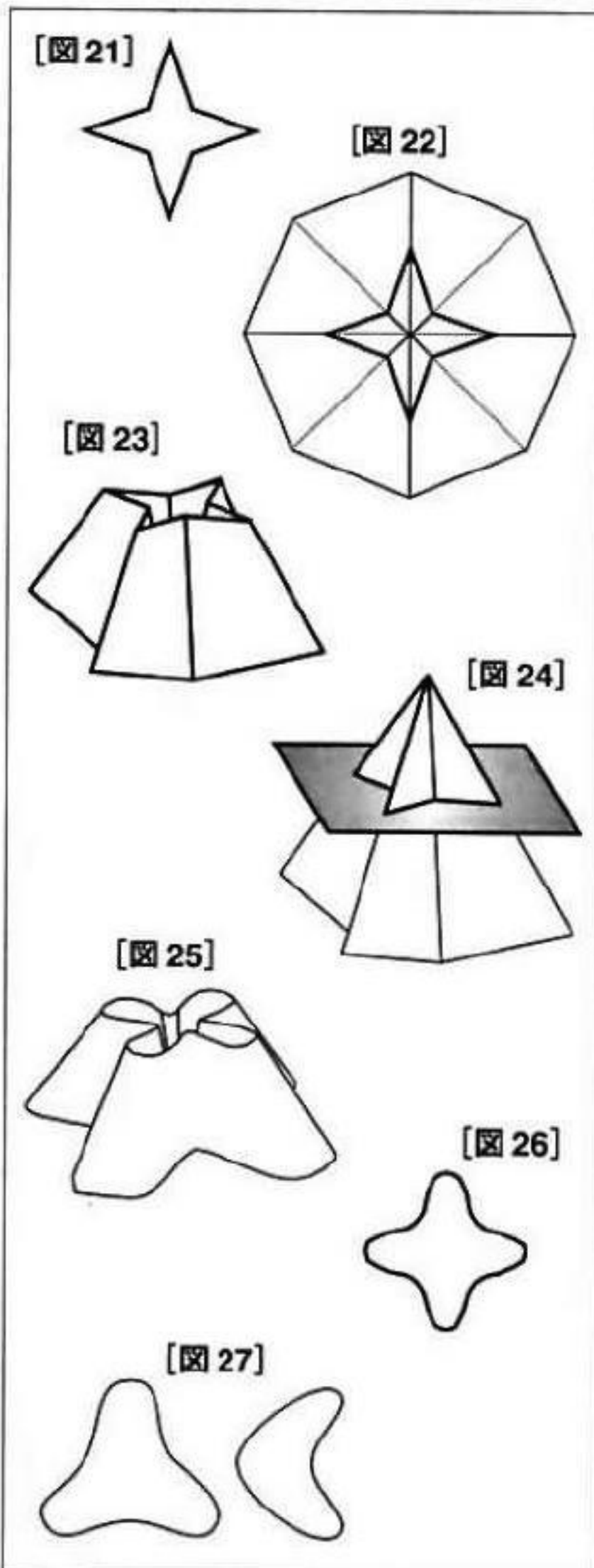
予想 ループ状の曲線(閉曲線という)に沿った一曲線折りは不可能。

◆ ループを折る ◆

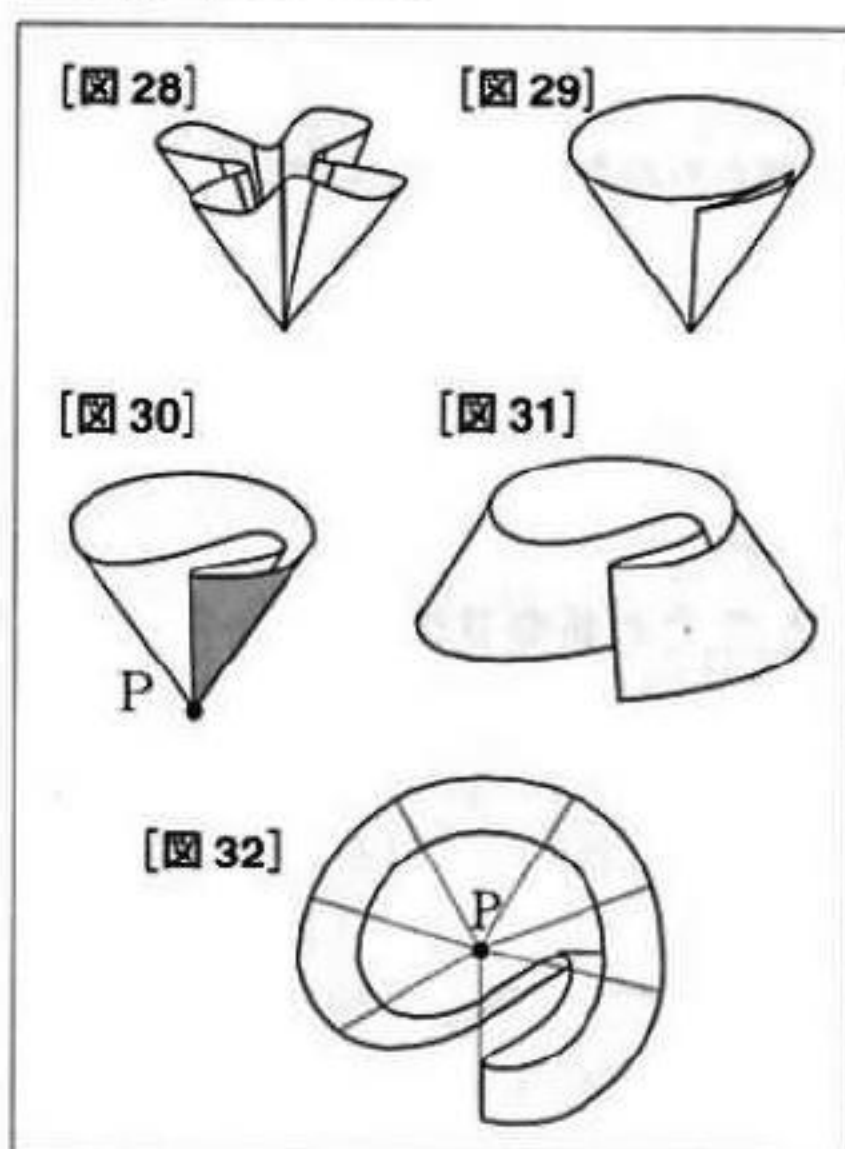
図21の星型折れ線は、図22のようにすれば折れます(図23)。これは星型八角錐の鏡映になっています(図24)。図

23を滑らかにすると図25のようになります。ひろげると、折り目が閉曲線になっていることがわかります(図26)。先の予想は間違いでした。折れる閉曲線は他にもあります(図27)。

図28は図25の凹んだ部分で、錐面になっています。これを真似て円錐を作れば円に沿った一曲線折りができるかもしれません。普通に錐面を作ると折り目に



カドができます(図29)。カドをとるために図30のようにします。これを図31にはめ込めば円に沿った一曲線折りが得られると言いたいところですが、これは誤りです。錐面の頂点Pが中央付近にあるため(図32)、図30を図31にはめ込むと、濃い部分(点Pをカドに持つ)が内側の2曲面を貫通して紙が破れます。図29でも事情は同じです。



◆ まとめ ◆

錐柱型一曲線折り、閉じた曲線に沿った一曲線が得られました。しかし具体例を示したに過ぎません。また円に沿った一曲線折りは未発見です。もし折れないなら、折れないことを証明しなければなりません。渦巻きや交叉する曲線も折れていません。折れる閉曲線には凹みがありますが、必ず凹まなくてはならないのでしょうか？ 一曲線折りでは問題が解決する度に、何倍もの新たな問題が生じるようです。尽きない疑問を与えてくれる問題っていいですね！

おりがみ庵

Origami-an : A Philological Survey of Origami

第5回

読み歩き

Okamura Masao
岡村 昌夫

『折紙教本 前編』(つづき)

内山道郎(光弘)述 日本手芸美術協会発行、1931年

---光弘式基本形状の種類---

本書によると、光弘式折紙の特徴は「一言にして尽すならば、その第一須要条件は、用紙の適所に鋏を利用するといふことであります。」それは「折紙の有する本質を損はない様に鋏を利用する」点に苦心したという。「之を科学的に分類して、新たなる基本形状をば六十余種も発見」したというが、従来の「基本形状」は正方形の用紙以外を省略すると「僅に七八種(岡村注、七十八ではない)」とも述べているので、合計して70種ほどになるはずだ。

ただ、この新発見の「六十余種」が正方形以外を含めるのかどうか、文脈上曖昧であり、後文に「基本形状の数は約二百余種類に亘りまして」それでは複雑なので選定して講義することにした旨の解説があつて、100種類が掲載されているので、その部分を見ると、長方形、菱形、

正三・五・六・八角形や円形その他不規則的な多角形などが数多く(正方形は47種)含まれている。従って「六十余種」を正方形に限るとしなければ勘定が合わない。

「科学的に分類して」というが、「つる」や「かえる」の折り筋(その角を2等分するところを3等分にしたり)の応用以外に、放射線状の折り筋を多用していて、その少しずつ変化させて種類を増やしてゆくあたりは、後の花紋折りを思わせるものがある。不思議なことには「ザブトン」や「カンノン」(「格子」も)は使用していないのである。すなわち、後に内山興正が「折紙」(国土社、1962)で示した「主要基本図」AB2系統34種のうちの、A系統の11から18までの8種だけと、それを正方形以外の用紙にあてはめたもの、および、それぞれに切り込みを加えたものであった。

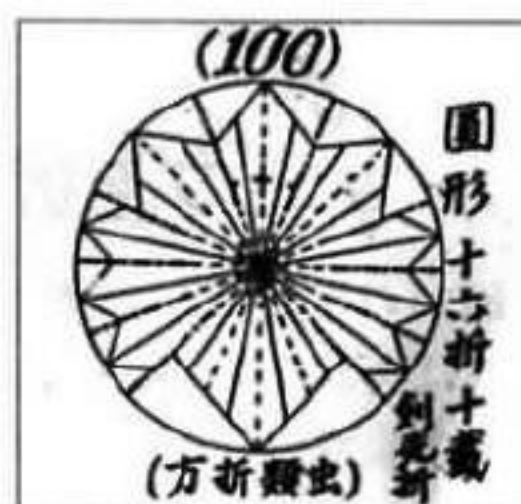
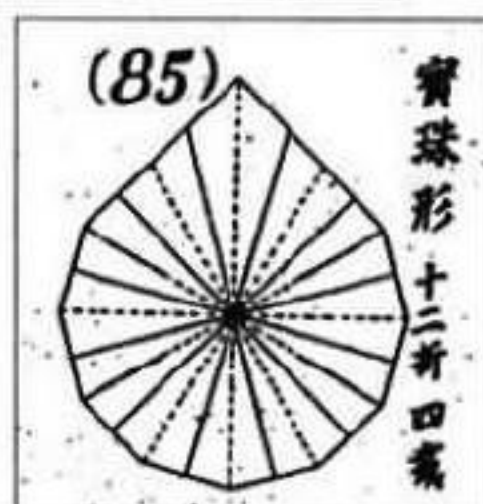
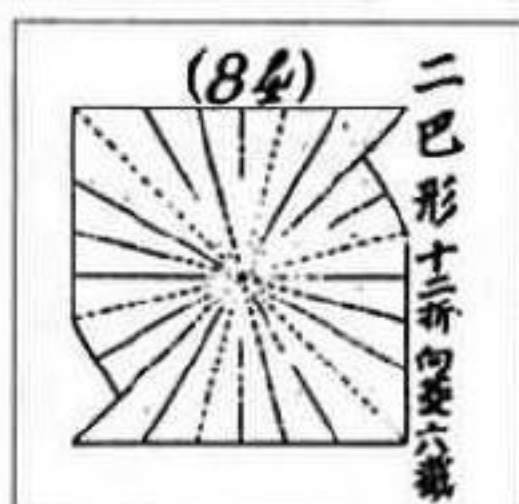
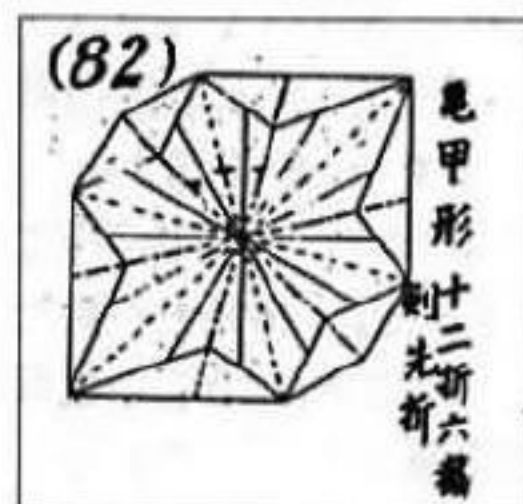
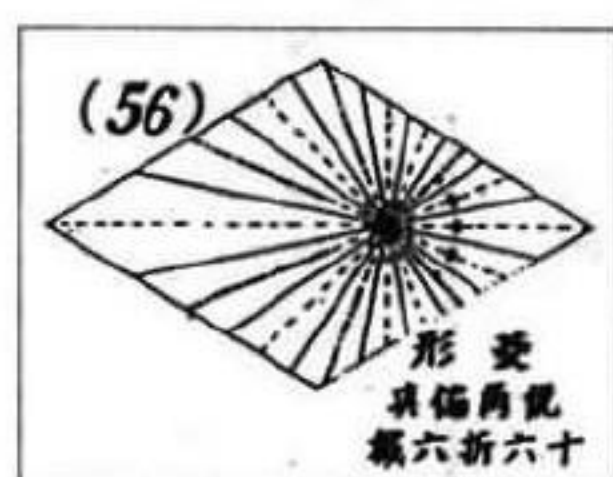
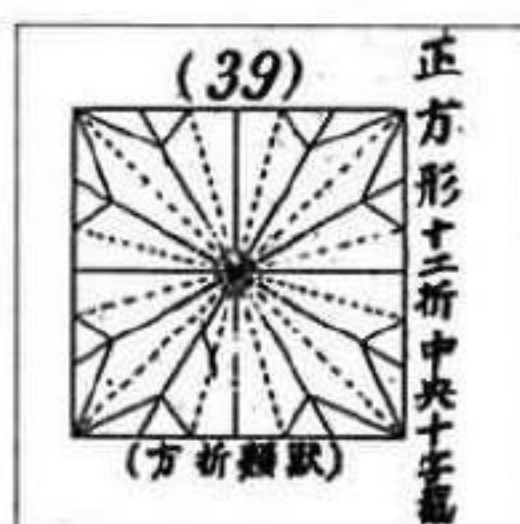
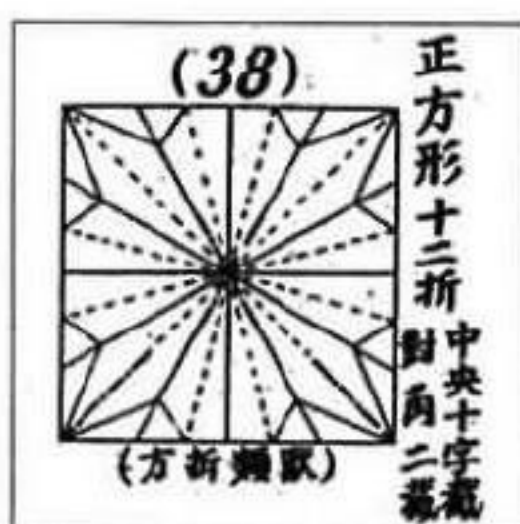
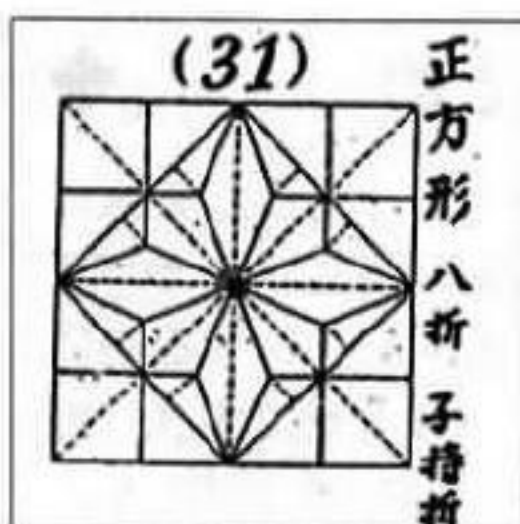
---基本形状とは---

これより以前において、「阿部たづな」は「基本折り」という用語で、同じ基本折りから、「六歌仙」や雛類などを折り分けている。これは「人物のベース」ともいうべきものである。江戸時代には「基本折り」という用語は無かったものの、『折形手本忠臣蔵』では25種の人物を一種の基本折りで作っているし、『別本忠臣蔵』では3種の基本に分けて説明している。

しかし、内山光弘の「基本形状」は、それらとは意味が異なっていた。そうでなければ「基本形状の数は約二百余種類」ということにはならなかっただろう。

光弘式では、本書に掲載する「基本形状」のうち、(19)「魚類折方」、(22)「鳥類折方」、(38)(39)「獣類折方」などは「ベース」の意味で通じるが、(28)「カンガール折方」、(29)「ワニ折方」、(41)「イカ折方」などは、それぞれの作品専門の折方であつて、それから他のものを折り分けるのではないようだ。

要するに、光弘式の「基本形状」は、角を2乃至4ほどに等分した線を中心にし



一九三四年東京生まれ。都立高校の国語教師を六年前に定年退職。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



て、多くはそれにいくらかの切り込みを加えたものを指すのであって、それらを基にして仕上げの段階に入るという意味での「基本」という意味らしい。仕上げの段階では、基準の無い「ぐらい折り」や、不規則な切り込みも随時行われ、折り上げてから書き込みが加えられることも多い。内山自身は「鋏を利用すると申しまして、決して不規則に縦横無尽に作用するものではなく、折紙の有する本質を損はない様に鋏を利用する」と力説するが、江戸時代にあったものに比較して切り込みが多く、現代人に「切りまくり」と評されることも当然であるが、子息の興正が反発して「純粹折り紙」(「不切正方形一枚」とも称した)を主張したことが、どれだけその後の創作折り紙の世界を豊かにしたことか、という意味では、やはり折り紙史上で注目すべき問題を提起しているといえよう。

-- 本書の作品群 --

46ページのうち、14ページ以下が各作品の折り方で、1ページに1作品ずつ計33作が展開図つきで解説されている。た

だし、雛類や六歌仙、七福神、高砂などの組みものが大部分で、単独作は「蝦」「白鳥」「七面鳥」「象」の4種だけである。当時「小光社」から各種出版されていた光弘式の着色展開図や折り方解説図と共通している。「美術印刷」と称し綺麗なオフセット印刷をしたり、木版刷りにした高級品と、廉価版とがあった。折り上げた作品と各解説などが箱入りで販売されていた。高級品は桐箱に収められていて、雛などは木の雛段も付けてあった。金屏風を付けたものもあった。昭和6、7年で、雛15人揃いが15円、恵比寿大黒が2円、七福神が7円もした。廉価版の方は、数種組み合わせ、展開図や説明書に折り上がり作品を添えて30銭ほどであった。

この種の展開図など印刷物は明治41年ころから「内山模型製作所」発行のもの(廉価版)が各種あって、すべて「実用新案」の登録がなされていたようだ。

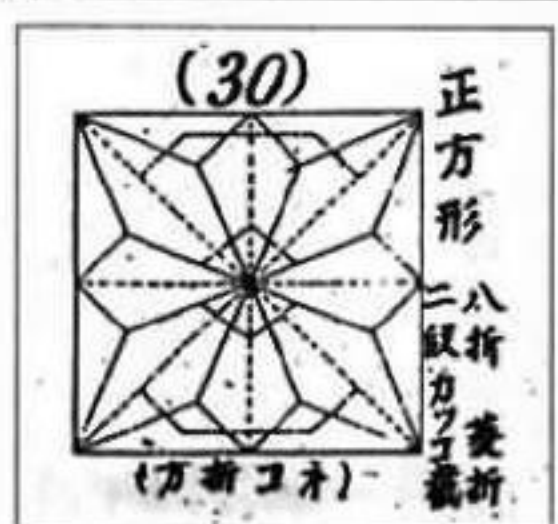
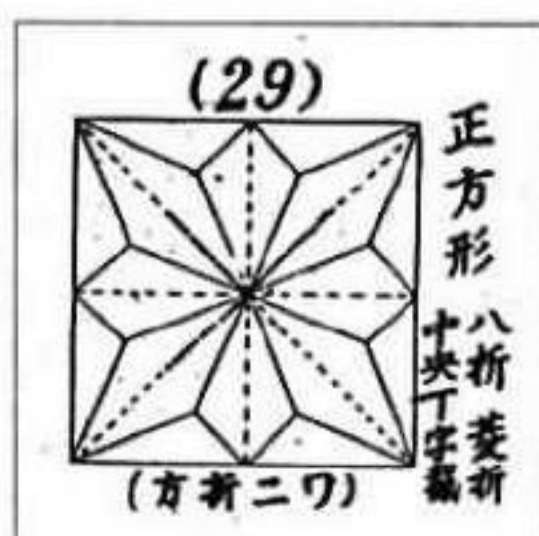
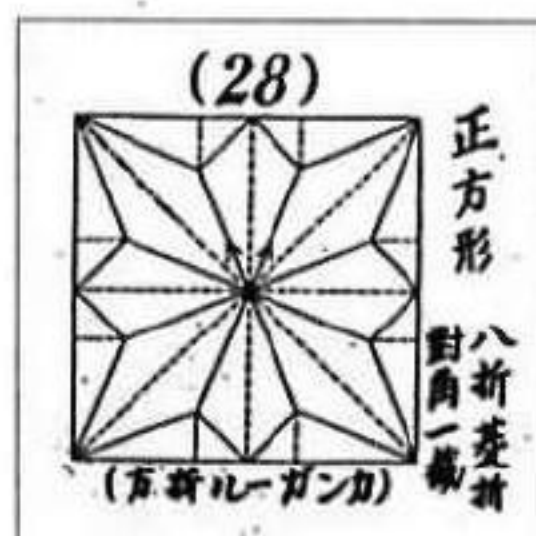
--実用新案登録--

実用新案法が制定されたのは明治3

8年だそうで、光弘式の新案登録された実物は明治41年のものを幾つか見ているので、光弘の先取権意識は注目に値すると思う。

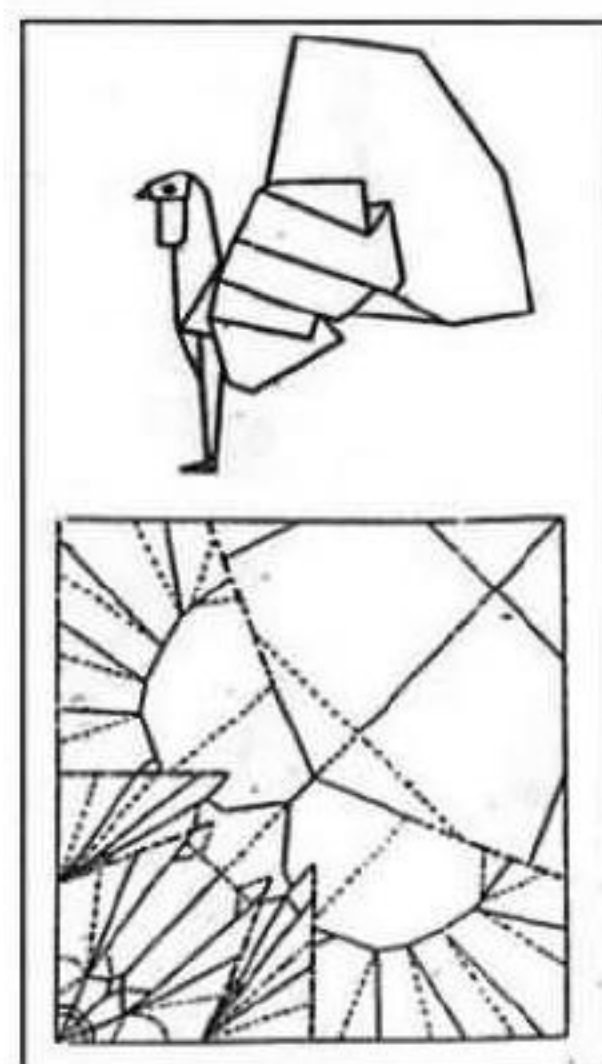
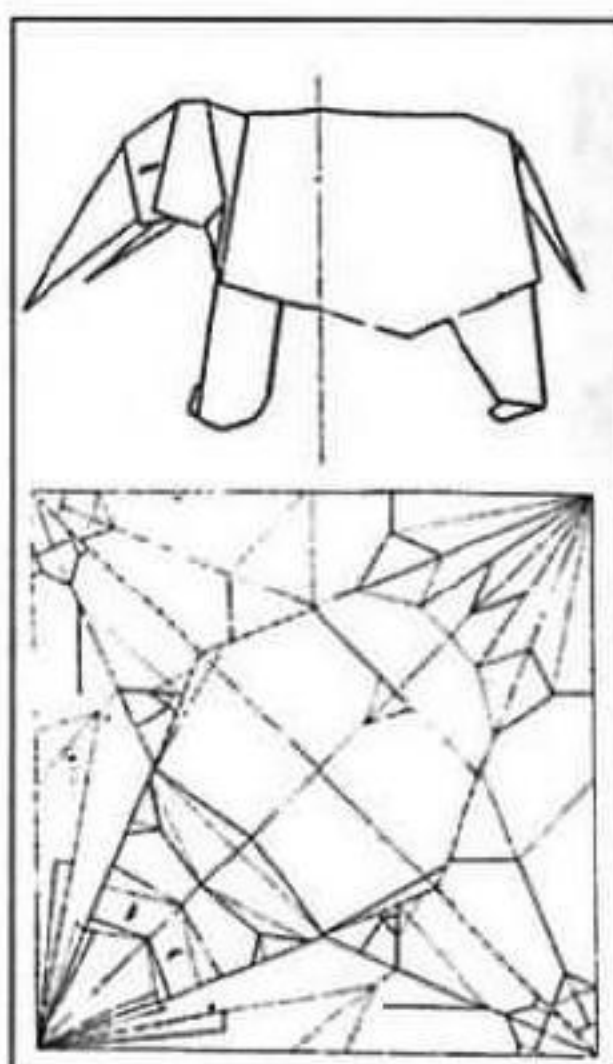
ただ、特に初期のものは、「おりがみ庵」第25回(「折紙探偵団新聞」7巻2号)にも書いたが、着色展開図(熊坂氏の用語をやや違う意味で使用させていただくが)という形式も、内容も、「新案」とは言い難く、化政期に大坂あたりで多数出版されていたものとあまり変わらないのであるが、江戸時代には山と谷と切り線を線種の違いで表わしたり、その他の工夫もあったのに、初め内山はそれらを全く取り入れておらず、山谷の区別をするようになるのは昭和の「小光社」出版になってからのようだ。恐らく彼は、江戸期の同種のものを見ていなかったのだろう。ちなみに、「山」「谷」の語を用いたのは内山であった。

そういえば、彼は「かや草」も「森脇家資料」も見えていなかった。それでいて大きな影響が見られるのは、伝承のなす仕業であろう。



■折り線は同じでも
切り線の違いで
基本形状は変化する

■「象」「七面鳥」の完成図と展開図



前川 淳の 新折紙散歩

第5回

折鶴の街

— A Paper Crane Town —

世界で唯一、桑名市のマンホール蓋を所蔵している個人(たぶん)



筆者紹介＝東京生まれ。折り紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

Kuwana is a town where a famous origami creator Rokoan lived in about 200 years ago. The city office designated "connected paper cranes" as an intangible cultural asset. Kuwana is the center city of paper cranes!

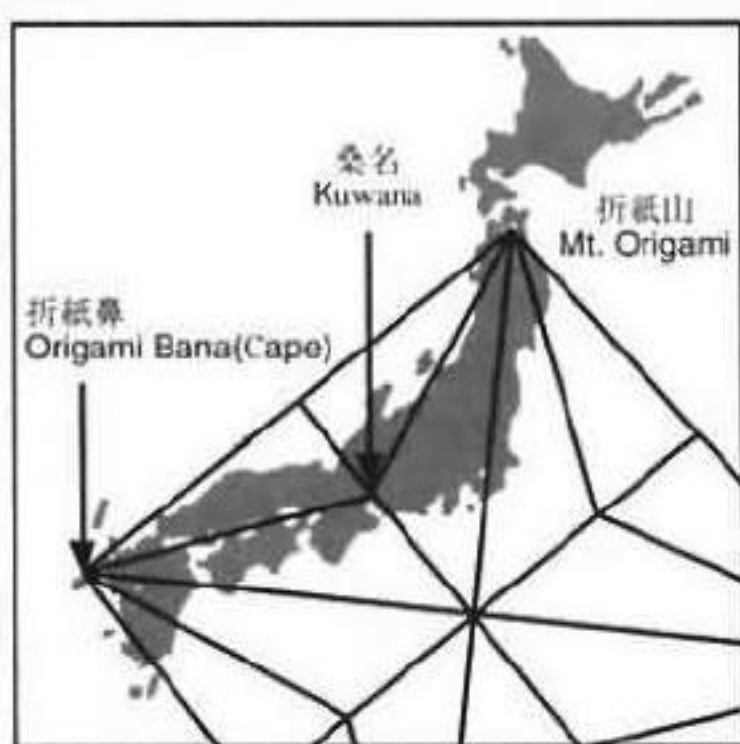
地上最大の折鶴の基本形

この連載や他の記事でも何回か触れた土地だが、今回は、三重県桑名市を詳しく取り上げる。

そもそも桑名がなぜ特別な場所なのかと言うと、折り紙の歴史における最重要人物、魯縞庵が住職をしていた長圓寺があるためだ。魯縞庵は、「折紙探偵

団」の読者にはわざわざ説明するまでもないだろうが、切り込みを入れた一枚の紙から多数の折鶴をつくる「秘傳千羽鶴折形」(1797)掲載作品の作者、つまり、折り紙作家の大先輩である。桑名と折鶴との関係は、基本的にはそれだけである。しかし、魯縞庵の法力(?)は絶大で、東名阪自動車道の看板に使われるなど、折鶴は、今や市のシンボルとして大活躍をしている。

そして、「関係はそれだけだ」と書いたが、桑名と折鶴の間には、できすぎた偶然、驚くべき奇縁もある。日本列島には、北と西に「折紙」を含む地名がある。青森県の折紙山と長崎県の折紙鼻(注)である。桑名はこのふたつの土地から等距離の地点にある。しかも、この三点がかたちづくるのが、22.5度と135度の二等辺三角形、つまり、折鶴の基本形に見られる三角形なのである!



トンデモ! 巨大折鶴基本形
It's an ultra-large bird base!

路上の折鶴

そんな(どんな?)桑名市には、今まで二回訪れたことがある。いずれの機会も、目を皿にして折鶴モノを探し回った。桑名市民よりも市内の折鶴物件に詳しい男、それがわたしである。

比較的簡単に見つけることができるのは、折鶴がデザインされたマンホールの蓋である。折鶴好きとしては、それだけで

「なんていい所なんだ」と思うわけだが、桑名市と言えど、街中そこかしこに様々な折鶴があつたりはしない。折鶴好きの桃源郷があると思つて行くと(そんなひとはいないと思うが)肩透かしをくらう。商店のウィンドウに飾られた折鶴(「折紙散歩」の第三回にも書いたが、これはけっこうある)などを別にして、市内を探索して確認できた折鶴物件は、歩道橋ペイント絵の「餌拾」、金属製モニュメントの



桑名名所図絵(?) Kuwana City Map



餌拾 Ehiro

折紙辞典

折紙鼻【おりがみばな】 地名

長崎県福江市、久賀島にある岬の名前。近くには「折紙」という名の集落もある。由来、詳細は不明。格好の磯釣り場らしい。蟹がいっぱいいて、「居り蟹」が由来だったりして。

恋結び折鶴伝説【こいむすびおりづるでんせつ】 名詞

三重県菰野町、湯の山温泉三岳寺に伝わる話。駆け落ちし心中しようとした大店の娘と使用人が、滝の近くで謎の僧兵に励まされ、温泉につかることで気持ちが落ちつき、手もとにあった紙で二羽の折鶴を折り寺に奉納すると、それが光と共にひとつに繋がるといふ奇跡が起こり、生きる気力を取り戻す、という物語。滝、僧兵、温泉など、話の構成要素が地元の観光案内のようなつくりになっており、時代設定も資料上折鶴が確認されている年代より古いなど、ガクジュツ的にはきわめて疑問が多い。難癖つけるわけじゃないけれど。

だろうが。

この他にも、桑名の周辺には注目の折鶴ポイントがいくつかある。

たとえば、桑名に隣接する菰野町三岳寺の「恋結び折鶴伝説」(注)。「千姫と千羽鶴」同様、時代設定から言っても、かなり無理のある話だが、いったいどこから来たものが気になる。はたまた、屋上に「村雲」のモニュメントをかかげる四日市市の文房具店、その名も「こだわり文具館」の経営者にはどんなこだわりがあるのか、これも調べなくてはなるまい。

「折紙の中心・三重県」の調査・探索は、まだまだこれからである。

「巢簗」、舗道モザイク絵の「村雲」、舗道タイル絵の「釣ふね」(いずれも「千羽鶴折形」所収作品)の四点のみであった。しかし、四点とは言え、「千羽鶴折形」に路上で

出会える街は、全国広しと言えどここだけだ。いつの日か、「千羽鶴折形」作品全四十九種で街を飾り立ててくれることを期待しよう。



巢簗 Sugomori
夜間はライトアップされる。



村雲
Murakumo



釣ふね
Tsurifune

「夢とロマンの・・・」

桑名に脚を運んで、まず訪れるべきところは、外ならぬ長圓寺であろう。市の中心から南に徒歩30分ぐらいのところにある。折紙者としては参拝は外せない。また、市立博物館では、「千羽鶴折形」全四十九種を見ることができる。入館は無料である。

そして土産。これは、寺町商店街、保々屋の「夢とロマンの千姫餅」で決まりだろう。真ん中にどんと折鶴の焼き印がある菓子である。家康の孫娘にしてわずか七歳で秀頼の正室となった千姫は、大阪城落城後、桑名藩主・本多忠刻に嫁入りした。桑名市の秋のイベント「桑名の殿様・御台所祭」は、この「千姫」と「千羽鶴」の「千」をかけたもので、千姫に扮した女性と忠刻に扮した男性(わたしが見に行ったときは市長さんだった)が、全国から集められた千羽鶴と共に市内を歩き、桑名城跡公園で盛大にお焚きあげをする、というものである。はっきり言って、市ゆかりの文化と有名人を、「千」という字だけで結びつけたこじつけである。「千姫餅」の葉にも、「一枚の紙で多くの鶴を折る伝統の『桑名の千羽鶴』がお好きだった千姫」などと書いてあるが、これは、折り紙の歴史

研究を根底から覆すような話である。十六世紀から十七世紀初頭に折鶴があったことは確認されておらず、まして、千羽鶴と桑名を繋げるものは十八世紀末の魯繭庵だからだからだ。が、そこはそれ、「夢とロマン」であり、祭りそのものは華やかで楽しく、「千姫餅」もおいしいからまあいいか、てなもんである。

なお、祭りの期間中、「千姫餅」とはまた別の、これまた折鶴の焼き印も鮮やかな「折鶴焼」なる折鶴好き垂涎(甘党には文字通り垂涎?)のどら焼きも販売される。市内「たがねや」の「たがね」(煎餅の一種)の慶事用パッケージにも、丹念に折られた紅白の「妹背山」(千羽鶴折形)所収作品のひとつが入っている。このあたりも、さすが桑名と言えるだろう。

というわけで、市民も、桑名と折鶴の関係については、よく知らないところがなくもないようだが、同市が折鶴の街であるのは間違いない。将来わたしの折鶴コレクションを寄付する先として、最も相応しいのも、桑名市かもしれない、などと思ったりもする。寄贈されても困る



こだわり文具館
A Stationery Shop in Yokkaichi City;
A Neighbor City of Kuwana
三重県四日市市 Photo by HATTORI Yoshiaki

■ついに新世紀がスタートしました。あいも変わらず慌ただしい真冬の中で、ほんとひと息できるようなあたたかみを与えてくれるフリージア。ふさのようにかたまって付いている花の配置の調整により、視点をひきつけるポイントをさまざまに工夫してみてください。

■前号で紹介された「ぜんまい折り」からの発展で、無限に小さくなり続ける不思議なねじり折り作品が生まれました。これまでに掲載されたびっくり箱作品群とくらべて、見かけは少々とっつきにくそうですが、どうか恐れずに取り組んでみてください。きっと布施作品の新しい側面を発見できることでしょう。

■折り紙の一般的なイメージをくつがえすような、繊細かつ自由自在な曲線・曲面で構成された「タツノオトシゴ」。作品には彩色も施され、表面のメタリックな質感がSFチックな印象を与えています。

■現代折り紙の技術はこんな形状までも表現可能にしてしまったのか、とため息が漏れてきそうな作品「龍神」。あらゆる方向からの鑑賞に堪え、何時間見ても飽きないほどの膨大な情報量が詰め込まれています。



「フリージア」作:田中具子(P.8) Freesia : Tanaka Tomoko (P.8)

■花の色は赤、桃、藤、紫、白などもあるようですが、とりわけ黄色は春をよよく予感させますね。すみずみまで空間感を意識した画面構成により、すっきりとして清潔なイメージが生まれています。

「無限平織り・スター」

作:布施知子(P.4)

Infinite Whirlpool Patterns: Stars:
Fuse Tomoko (P.4)

■立体的な用紙の動きのコツさえつかんでしまえば大丈夫、ユニット好きならこれもきっとハマるはず。ねじり部分の仕上げ加工も、まだまだ他にいろいろなパターンを許容できるような構造になっています。ぜひ大きな用紙で、どこまで折り続けられるか挑戦してみてください。



「タツノオトシゴ」

作:エリック・ジョワゼル(フランス)

Sea Horse : Eric Joisel (France)

■迫力あふれる「マスク」作品群で有名なジョワゼル氏ですが、こうした動物の造形にもその技術はいかんとなく発揮されます。石垣のような皮膚の凹凸ひとつひとつが彫刻的に仕上げられ、既存作品にはなかった強力な存在感を醸し出しています。同じものは二度とつくり出すことができない、だからこそ魅力的な「一点もの」の代表格でしょう。



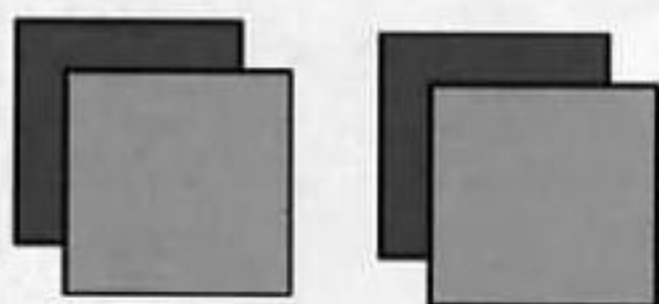
「龍神」

作:神谷哲史

"Ryu Zin" Chinese Dragon :
Kamiya Satoshi

■第3回・第4回TVチャンピオン連覇の神谷氏による超絶造形。もちろん不切正方形一枚折り、全身に配されたうろこは一辺の160等分の蛇腹折りから導き出されています。次回の改良のときには、さらにうろこを細かくする予定だとか…。





雛人形

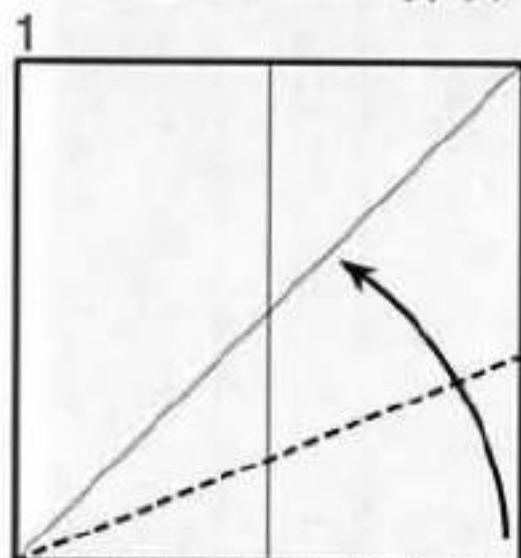
Dolls Displayed at
the Girls' Festival (March 3)

前川淳

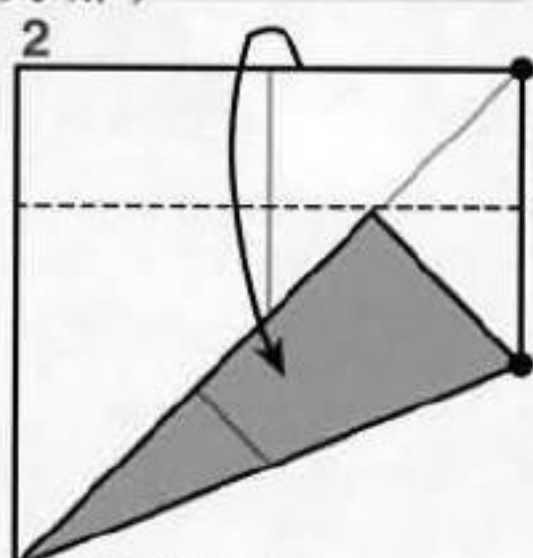
Model and Diagrams
by Maekawa Jun

男雛と女雛用に、
それぞれ二枚ずつ用意する。

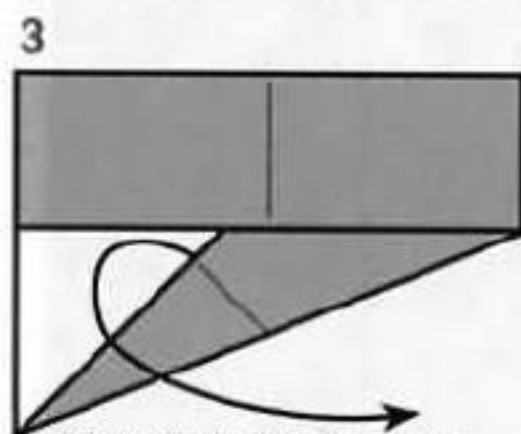
着物 (男雛)



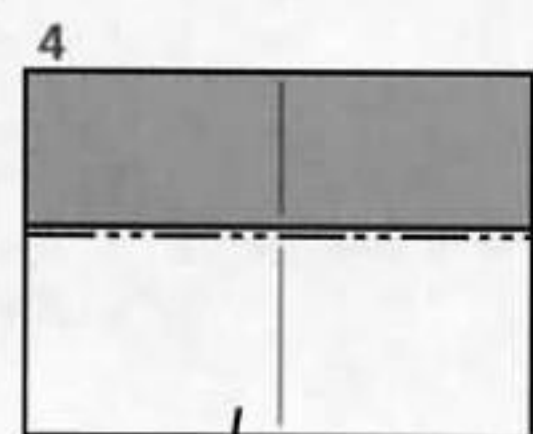
1
辺の二等分線と対角線の
折り目をつけた後、
一边を対角線に合わせて折る。



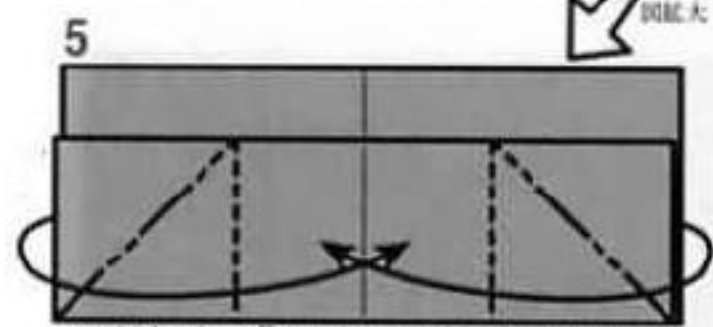
2
黒丸と黒丸を
合わせて折る。



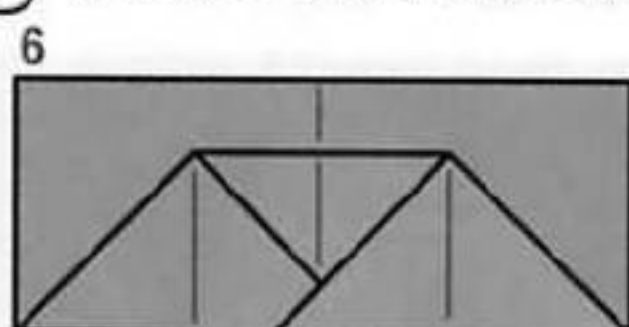
3
斜めの折りを戻す。



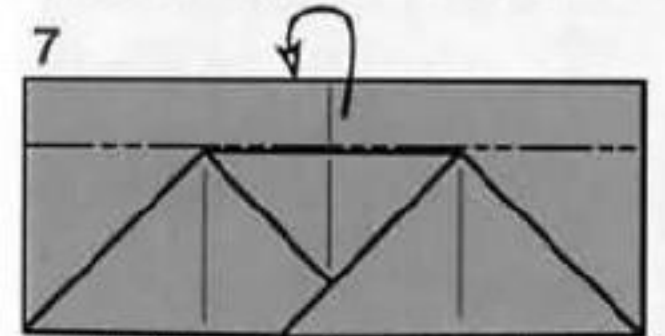
4
縁に沿って向こう側に折る。



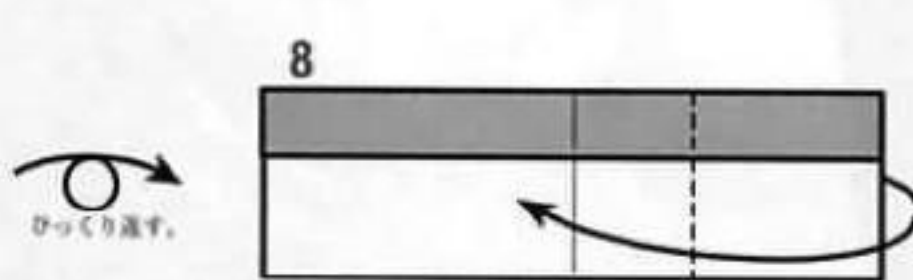
5
両脇を「風船の基本形」の
要領で、開いてつぶす。



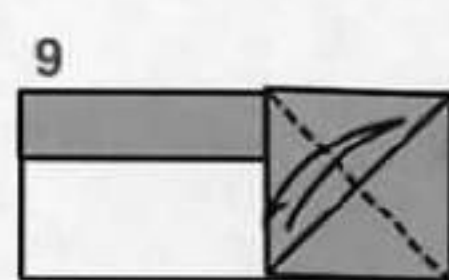
ここまでは、男雛と
女雛、同じ折りになる。



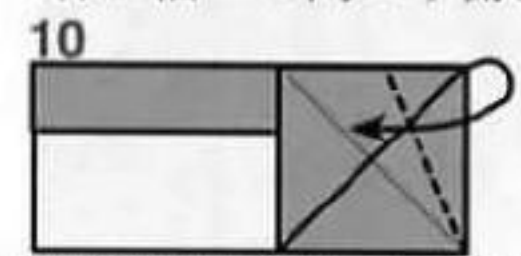
7
縁に沿って向こう側に折る。



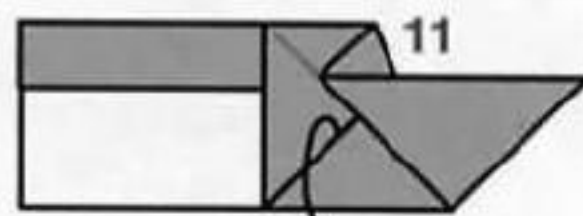
8
裏側の台形の頂点の
ところで折る。



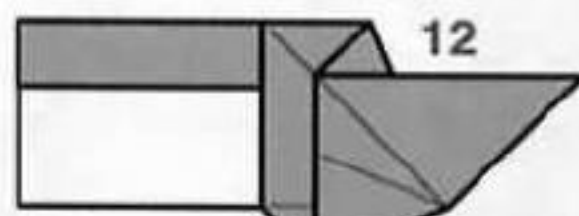
9
折り目をつける。



10
つけた折り目に合わせて折る。
このとき、向こう側の三角形の
カドを起こす。



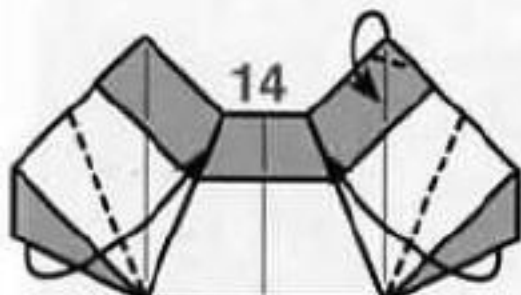
11
はがすようにして
紙を引き出してつぶす。



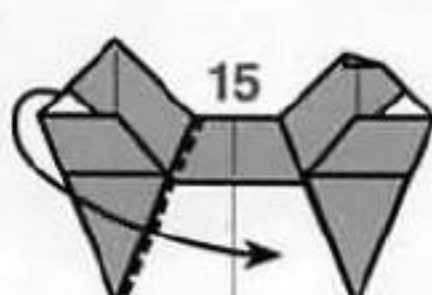
12
左側も8-11と同様に折る。



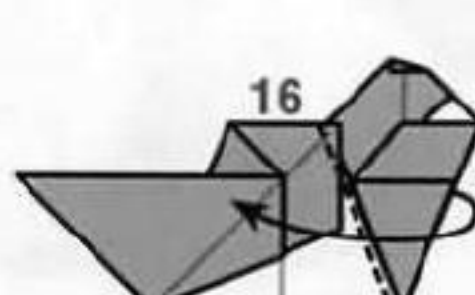
13
左右とも、
いっぱい折り戻す。



14
小さな折りは既についている
折り目で、両端の大きな折りは
縁に合わせて折る。



15
段に沿って折る。
このとき、向こう側の三角形の
カドを起こす。

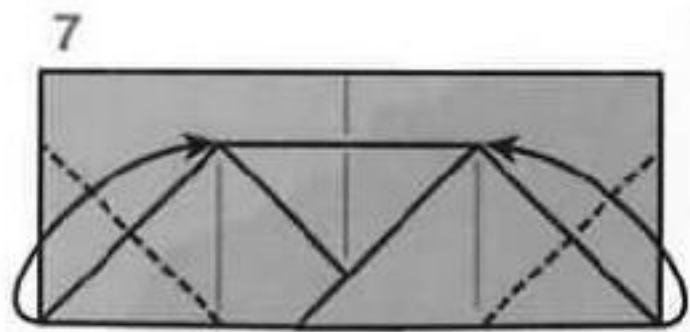


16
左側と同様に折って、
差し込んでまとめる。

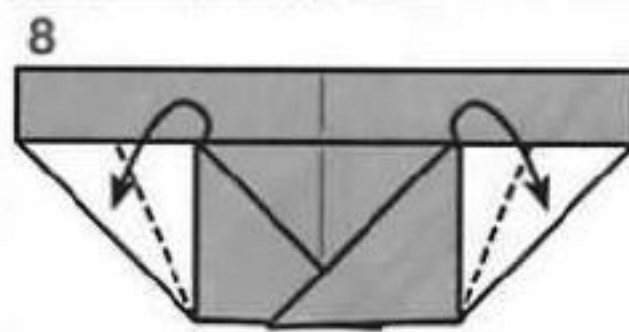


着物とからだ(顔と袴)を別の紙で折り、
組み合わせる作品です。
コーディネート(?)を楽しんでください。
きちんとした折りの目安があるので、
丁寧に折ってください。
からだ(顔と袴)は濃い色の紙(裏は白)、
着物は千代紙などがよいでしょう。
サイズは15cm ぐらいが適当です。
図を発表するのは今回が初めてですが、
講習会などでも好評の作品です。
…しかし、2ページはきつかった。

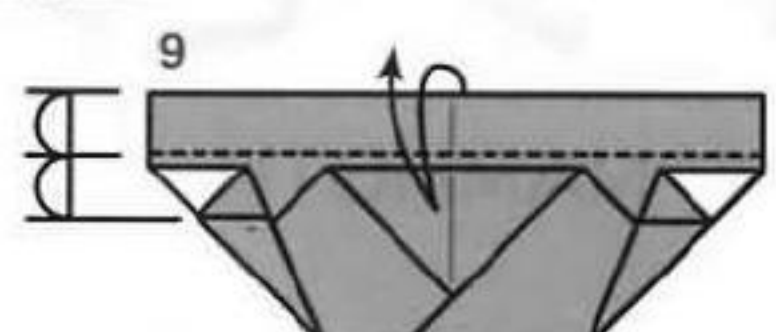
着物（女雛） 1-6までは男雛と同じ。



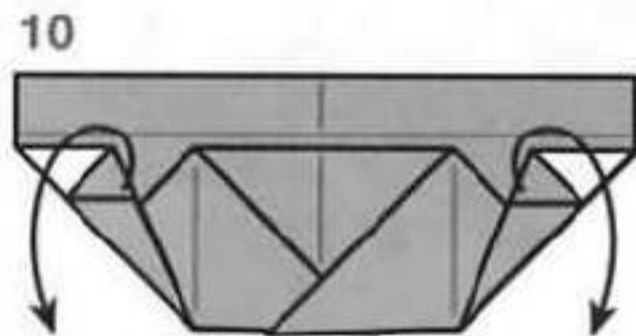
7
両端のカドを、台形の頂点に合わせて折る。



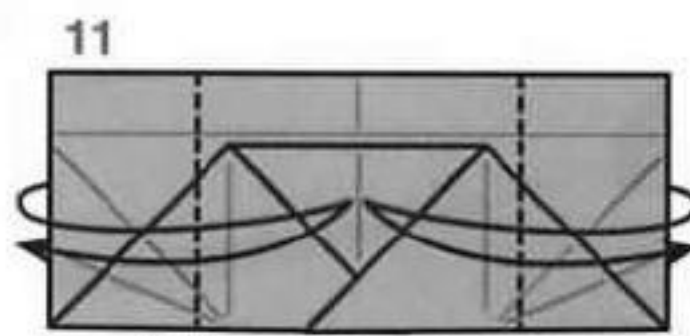
8
縁に合わせて折る。



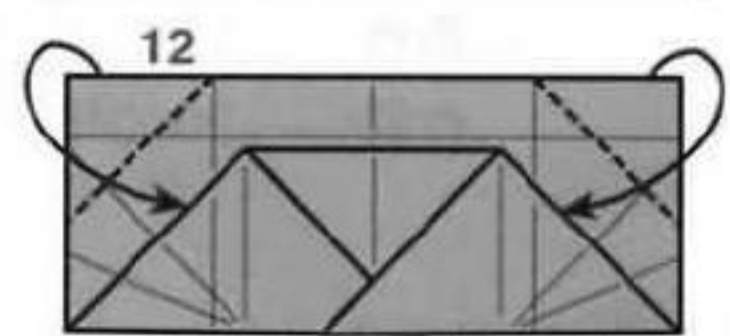
9
段になっているところに合わせて折って、戻す。
(台形の上底より少し上になる)



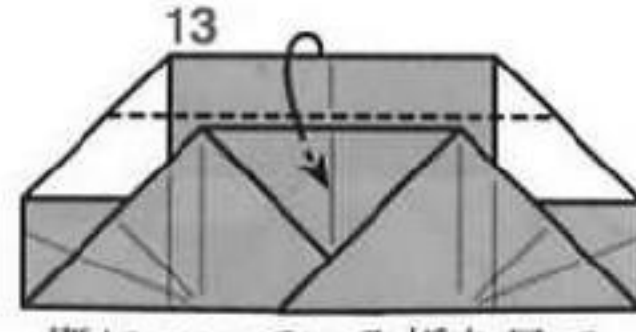
10
両端を折り戻す。



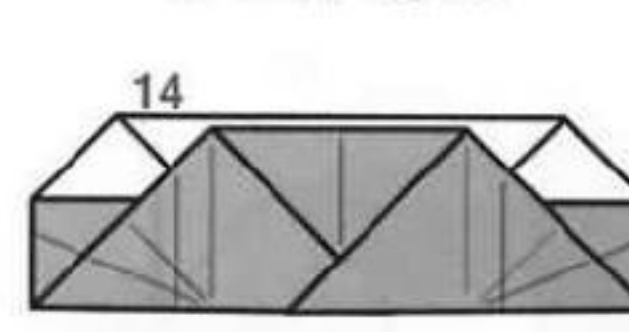
11
両端を中心に合わせて折って、戻す。



12
両端を折り目に合わせて折る。
このとき、カドの先端は台形の下に入れる。



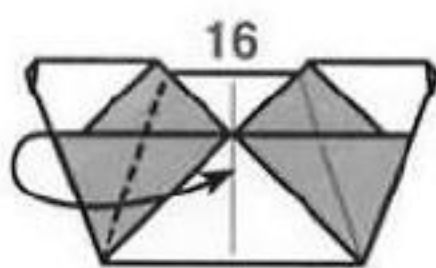
13
既についている折り目で、内側に折る。



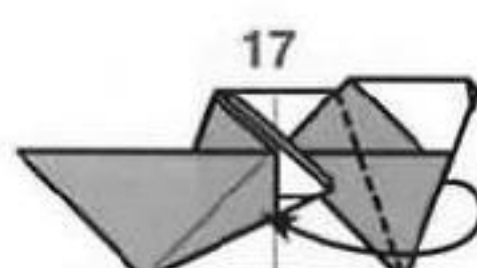
14



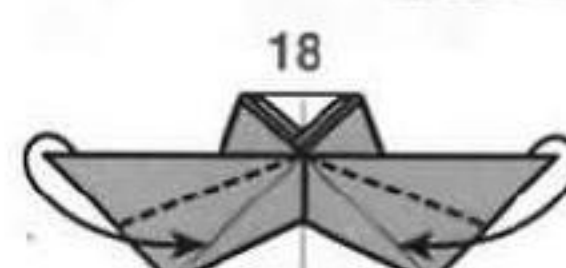
15
両端のカドを、中心線と斜めの折り目が交差する点に合わせて折る。



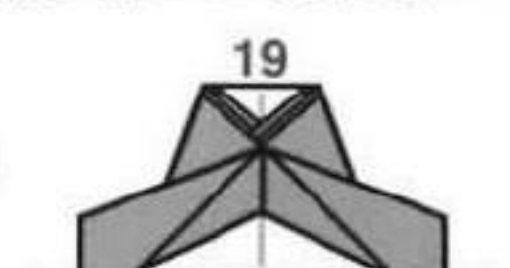
16
既についている折り目で折る。
このとき、向こう側の三角形のカドを起す。



17
左側と同様に折って、差し込んでまとめる。

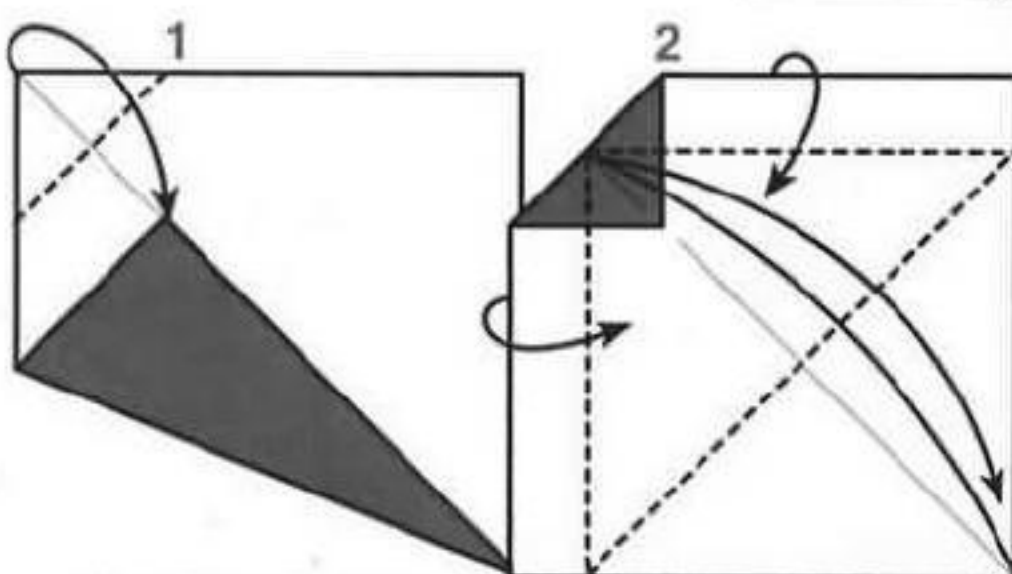


18
両袖を手前に折る。

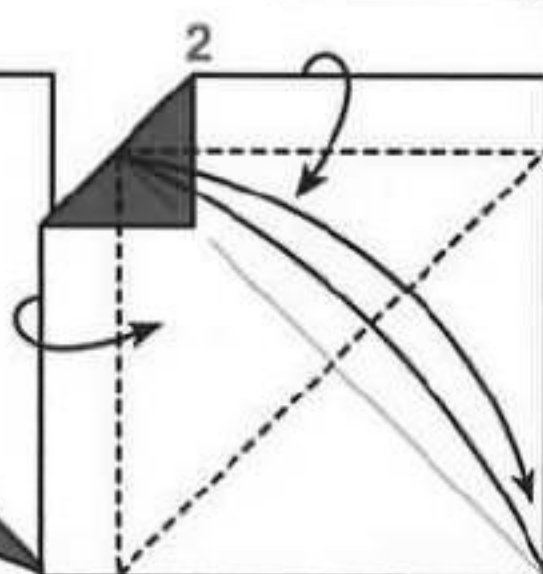


19
両袖の先端を中に折り込む。

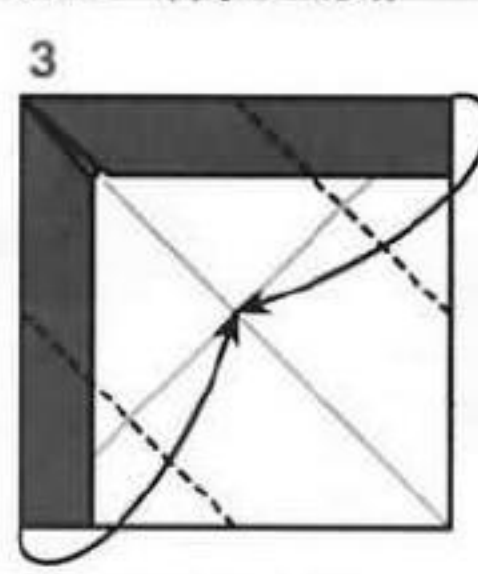
からだ（袴と顔）



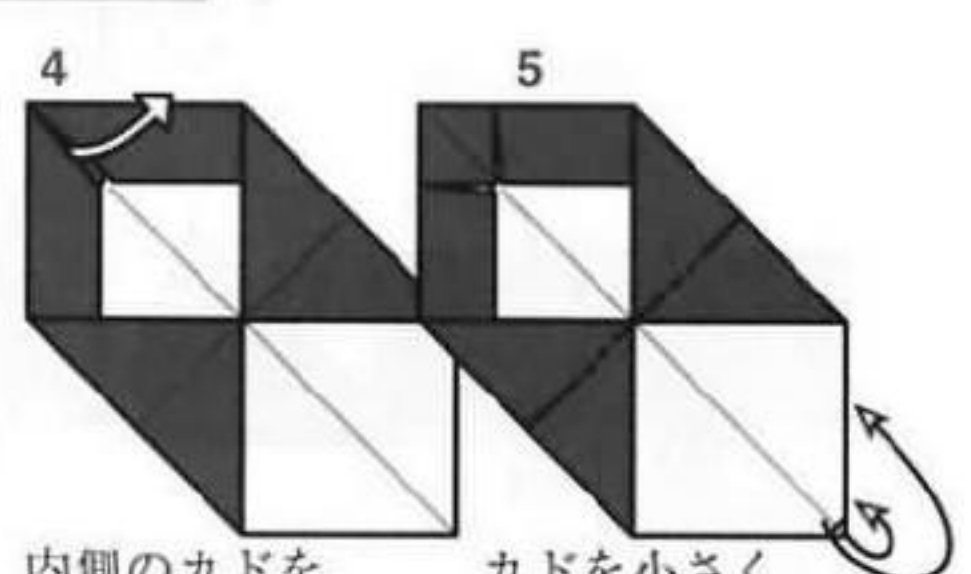
1
対角線に合わせて折った後、カドを合わせて折る。



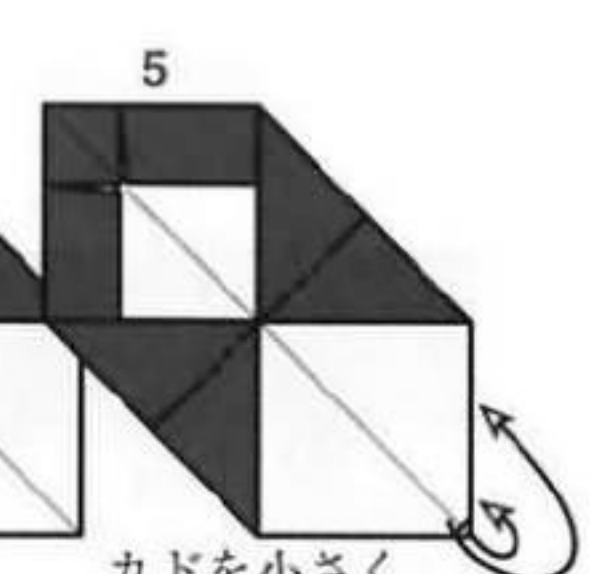
2
縁を細く折った後、中心を求めるために折り目をつける。



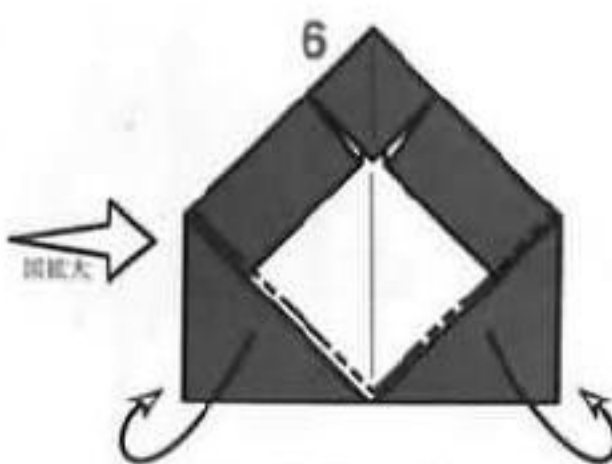
3
両端を中心に合わせて折る。



4
内側のカドを引き出して、正方形につぶす。



5
カドを小さく（15cm用紙で3mmぐらい）向こう側に折った後、全体をふたつ折りにする。



6
両端を段に沿って、向こう側に折る。



7
両端を中心に合わせて折る。そのさい、小さな正方形を残す。



8
段に沿って折る。



女雛



男雛

折鶴の基本形。 段折り。

マンモス

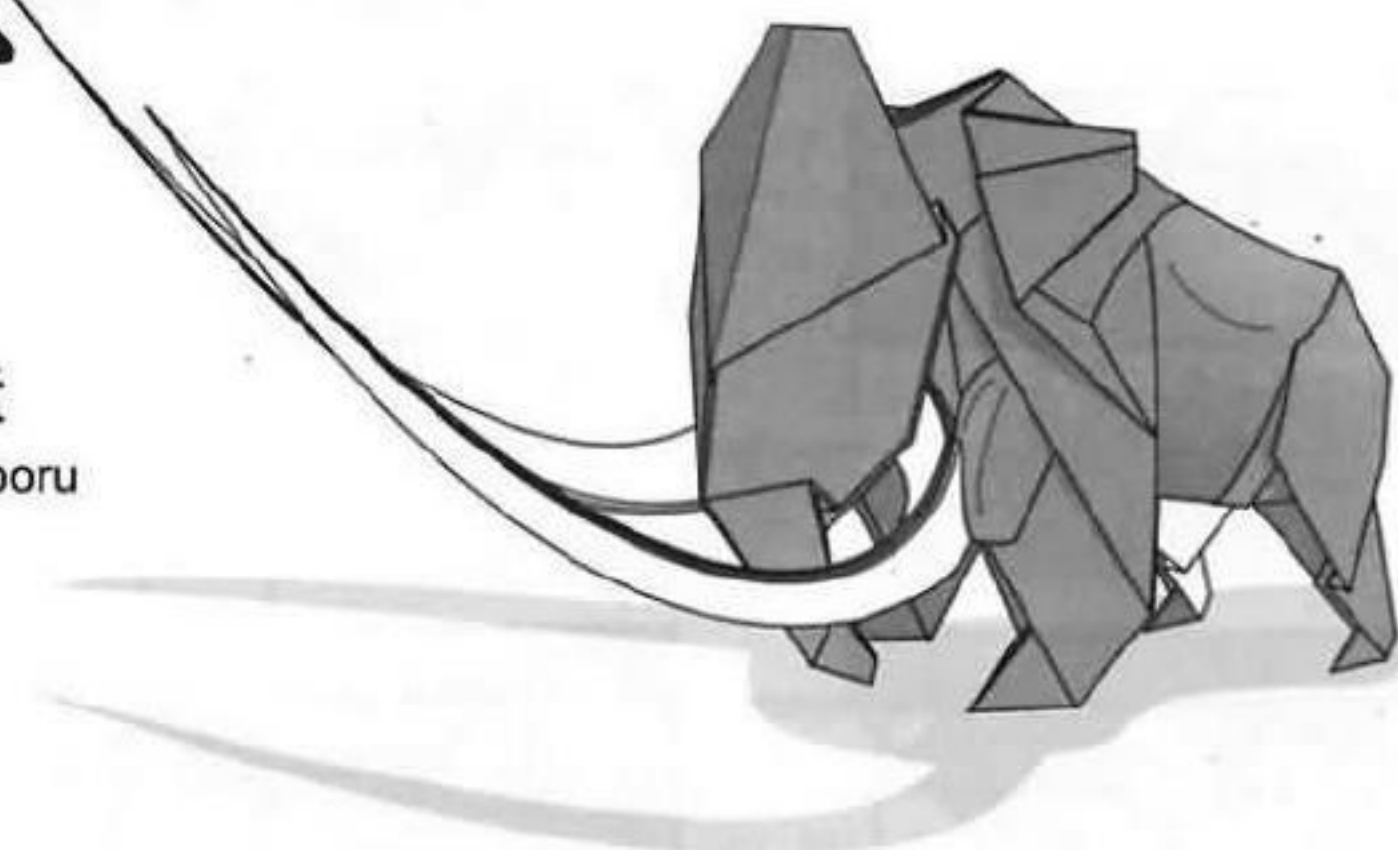
MAMMOTH

作／図 宮島 登

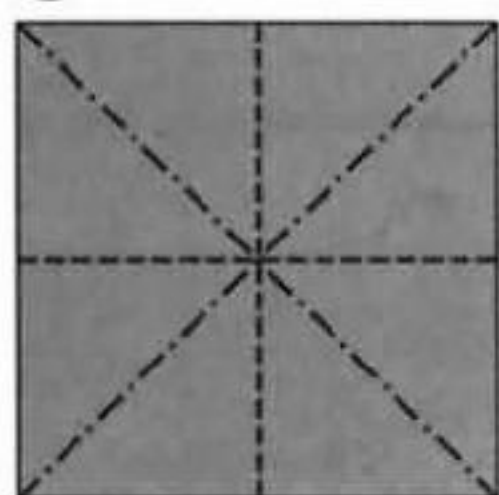
Design & Diagrams By Miyajima Noboru

創作 1997 年 9 月

作図 2000 年 11 月

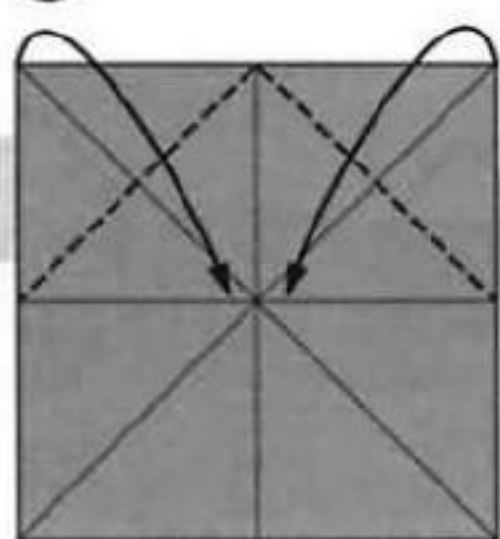


①

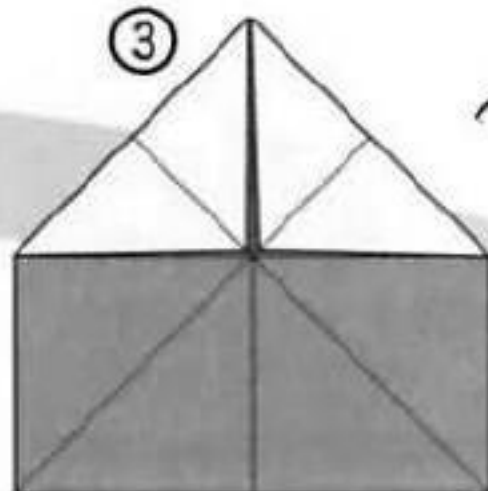


折り筋をつける

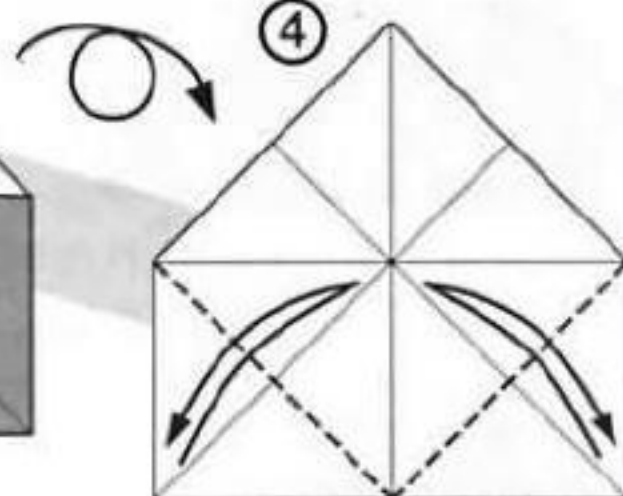
②



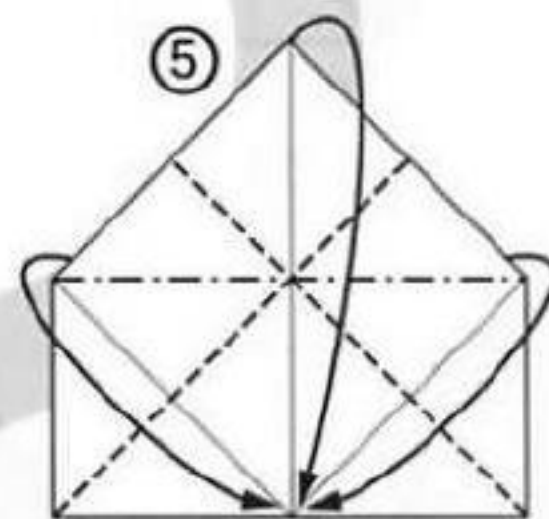
③



④

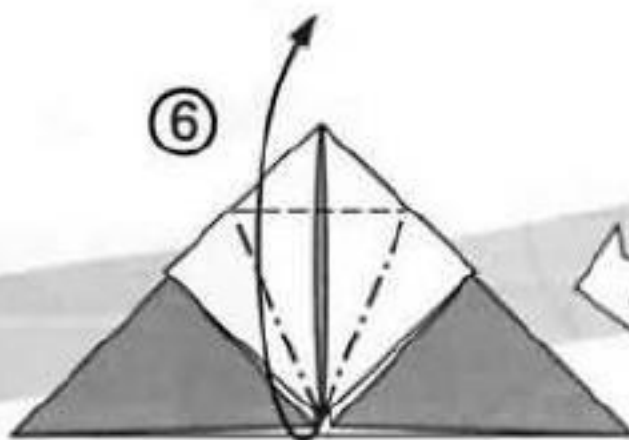


⑤

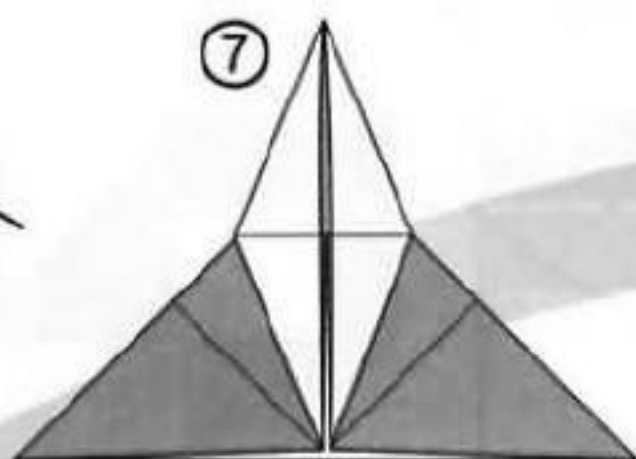


風船の基本形の要領でまとめる

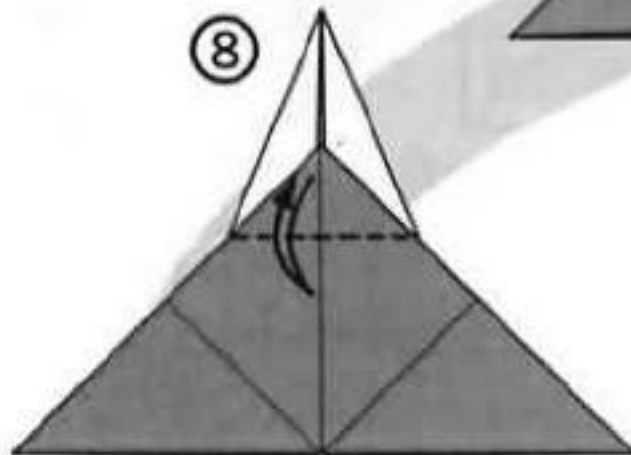
⑥



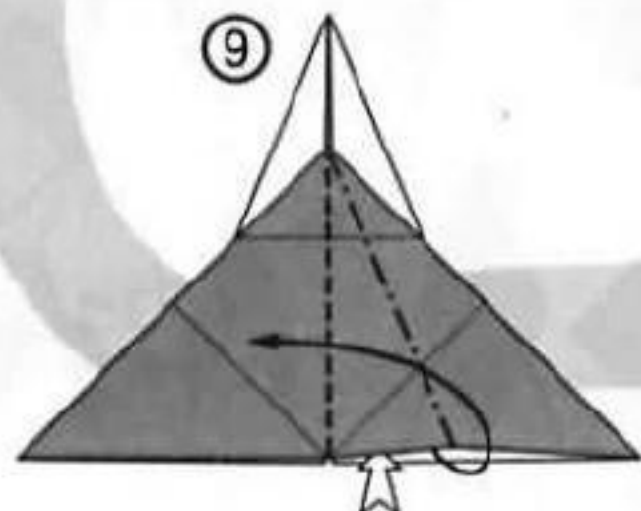
⑦



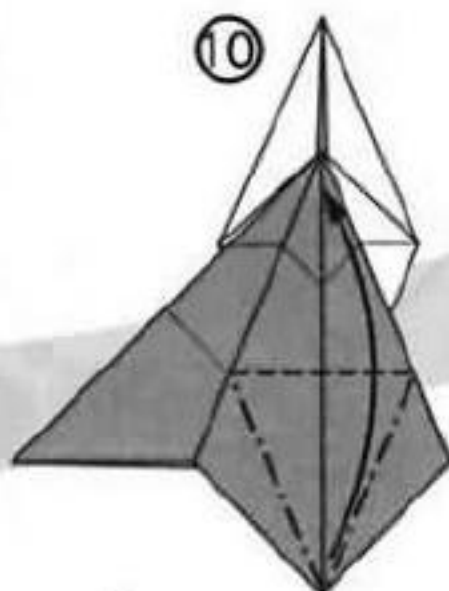
⑧



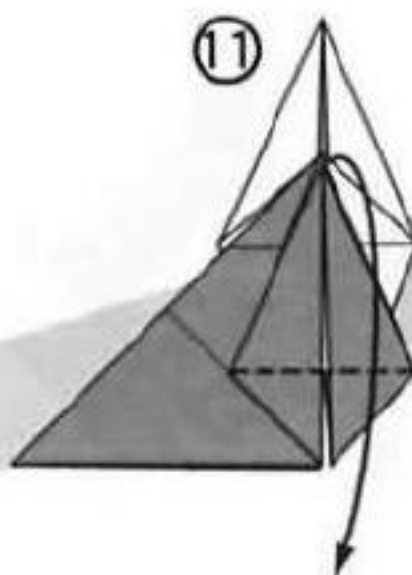
⑨



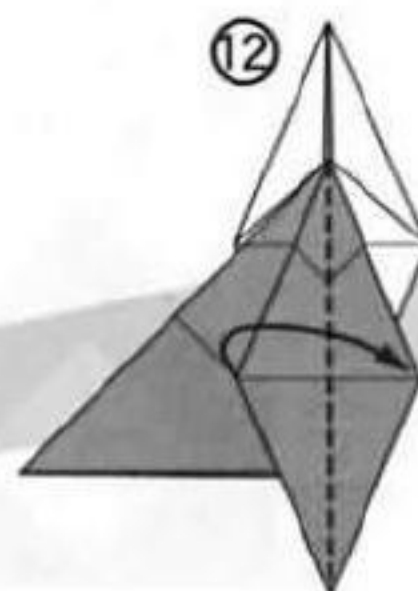
⑩

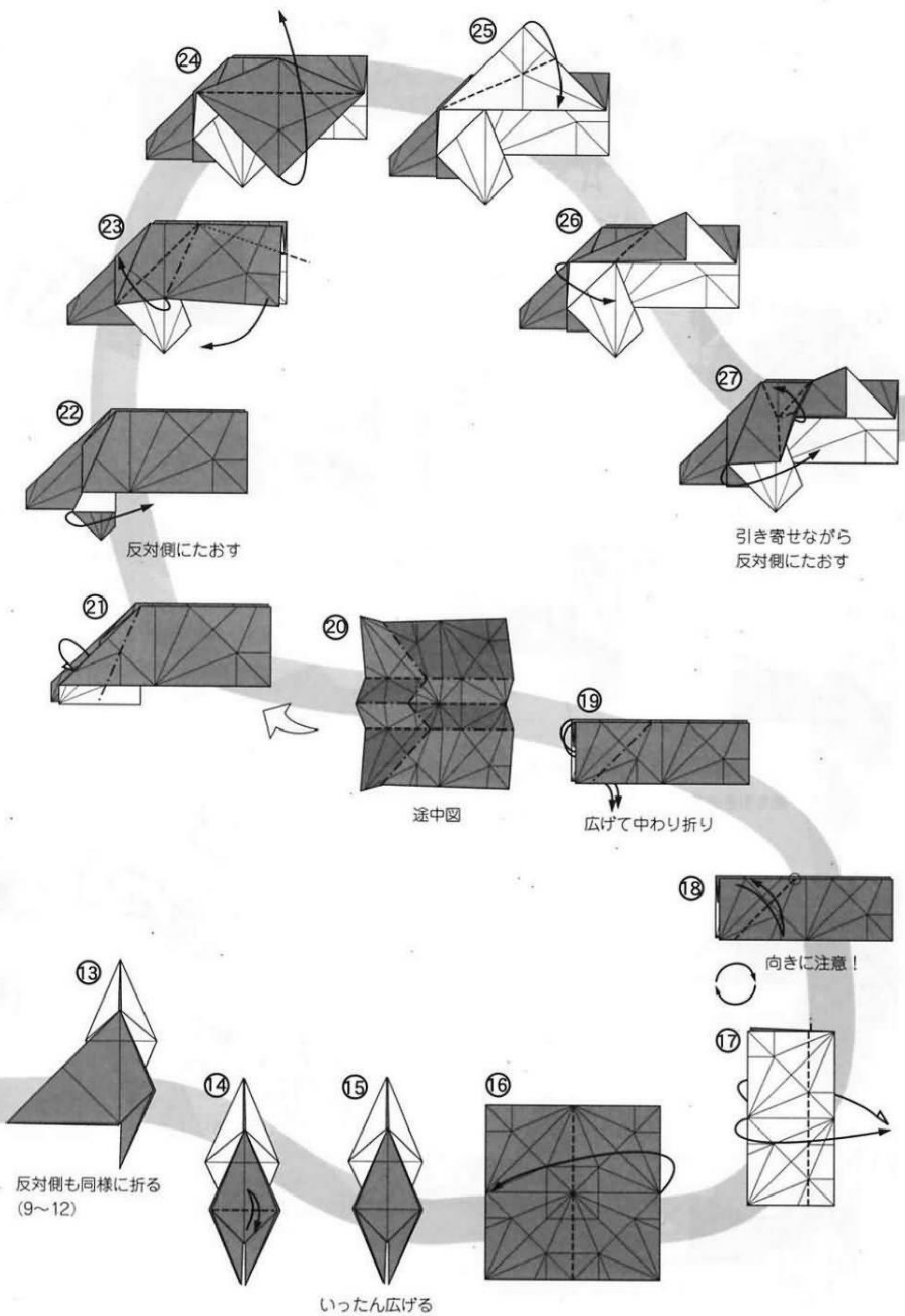


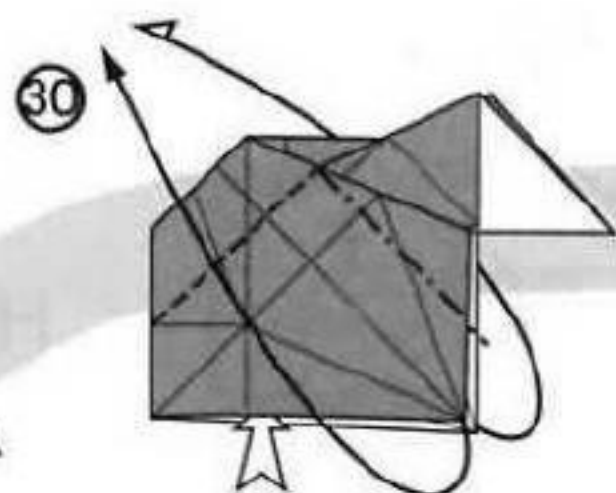
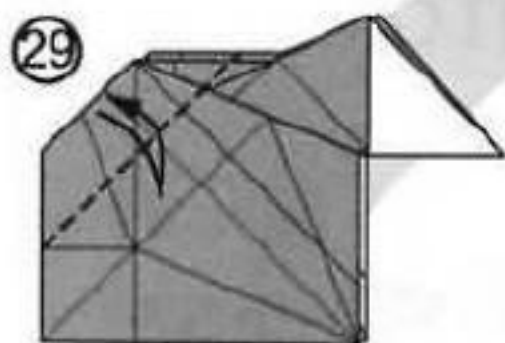
⑪



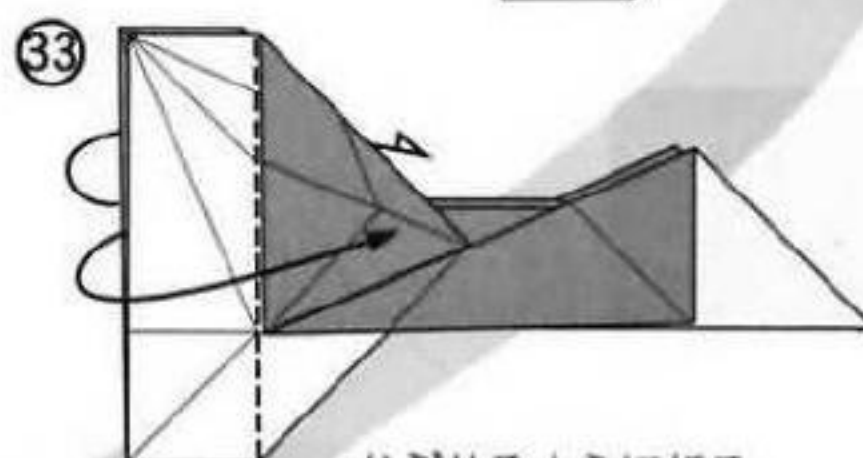
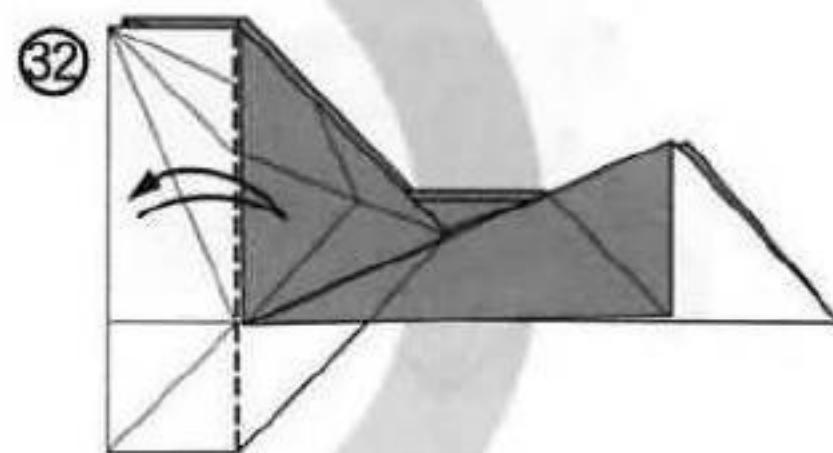
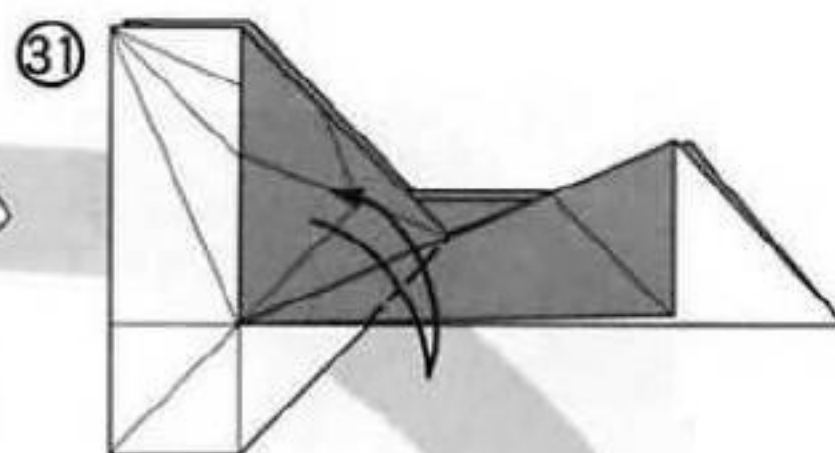
⑫



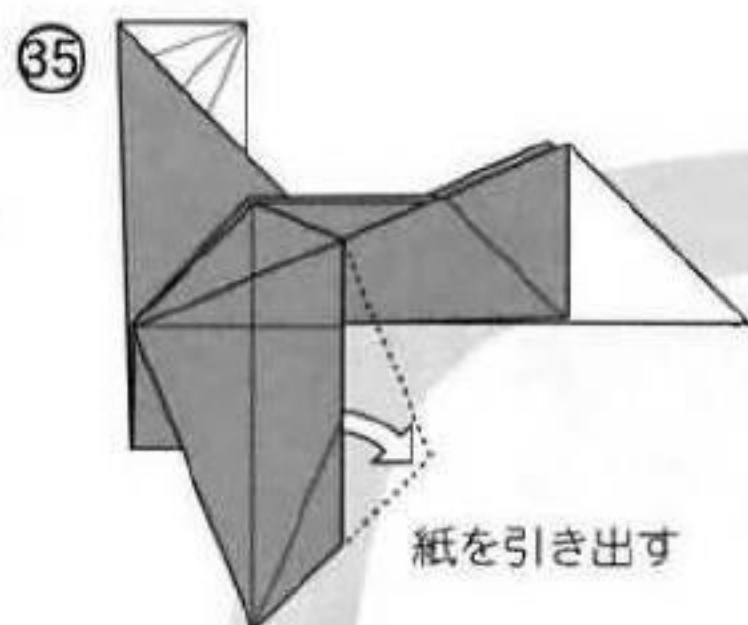
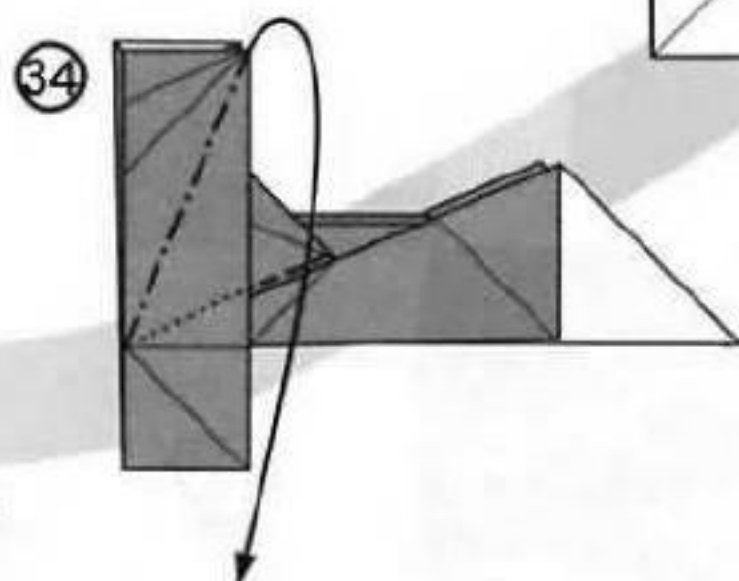




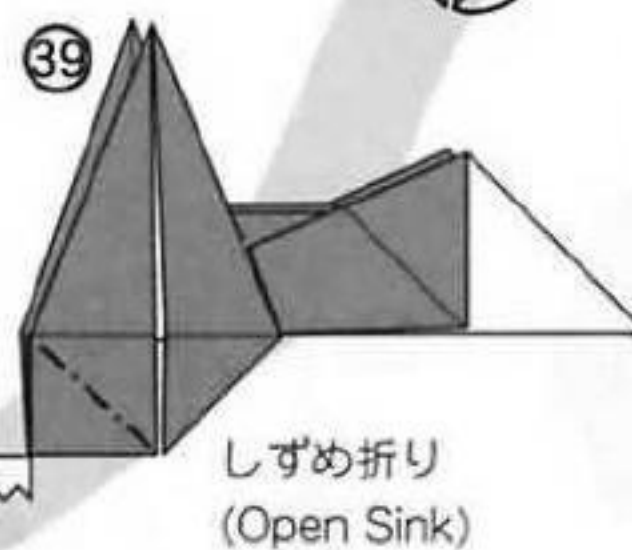
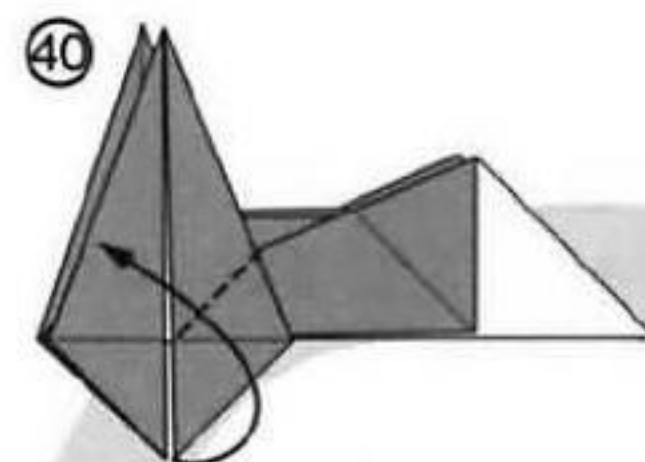
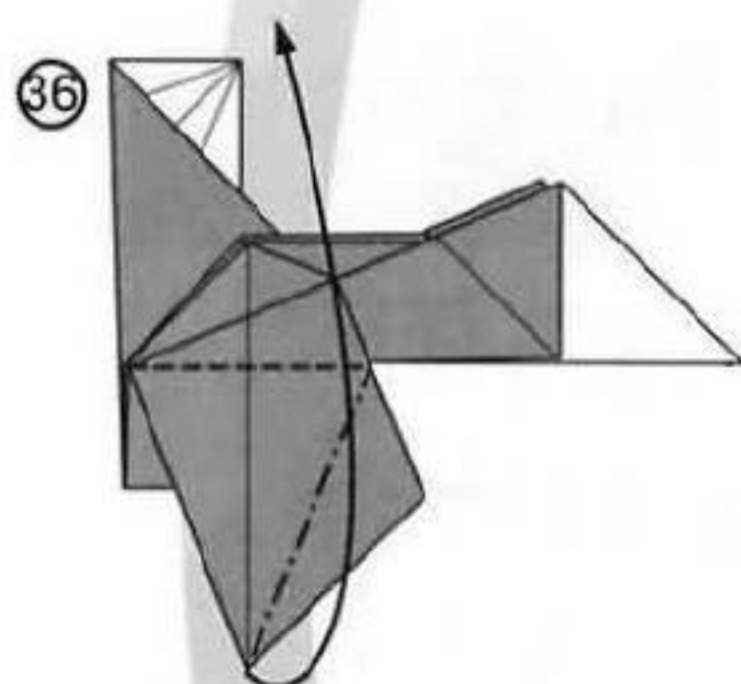
かぶせるように折る



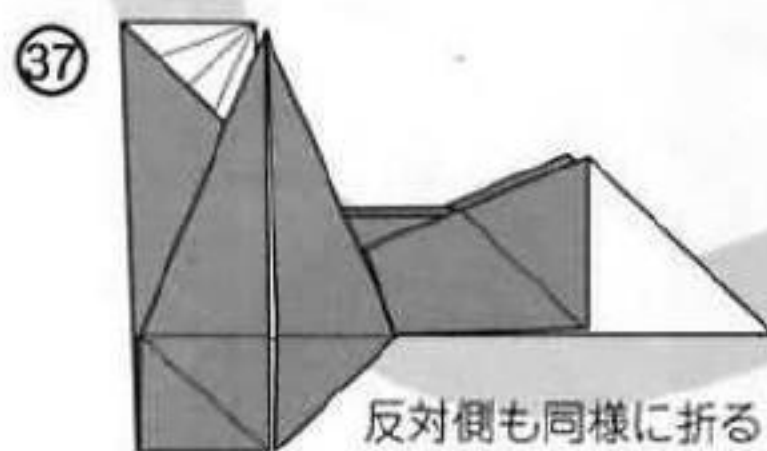
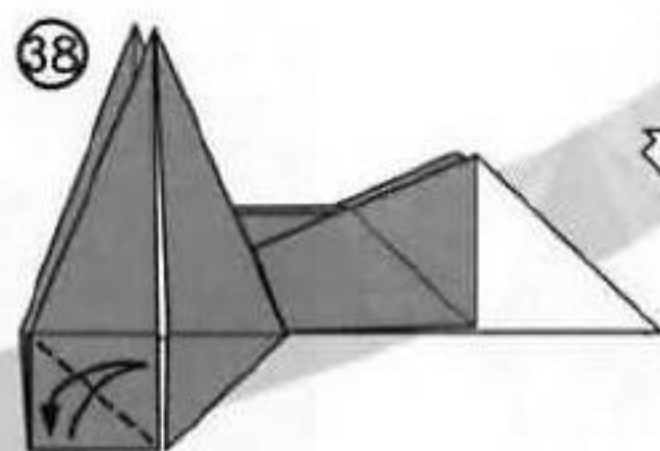
かぶせるように折る



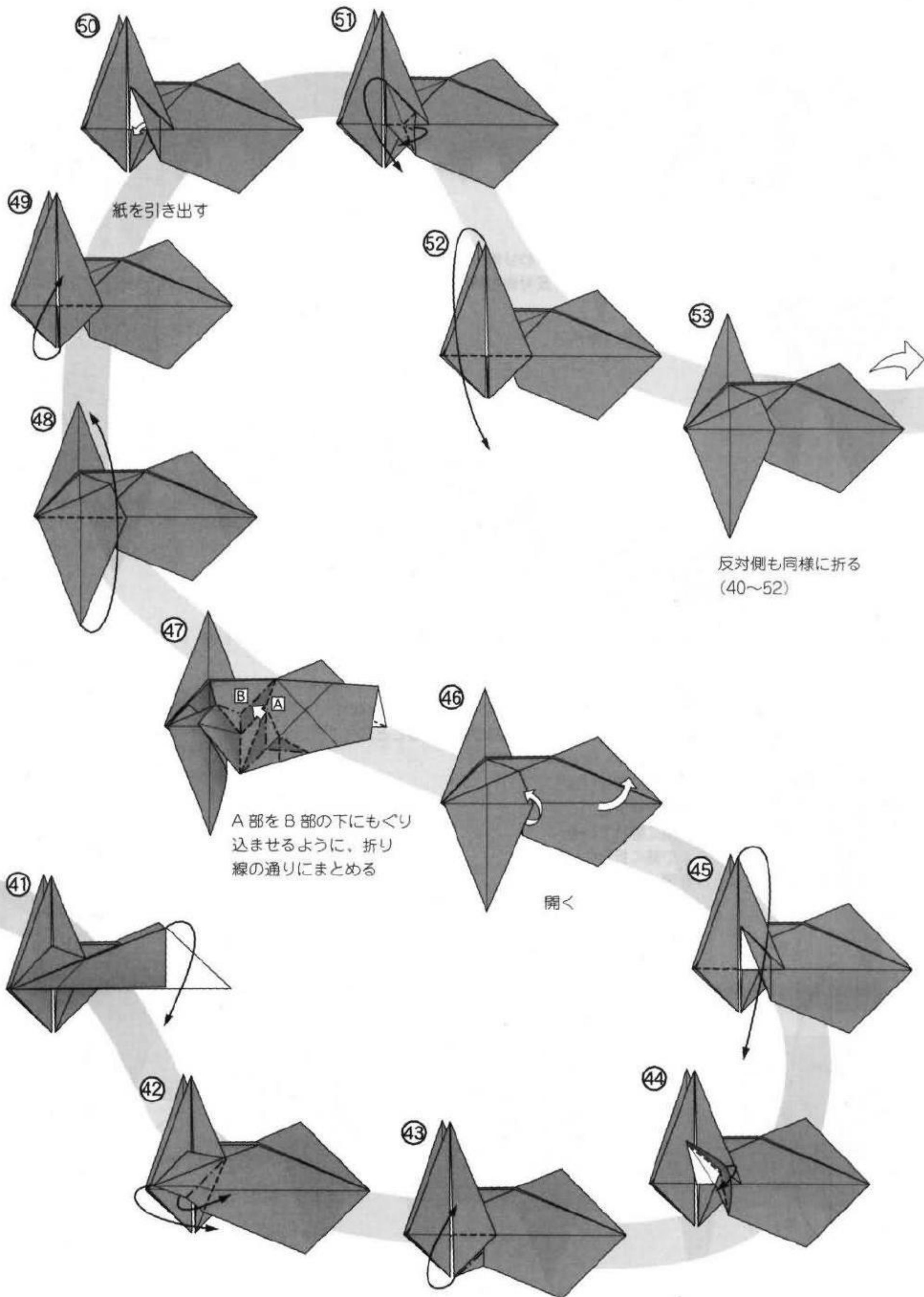
紙を引き出す



しずめ折り
(Open Sink)

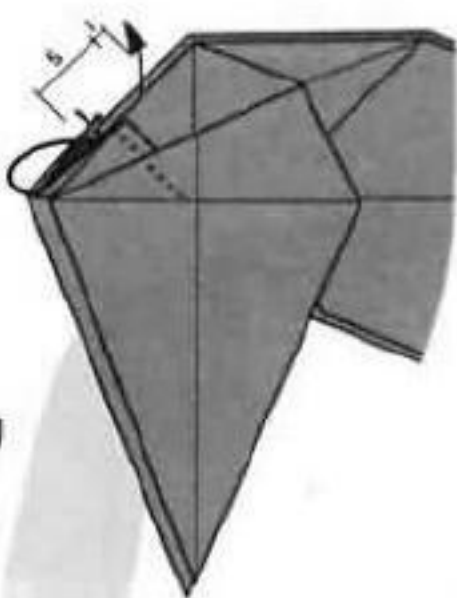


反対側も同様に折る
(34~36)



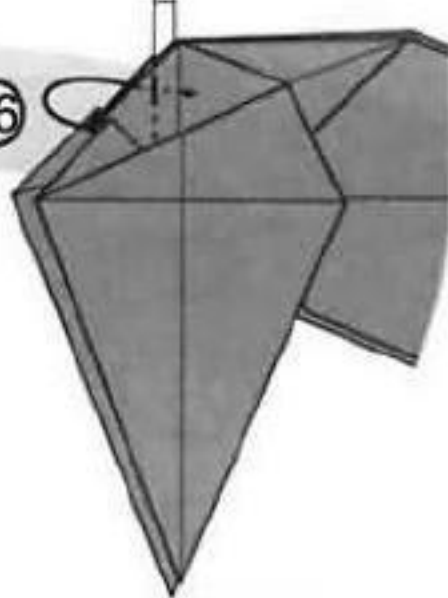
55

約 1/6 の
ところで
中わり折り

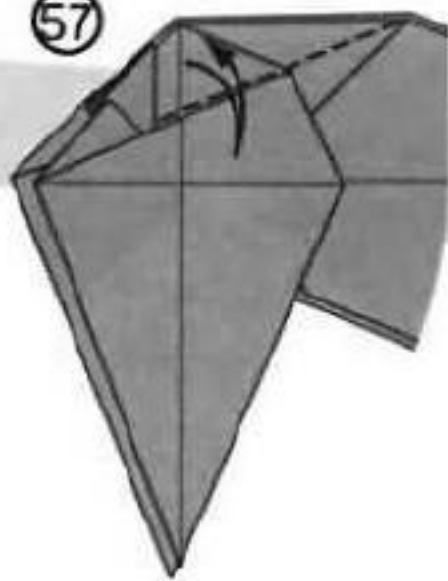


56

中わり折り
反対側も同じ

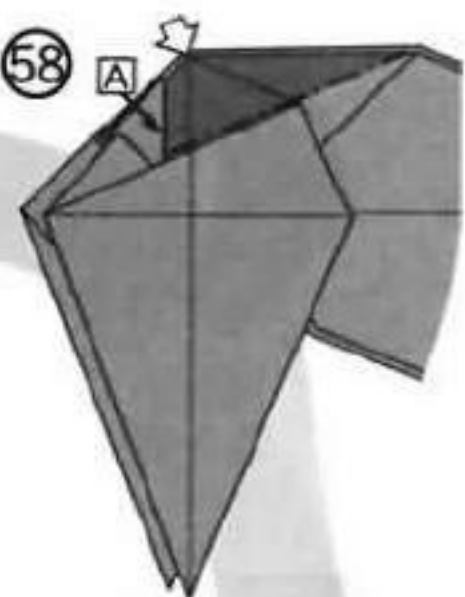


57



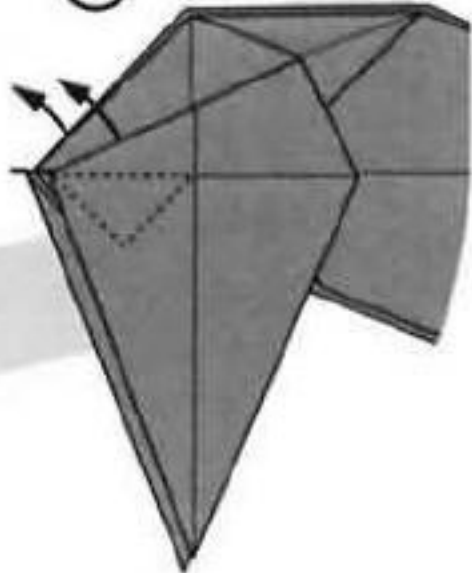
58

しずめ折り (Open Sink)
ただし、A 部の重なりは
そのままにすること

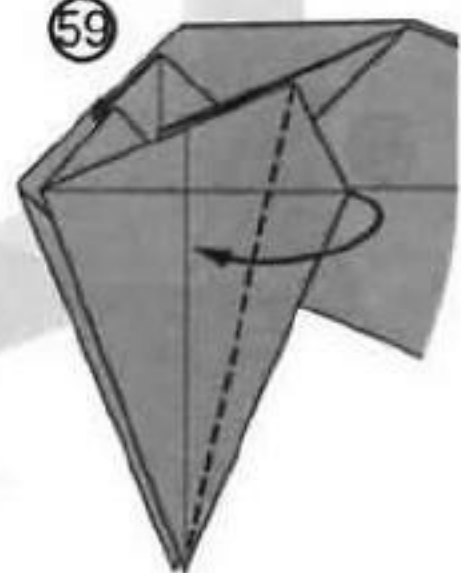


54

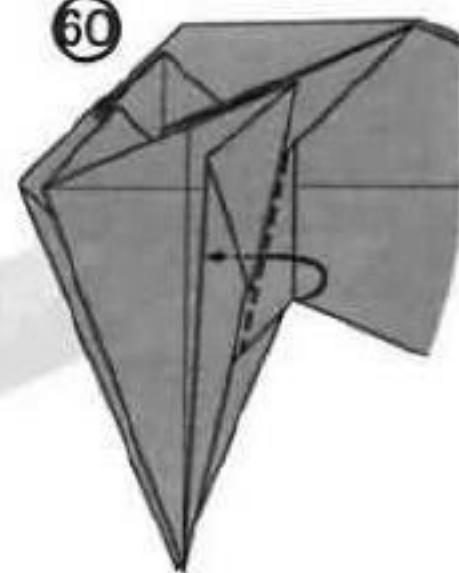
中わり折り



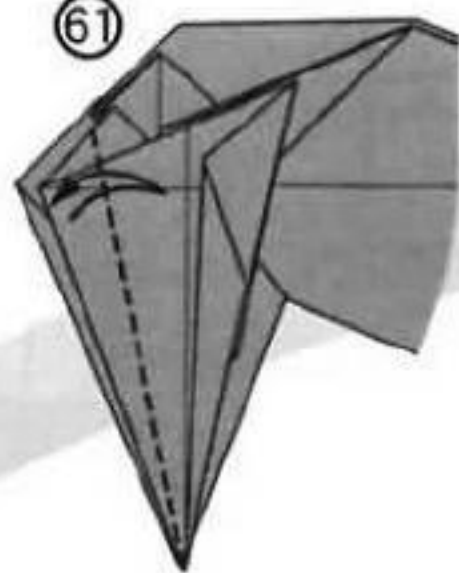
59



60

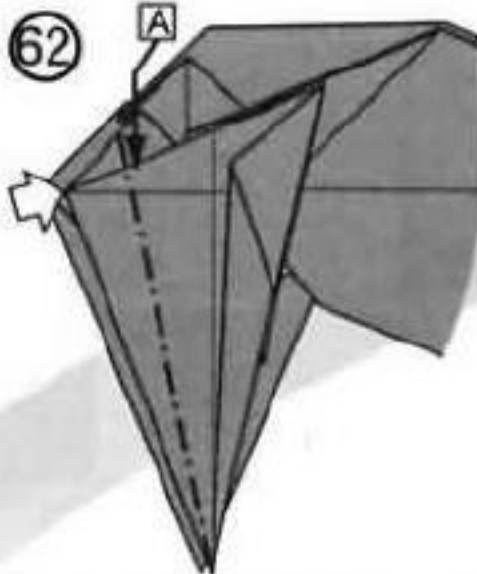


61



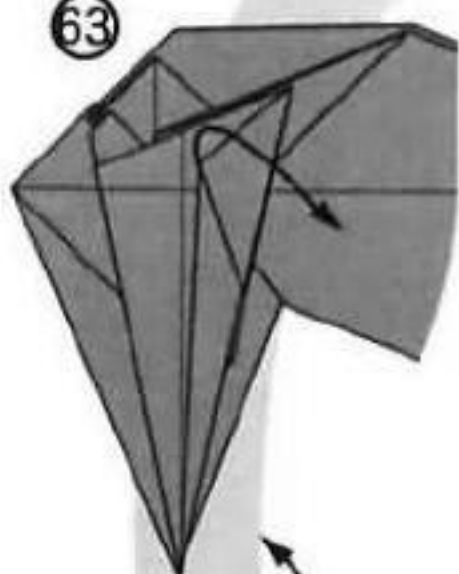
62

折り筋をつける
(中心線に合わせるのではなく
右側と同じ幅で折ること)

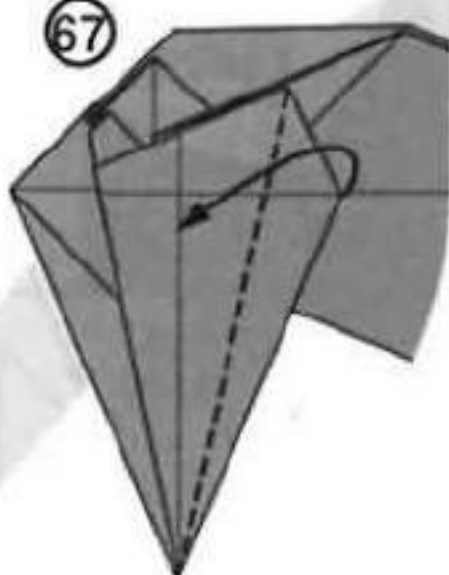


63

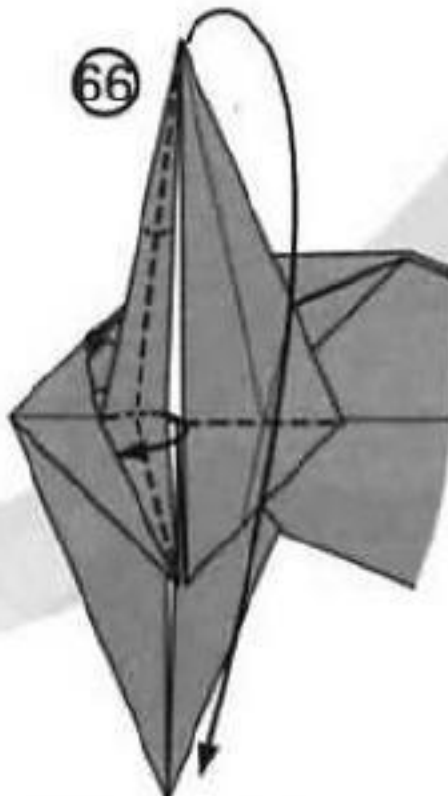
しずめ折り (Open Sink)
ただし、A 部の重なりは
そのままにすること
また、下側に隠れている
角は先まで細く折らない
(65 図参照)



67

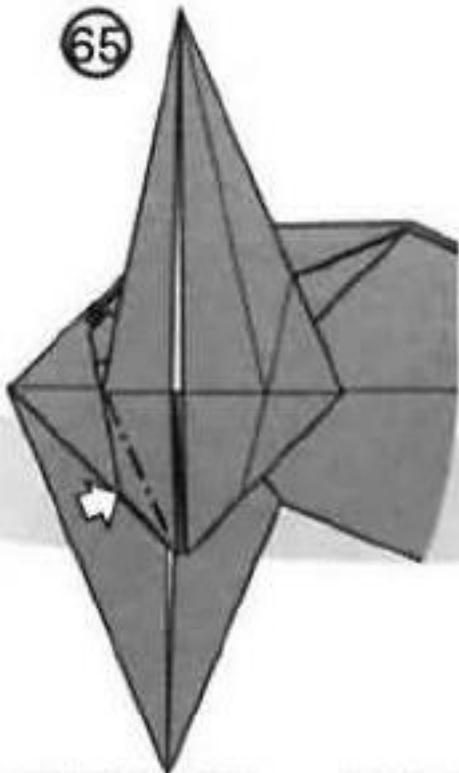


66

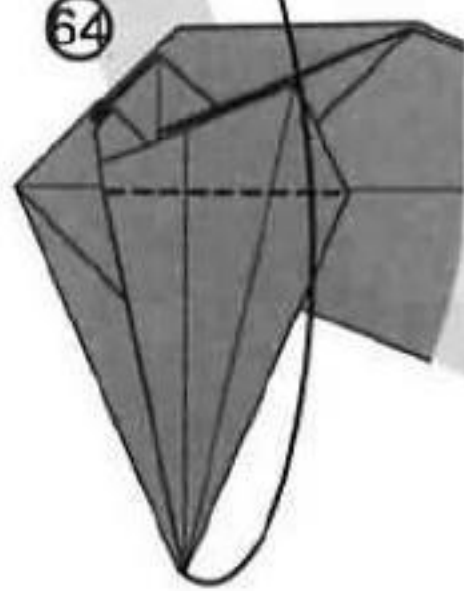


65

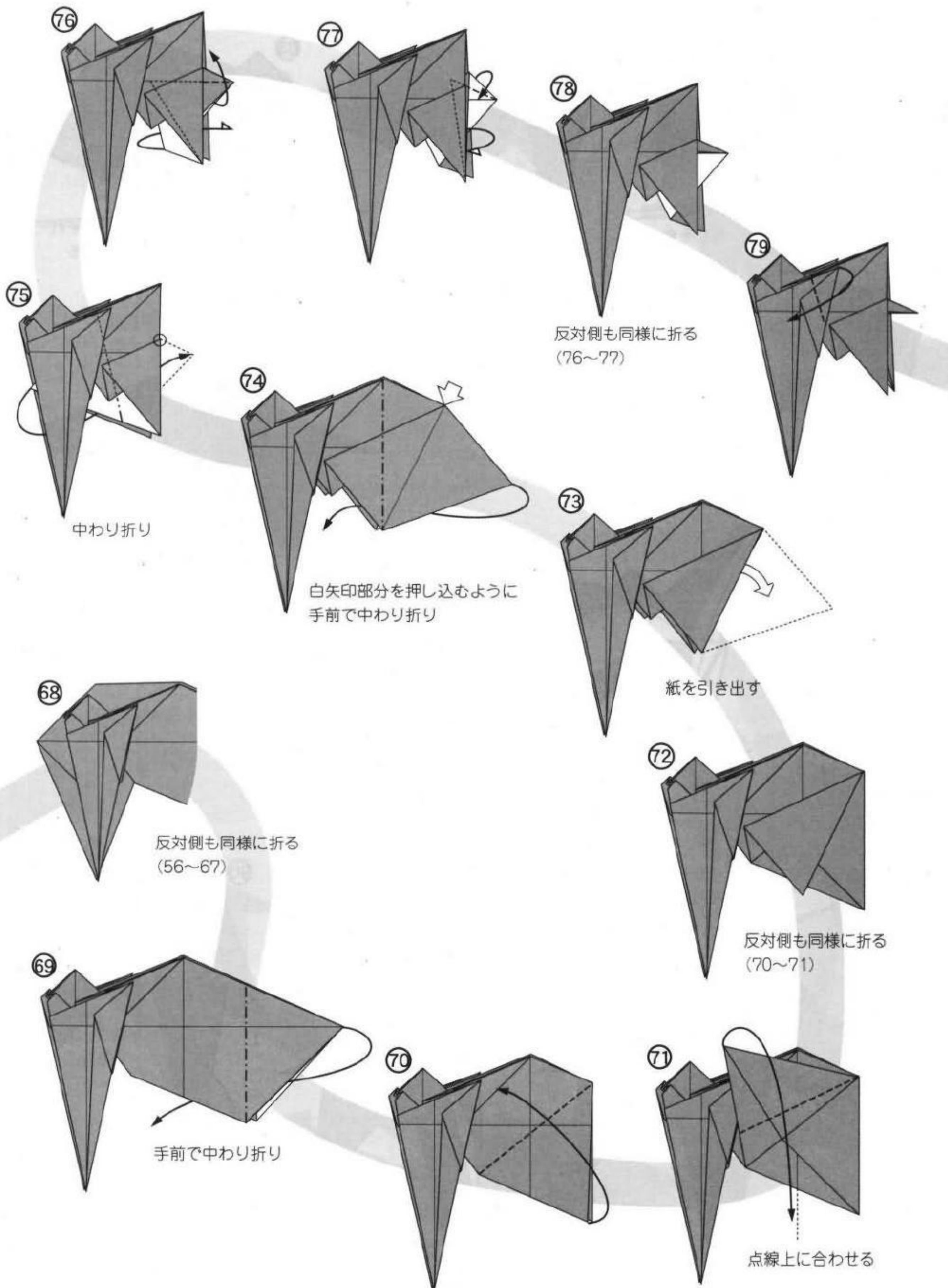
しずめ折り (Closed Sink)

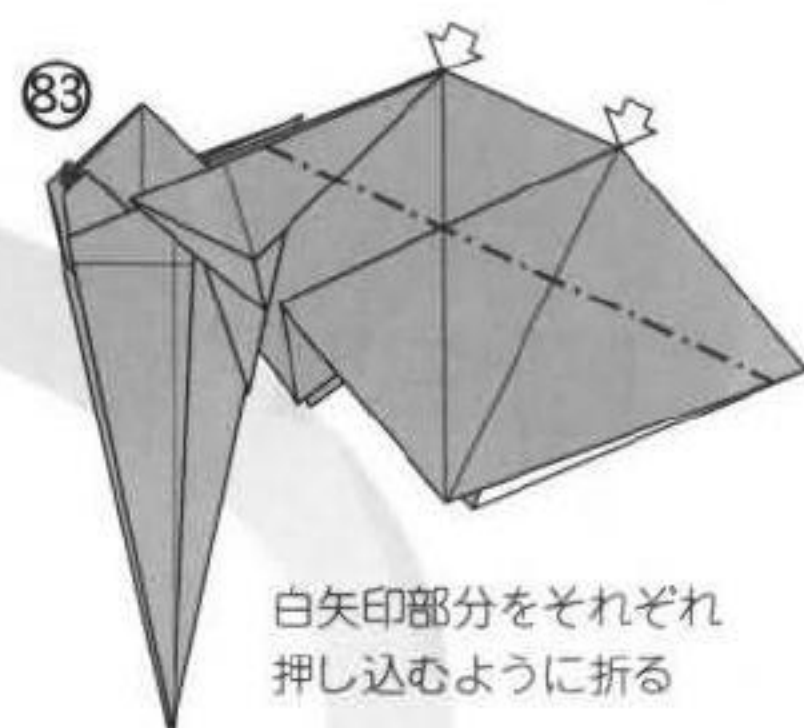
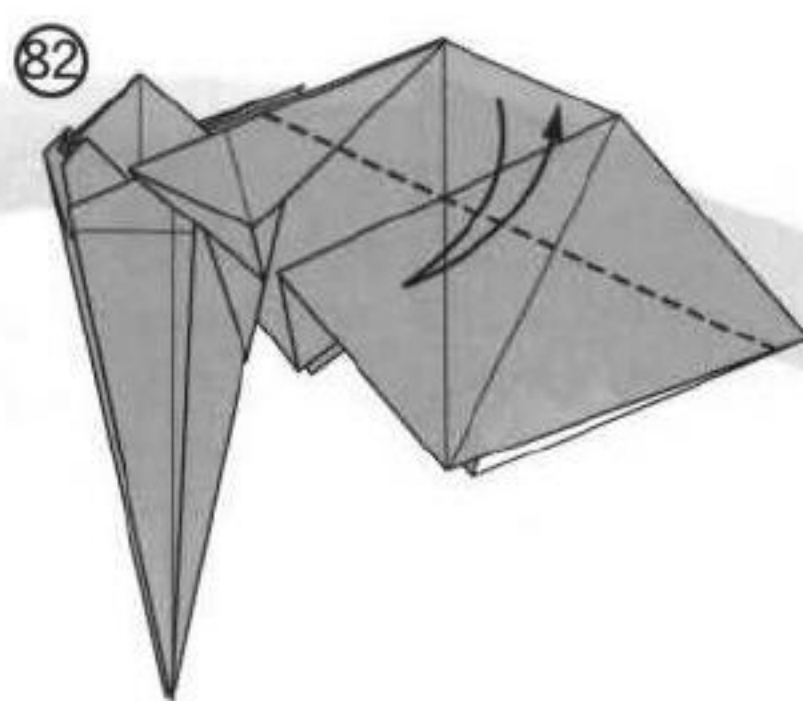


64



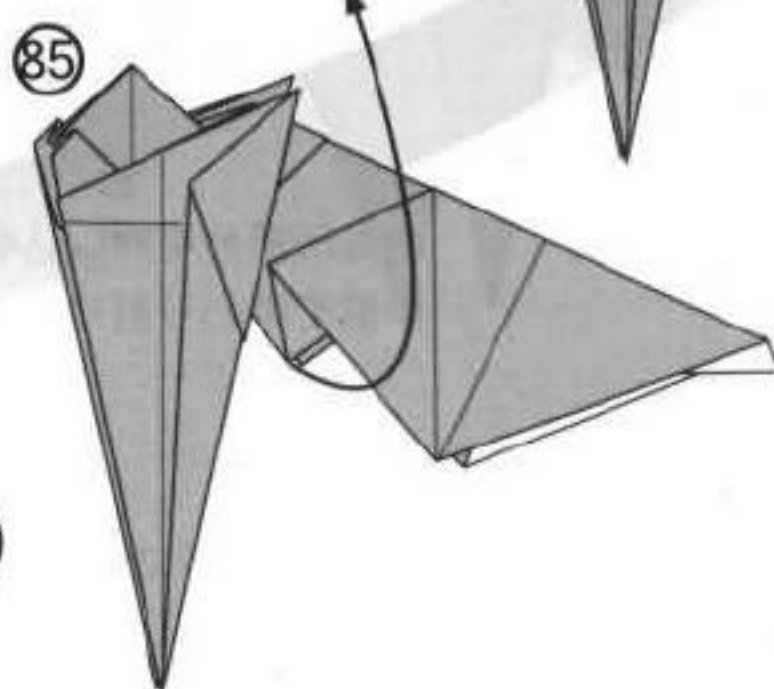
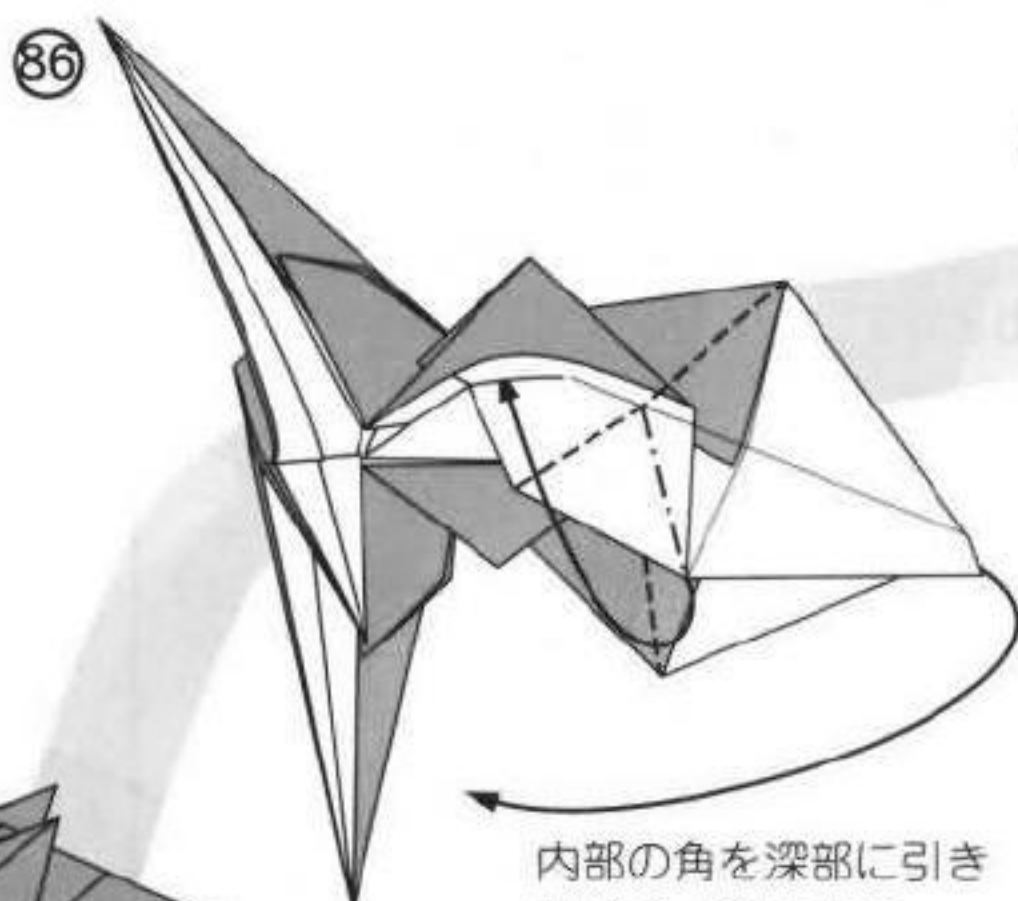
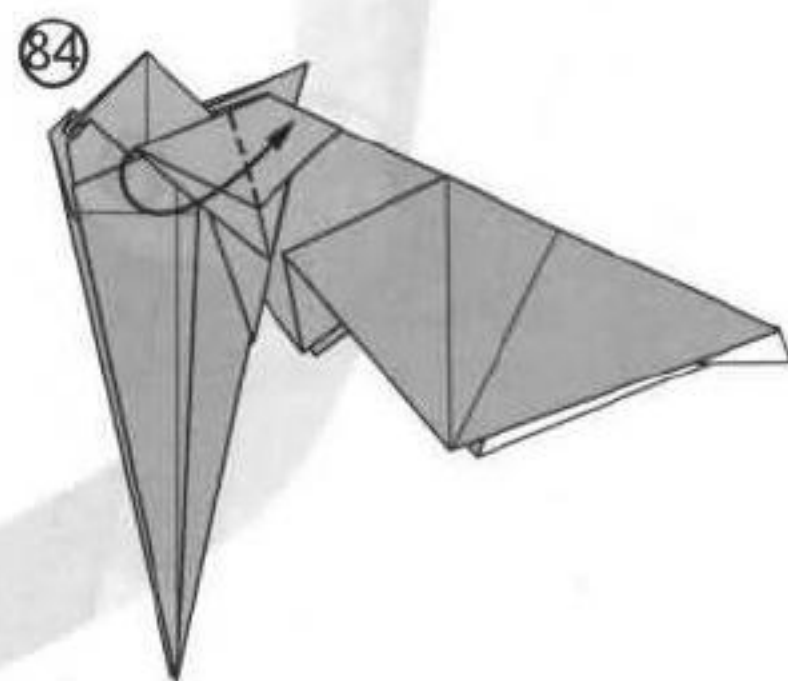
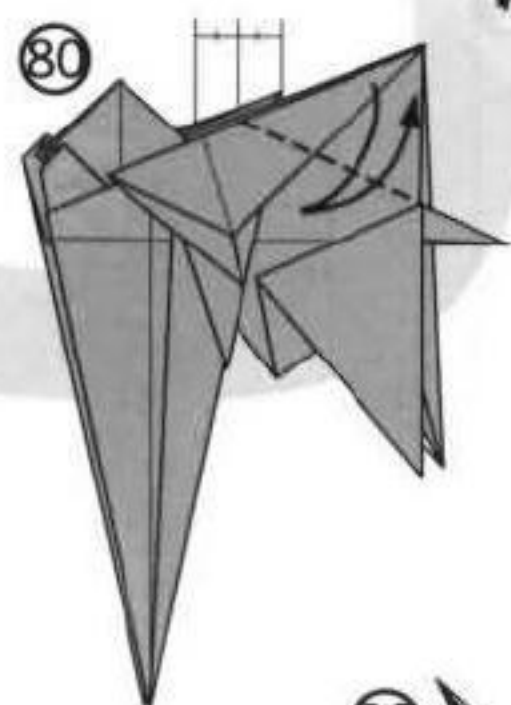
上部の角を、縁に
合わせて折るようにして、
全体を折り下げる



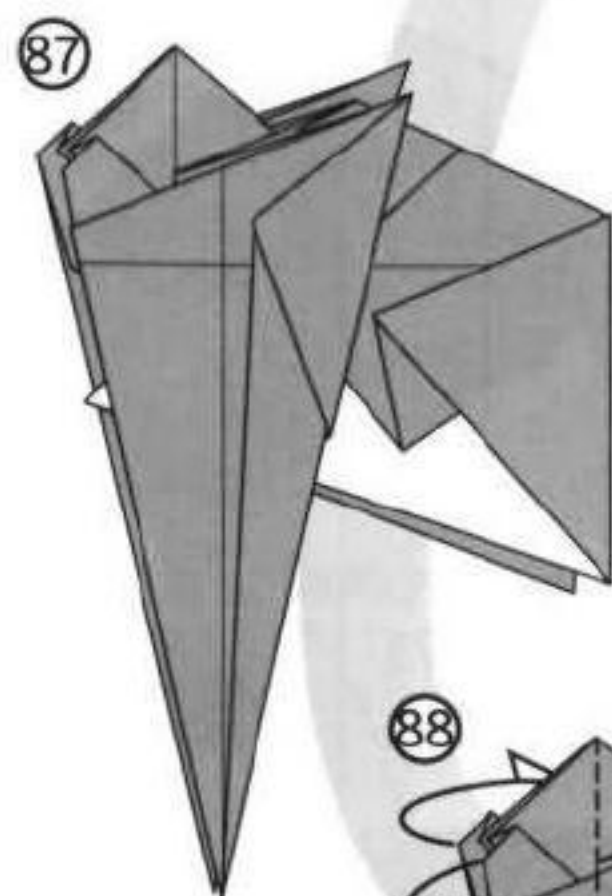


74 図の状態
まで戻す

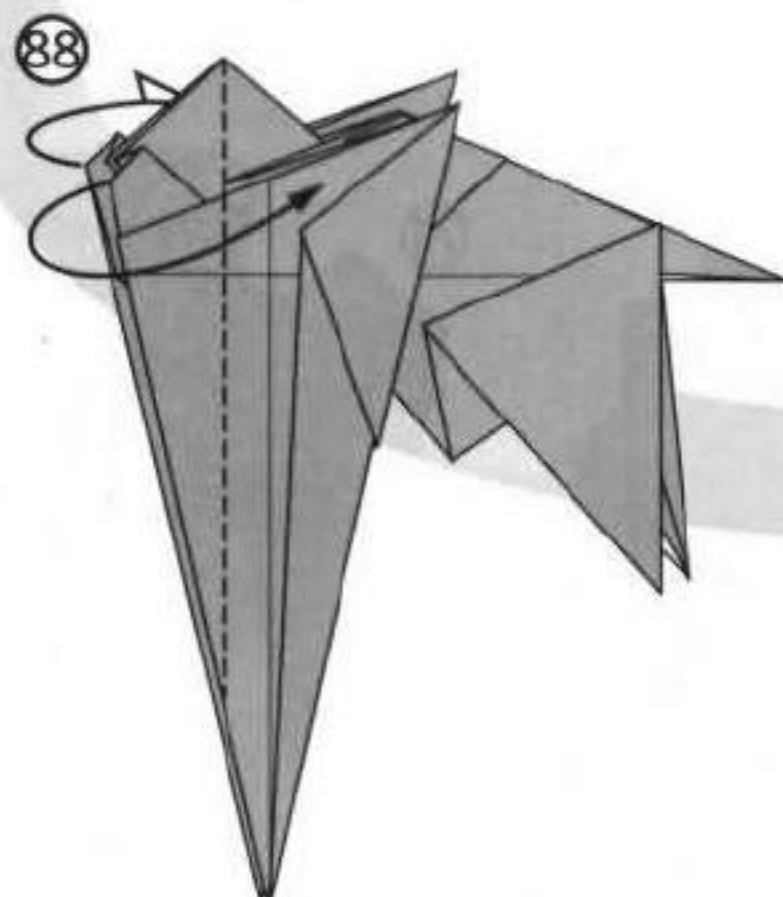
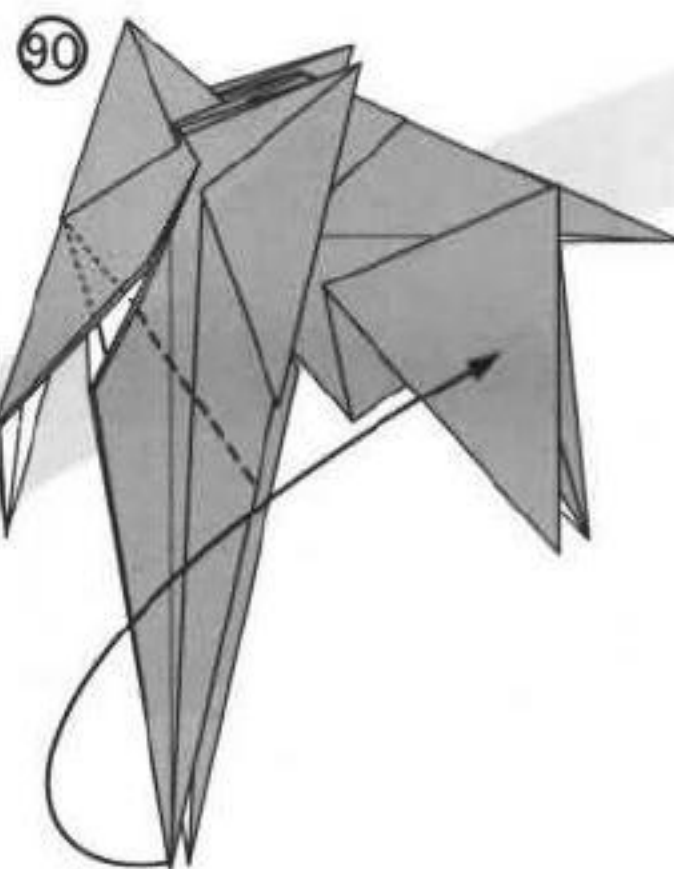
白矢印部分をそれぞれ
押し込むように折る



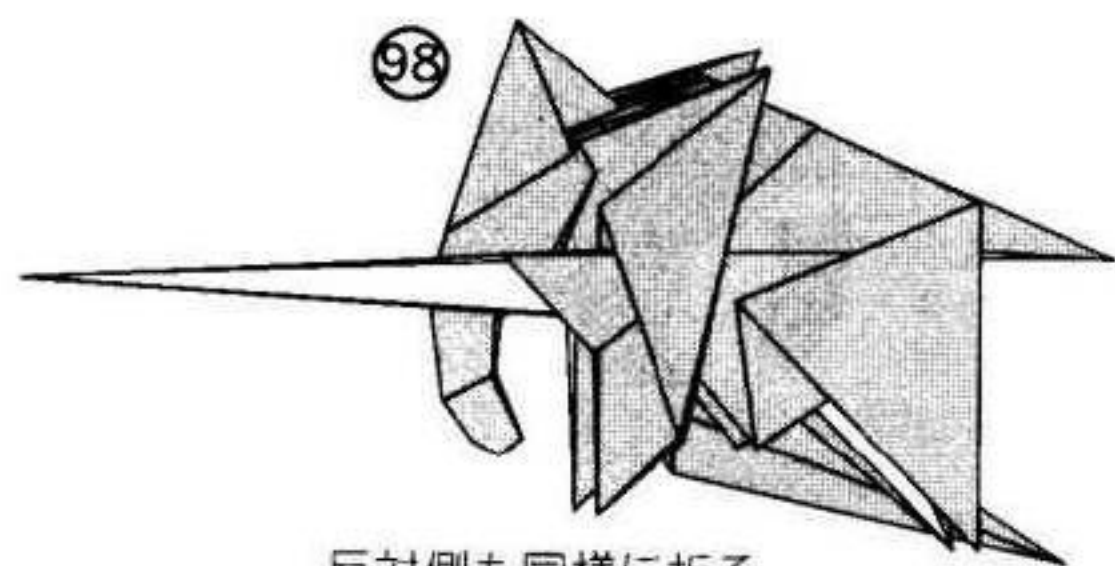
内部の角を深部に引き
寄せるように折る



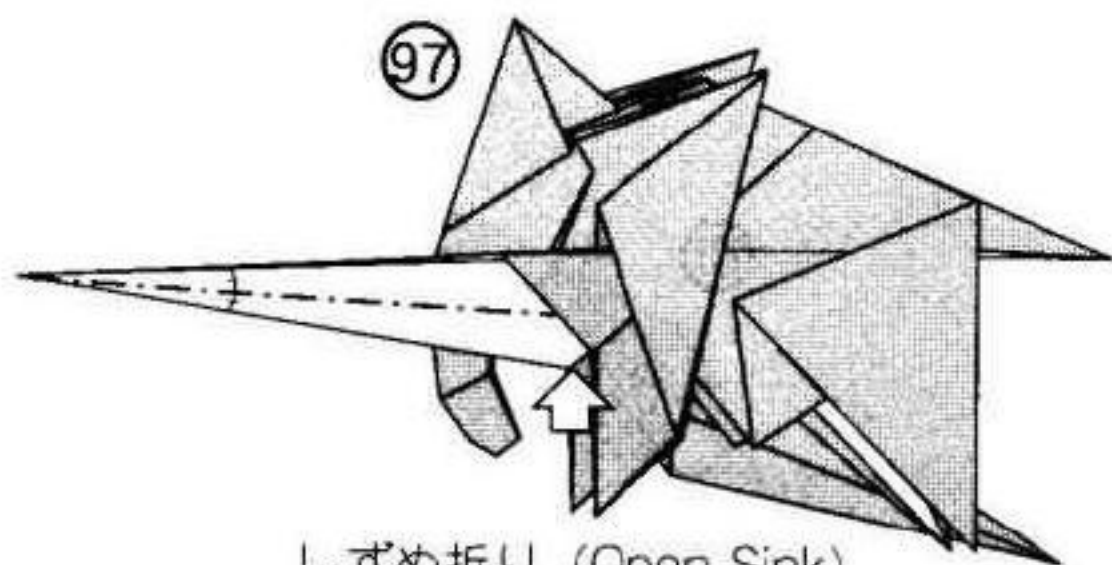
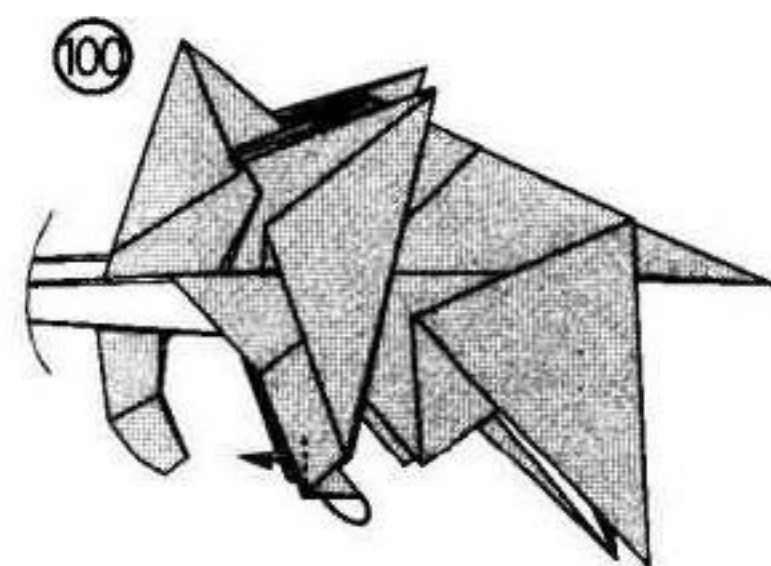
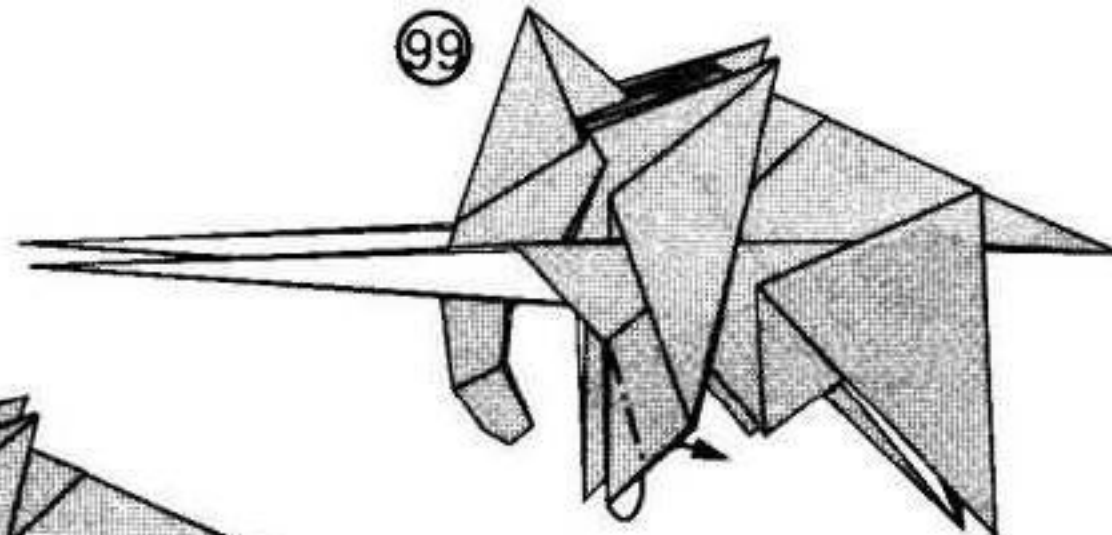
75~78 の工程をくり返す
(ただし、上部がロックされ
ているため折りにくい)



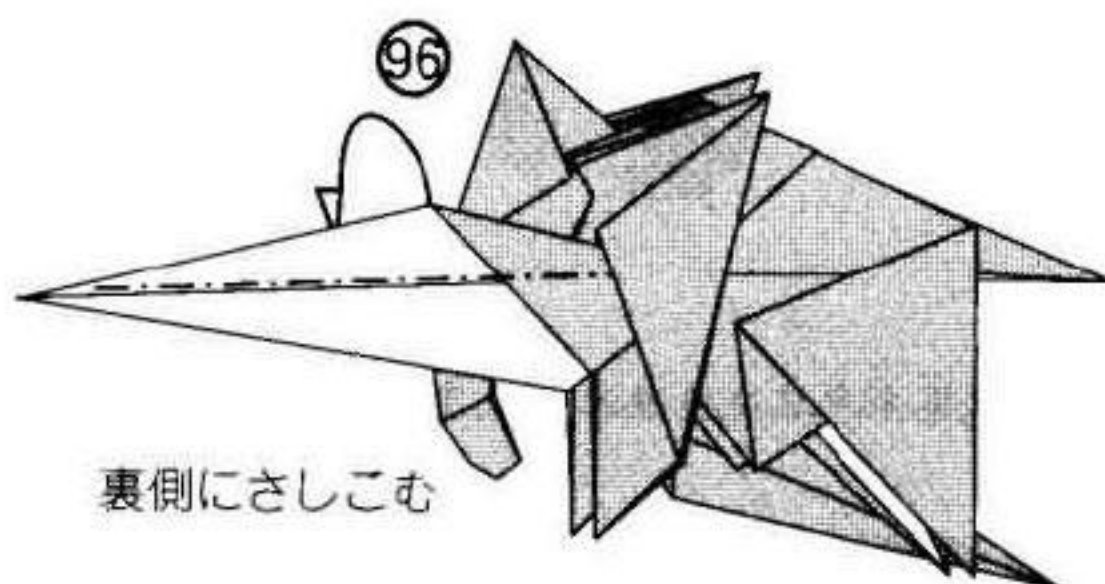
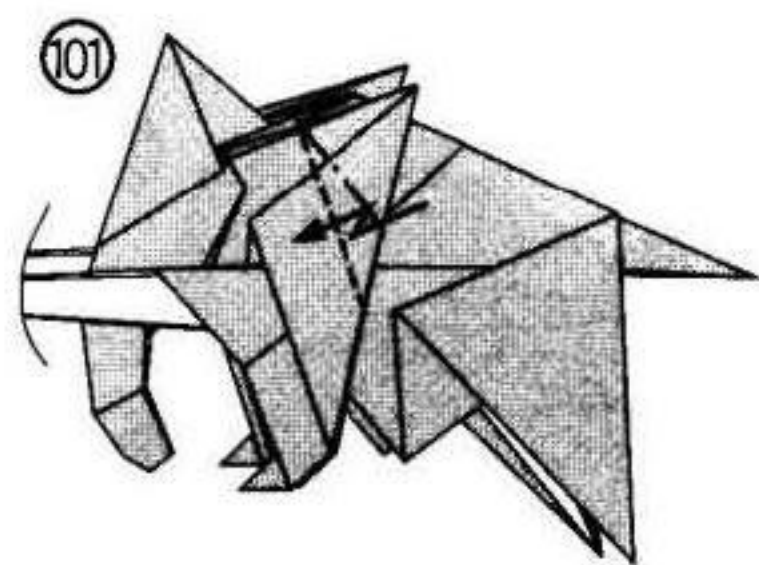
ななめに引き上げる



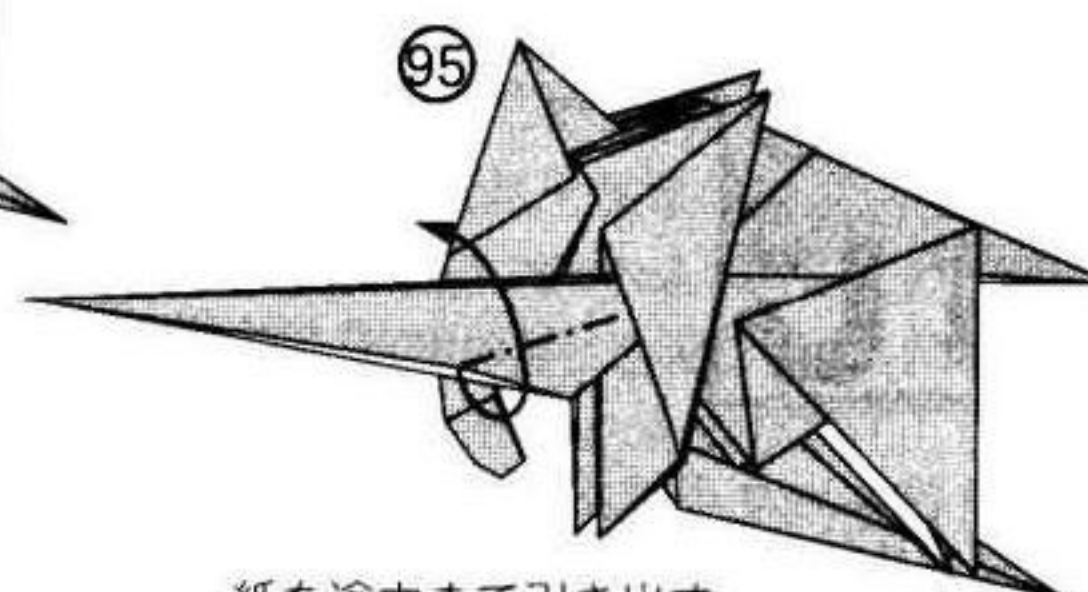
反対側も同様に折る
(94~97)



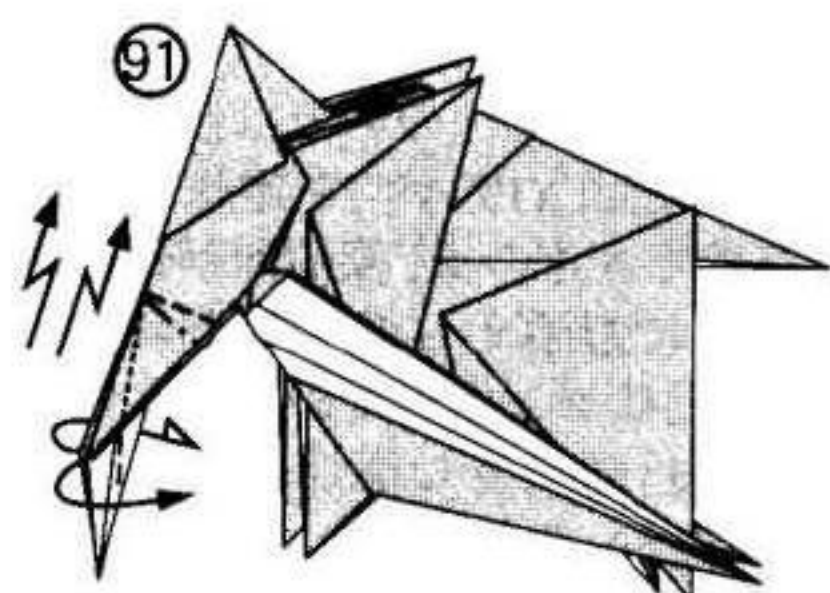
しずめ折り (Open Sink)



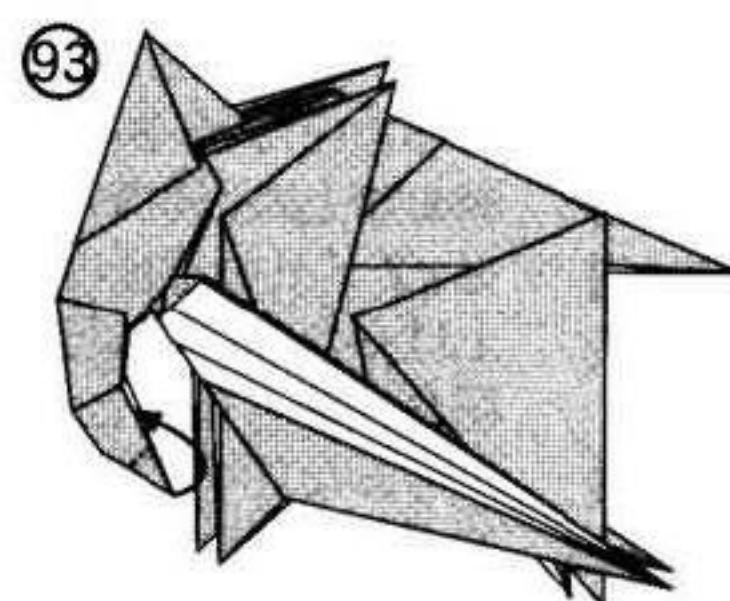
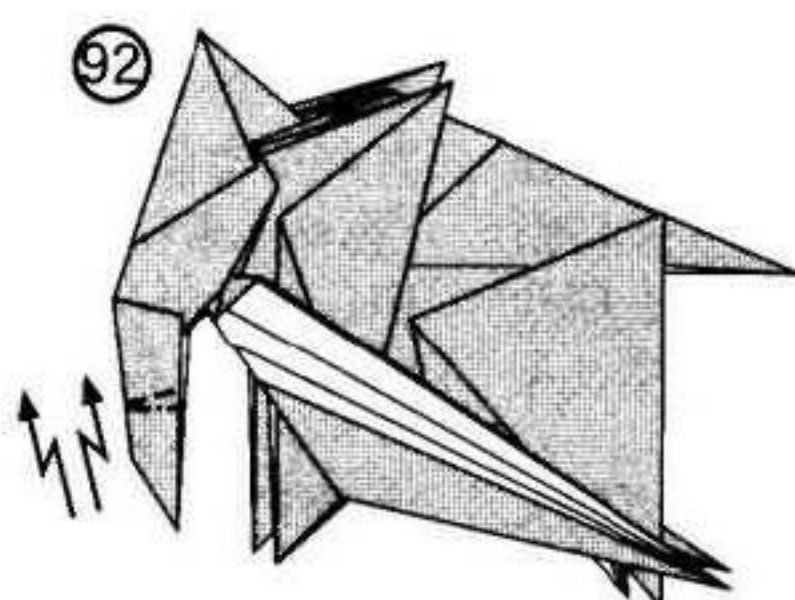
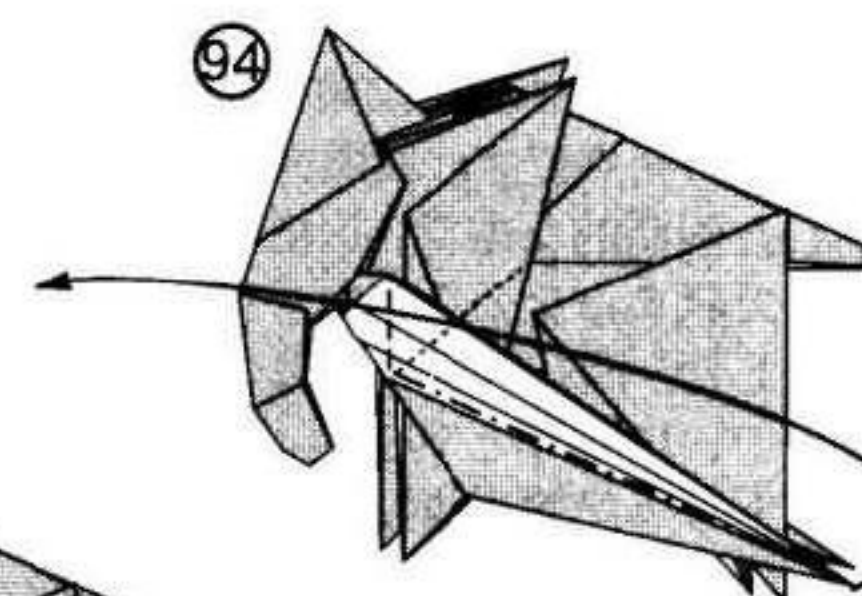
裏側にさしこむ

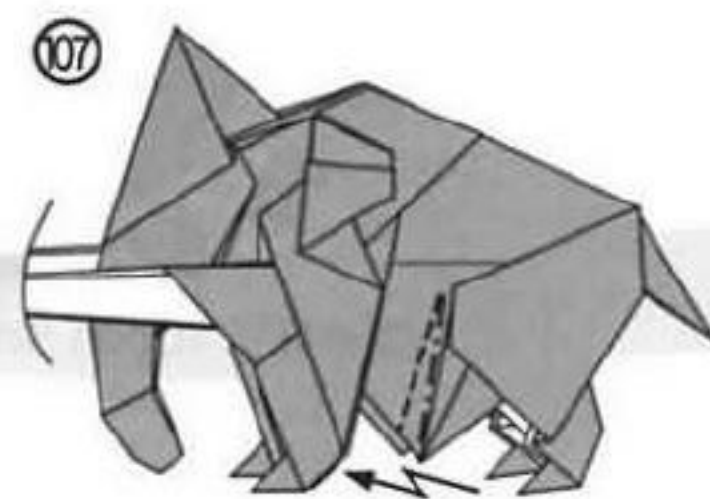
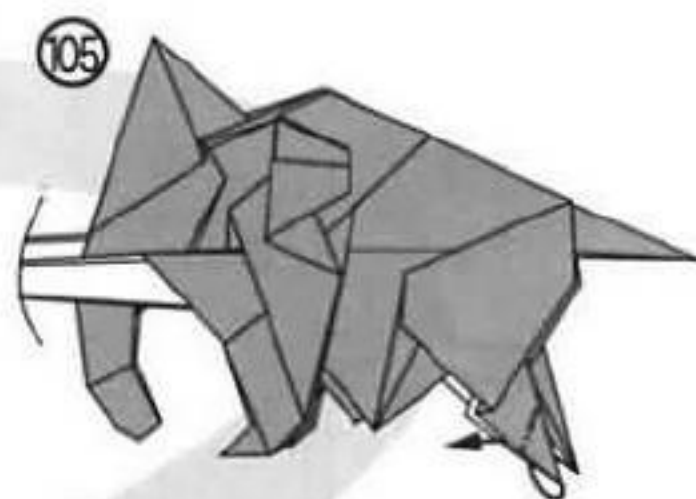
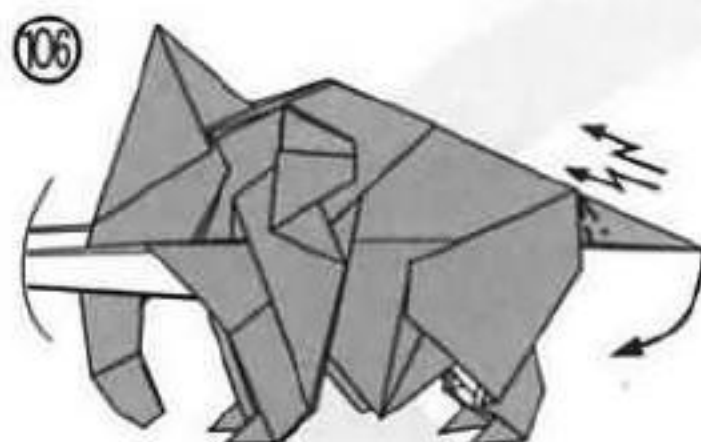
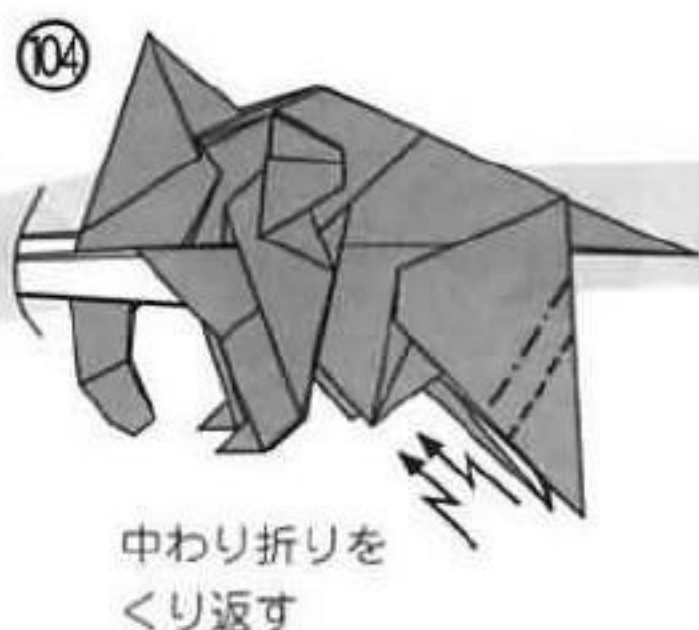
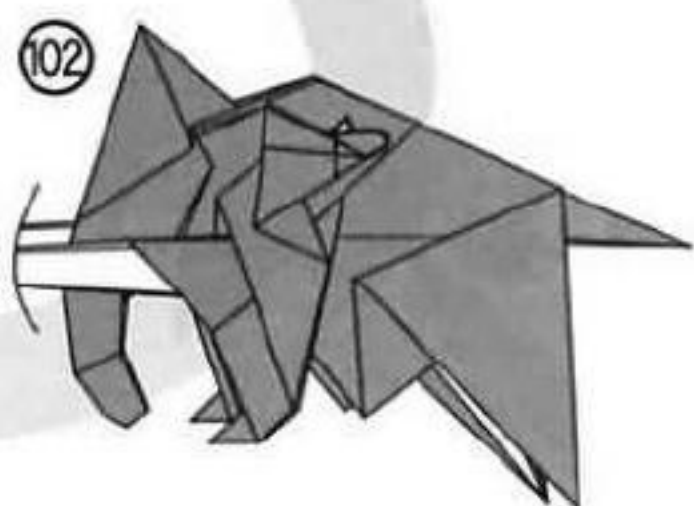
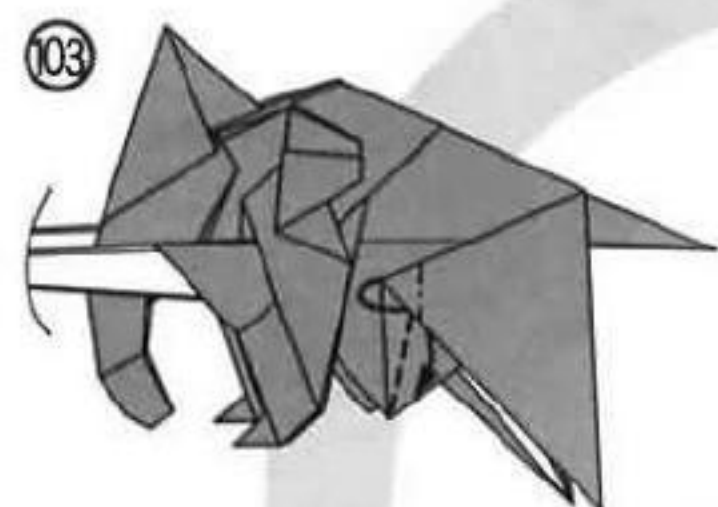


紙を途中まで引き出す



ななめに段折りをしながら
かぶせ折り





段折り (立体的になる)



Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙も創るピンボーラー

A pinball player who creates origami works as well

Horiguchi Masaya

堀口昌哉

凝り性というのは困ったもんです。私は趣味等で7つの事柄に携わり、どれも20年や30年も続いています。常に雑事に振り回され、前途不透明です。

折紙は最も長い趣味で、幼児期に母が買ってくれた内山興正著『折り紙』が出发点です。展開図の系統を示した画期的な本で、折紙が子供の遊びで収まらないことが子供心に響きました。同好者との交流は大学卒業後で、1985年と1986年のNOAシンポジウムで現在JOAS評議員の岡村、山口、木村、西川各氏に会って視野が広がりました。前川作品に驚き、John MONTROLL氏には直接会って感化されました。

当時私は出身大学の数学科職員で、学科図書室では折紙作品の展示

もしていました。学科購読の雑誌『数学セミナー』1984年9月号より連載の芳賀和夫「1枚の正方形から素手で折る幾何図形」の影響も大でした。やがて折紙探偵団結成時に私も加えて頂けましたが、その頃私は他の趣味のために必死でした。

ピンボール普及のため、ゲーム会社に転職(これが転落人生の始まり?)したのです。業務外でも世界選手権等の催し参加で十数回渡米し、日本代表としてスピーチしたり各国選手と交流しました(折紙も有用でした)。優勝も経験しました。国内外で雑誌やTVに出て、アメリカ遠征時はCNNにも取り上げられました。日本初のピンボール紹介書籍も仲間と執筆しました。

そんな日々で探偵団の催しに長期欠席の私でしたが、たまには創作もひら

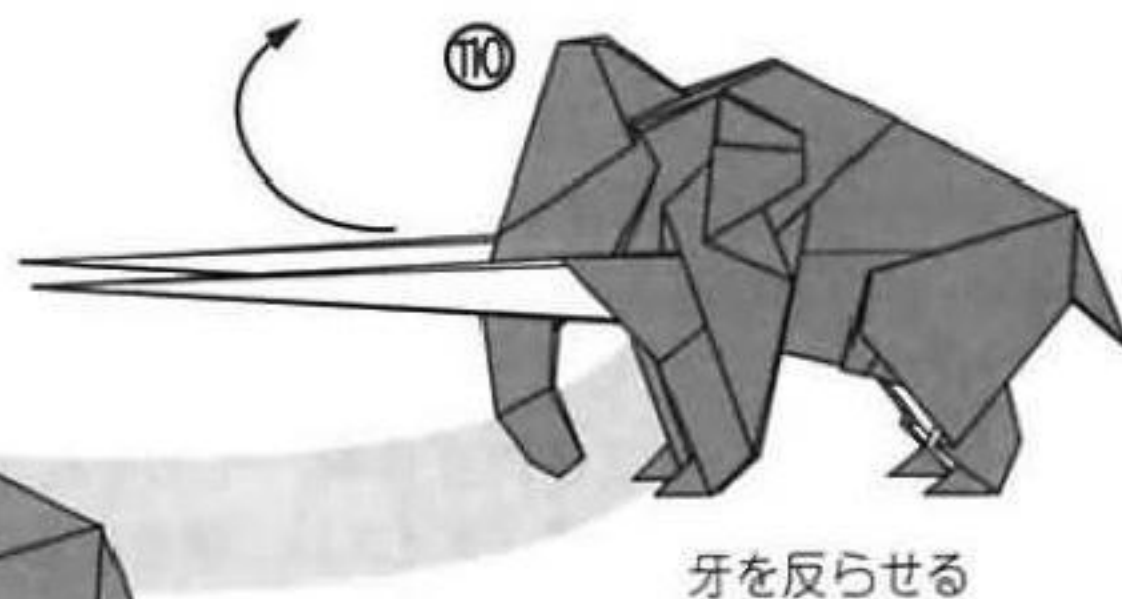
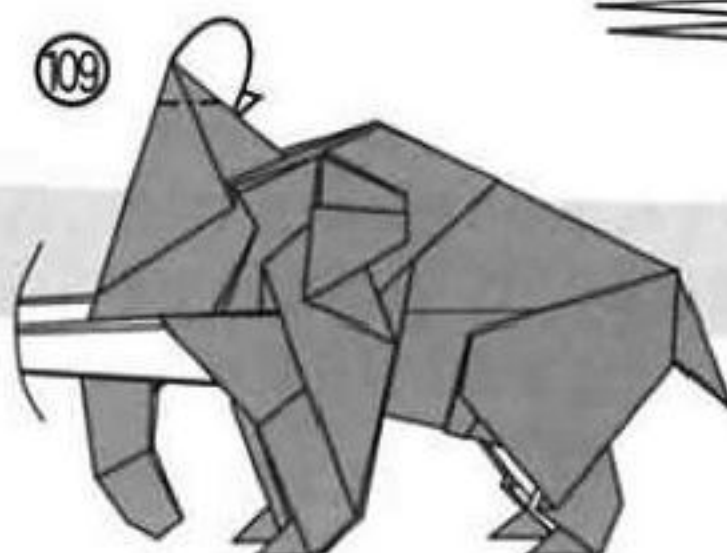
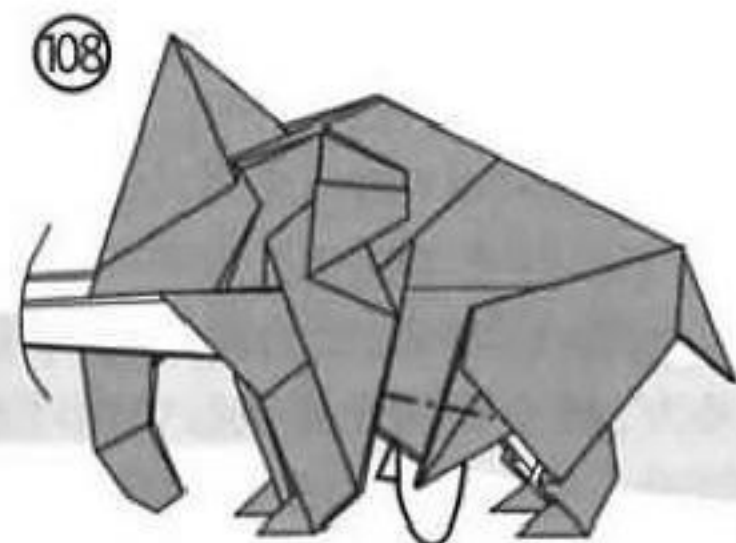
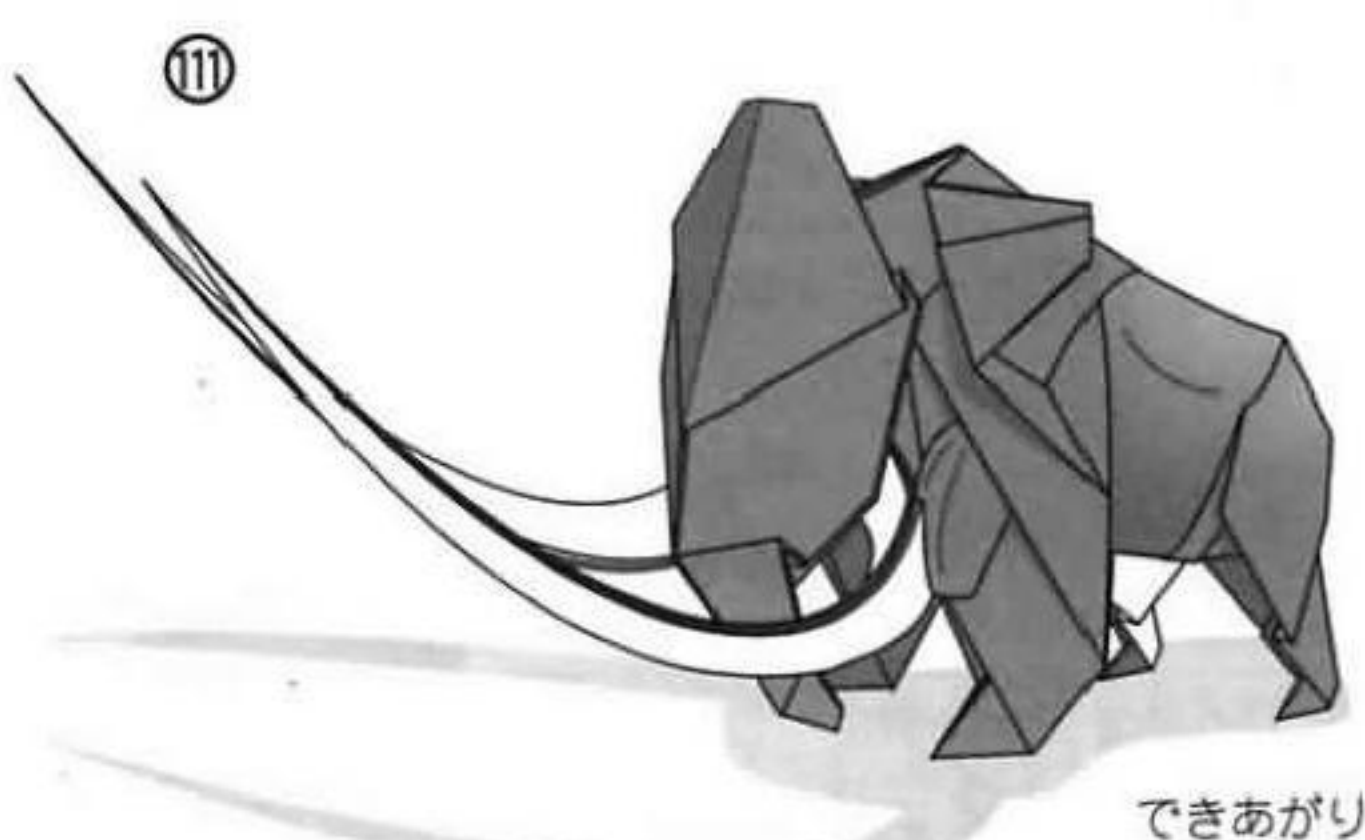
めきました。拙作の中では最高傑作たる「Smile!」(1994年)を雑誌「をる」で発表できたのは、探偵団が首も宣告せずに力添えしてくれたお陰です。最近ではピンボールの表舞台から退き、折紙に少し復帰して最新作「日の丸」もできました。しかしまだ浦島太郎状態なので、地道に活動したいです。

私の今までの習慣や方針は「不折一枚折り」、「道具も机などの台も使わない」、「主に15cm角折紙を使う」といったところです。今後の目標は「忘れる前に折図を描く」、「21世紀中におりがみはうすが発行する予定(?)の「ひねくれもの作家作品集シリーズ」の第1巻の著者となる」ことです。

～作者から一言～

第3回折紙探偵団コンベンション折り図集に簡易版の折り図が掲載されましたが、今回はその完全版です。目、耳の折り出し、背中処理などが異なり、難易度は確実に上がっています。最低でも24cm以上の紙を用いてください。

ホイル紙を用いなくても十分折れますが、ただ牙の形が決まらないと思います。私は、牙の部分全体をボンド付けして、ドライヤーで乾かして形を固定するという荒療治をすることが多いです。



折紙三昧 ⑤

Origami-Zanmai (This Origami and That)

21世紀

The 21st century

物心がついたころから37という年齢を時々考えることがありました。自分が21世紀を迎える頃について想像を巡らしてのことです。アポロが月に着陸したこととはほぼ同時にスタートした私の物心は、火星旅行くらいはしている自分を想像していたはずです。現実とは現実として、年初に未来について想像を巡らすことは良いことでしょう。

さて、今後100年で折紙はどんなことになっていくのでしょうか。折紙はもともと国境を感じさせない文化ですが、ますます交流が盛んになっていくのは間違いありません。(しかし、未だに仕事先で折紙の話題が出ると日本以外ではやられていないと思っている人に出くわし、閉口してしまいます。「海外で

得意げに鶴を折ろうものなら、お返しにキリンが出て来ても驚かないように」と説明するのですが。)世界各地で才能豊かな創作者が次々と現れて、私達を驚かせ続けてくれる、教育現場や商業広告やその他様々な世界で折紙がどんどん利用される。ついでに本誌の10万部突破などは、現在の延長線上としての現実的な希望。100年くらいを考えても発展こそすれ、すっかり廃れた世の中を想像することは出来ません。情報通信分野が発達して、文書や絵のための媒体に占める「紙」の役割が相対的に小さくなってゆくと考えられます。昨今のデジタルカメラやインターネット上の画像を見ていると、いよいよ「紙」で残す情報は厳選されてゆくのではないかと思います。紙のない世の

中が来てしまったらどうなってしまうでしょう。折紙を仮想体験させる装置が代わりにしてくれるのでしょうか。むしろ、仮想体験に必要な要素を研究することやロボットに人間のようなしなやかな指を実現させるための試金石に折紙を利用するという極めて現実的な課題に興味が向いてしまいます。そしてロボットの性能規格の必須項目に「折紙」というのはどうでしょう。文字や絵以上に折紙体験というものがリアルな「紙(あるいはシート)」を必要としなくなるとは想像しがたいですね。リアルな「紙」の必要性の大事な要素が「折紙」であるなんて時代が来るかも知れません。

末筆ながら、会員・読者の皆さんにとってより良い新世紀のはじまりとなりますよう心よりお祈り申し上げます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

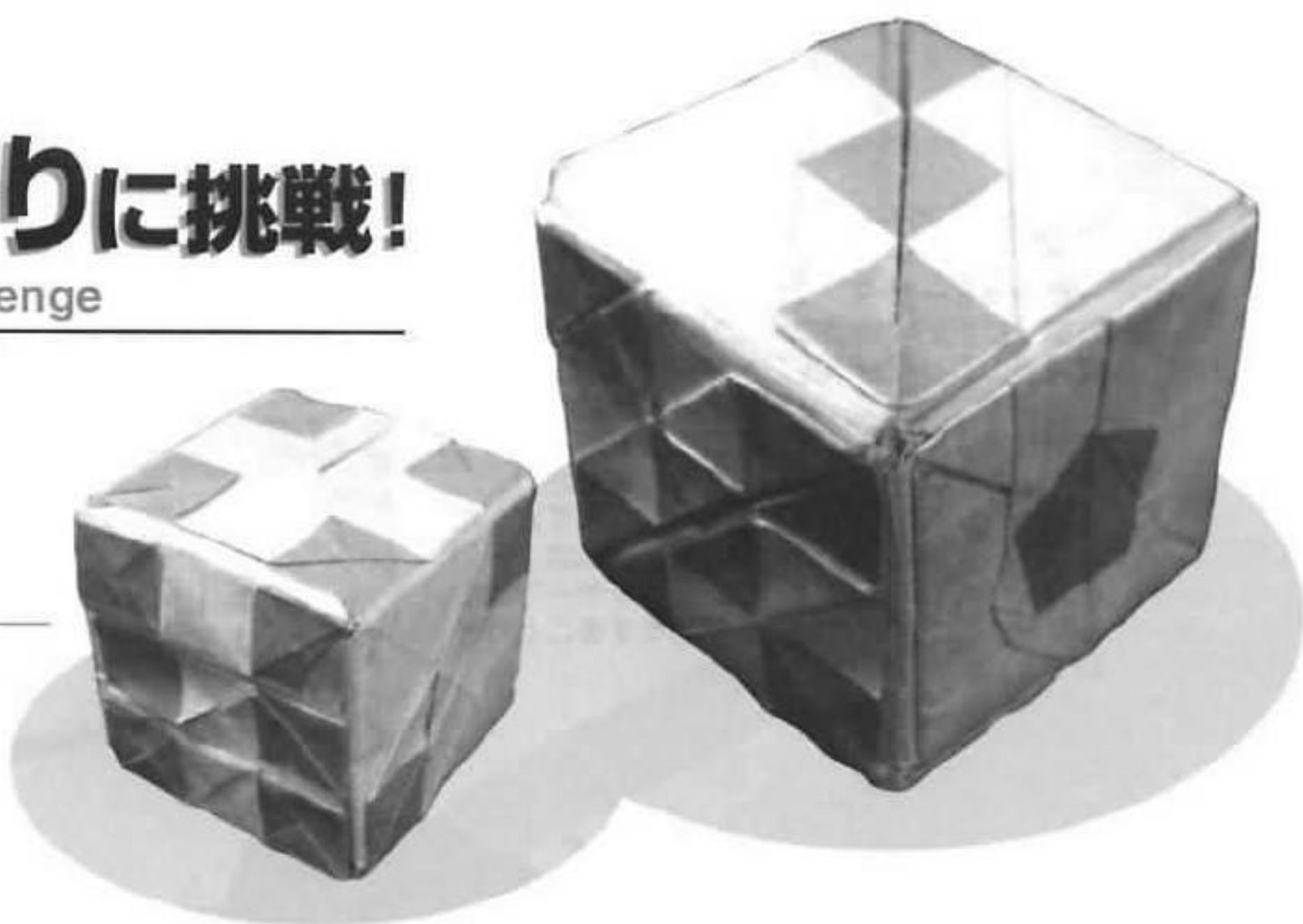
第11回

Dice

ダイス

Tanaka Masashi

田中将司



作 者初の非対称折り紙モデルにして、全周型立体造形かつ、本格インサイド・アウト作品。ついでに本誌初登場作となりました、立体門立体綱立体目立体科田中ダイス属、「ダイス」です。

さて本作の目玉は、なんと言っても、蛇腹特有の板状カドを成形することで表現した、各ダイス目です。各目の折り出し候補を何点か試作し、省スペースかつ最も面白い折り方が出来るものを優先選択し、正方形に埋め込んでいきました。

当初は12等分の蛇腹で試考作誤(造語です)を繰り返していたのですが、それだとしても1の目が折り出せません。「どうせディスプレイする時はどこかの面が下になるだろう?」という、悪魔のささやきも聞こえてきたりしました。

たかが1の目、どこからでも折り出せるさワハハ。などと甘っちょろい考えをしていた自分を、あれほど情けないと思ったことはありません。まさに「1の目を笑う者は1の目に泣く」です。

本作において蛇腹のヒダを増やすことは、完成サイズを縮め、作品をより折りにくくすることです。12等分にこだわったのは、それ以外にも折り筋のつけ易さが挙げられます。泣きながら13等分の折り線(面倒です)を刻んでいく私。そんな自分を、心のどこかで冷静にみつめる別の自分がいたことは今回の話と

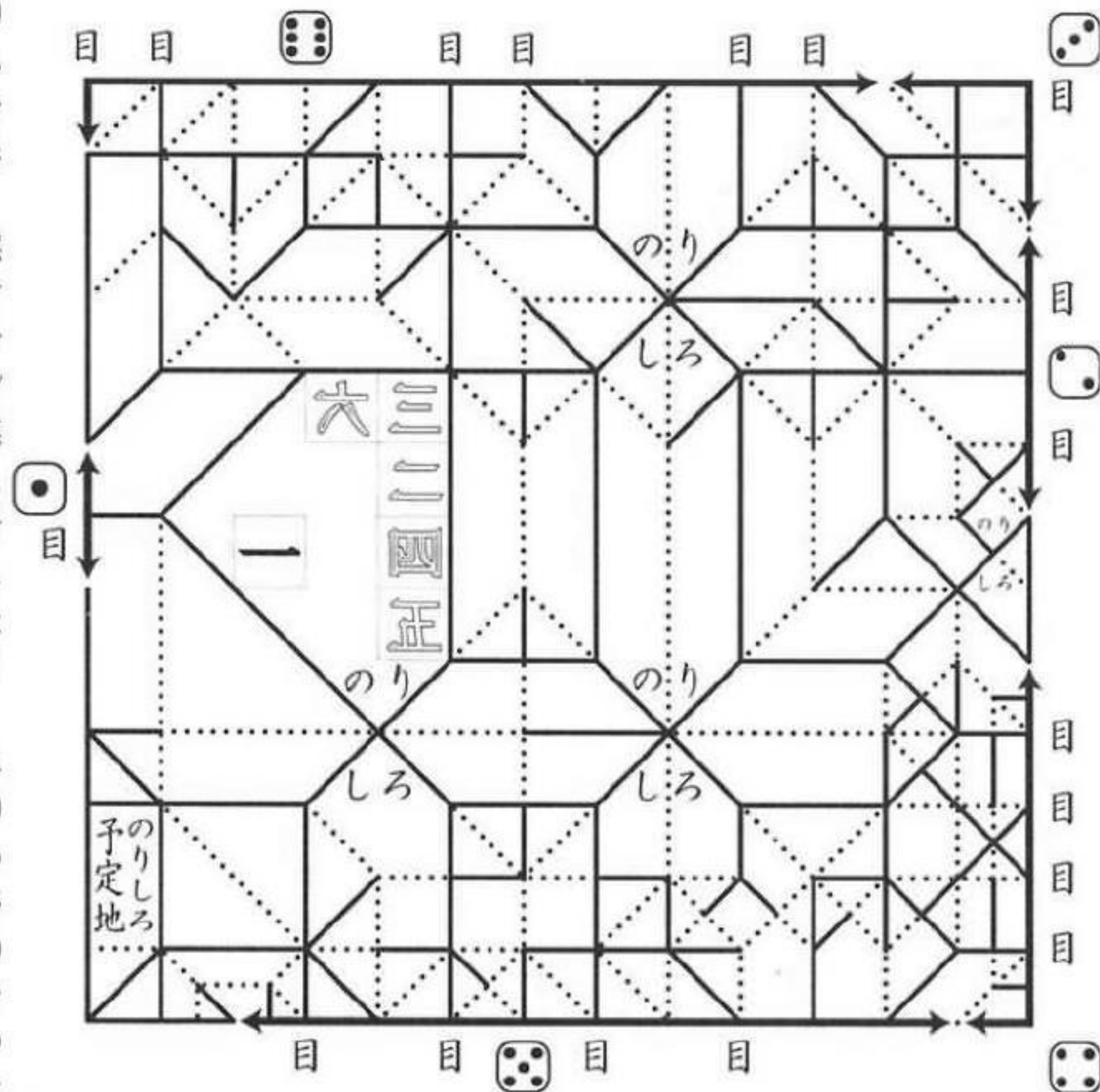
は関係がないので割愛します。

1ヒダ分の広がり(は用紙内部からの)りしろを引き出す余裕を与えてくれ、のりしろを蛇腹のヒダ表層近くに差し込み接着することで、紙の重なりや余計な色のはみ出しをある程度誤魔化することが可能となりました。

全ては結果All right!です。ワハハ。

いつか1辺2メートルの「大ダイス」を折ってみたいですね。その際、手伝って下さる方、紙や場所を提供して頂けるスポンサーを大募集します。連絡先は…って、もちろん冗談ですよ。ワハハ。

<mercy1999@mail.goo.ne.jp>



MFPP(Mouvement Français des Plieurs de Papier)がJean-Claude Correia(ジャン・クロード・コレイア)氏によって1978年に創立されてすでに23年、現在ではフランスの折り紙普及の要です。私がMFPPを知ったのは7年前、「Papier Japonais(和紙)」の著者のフランソワーズ・ペローさんがたまたま私の仏語の先生だったことがきっかけでした。その後パリに住むようになり、今年になってもう4年になります。この間嬉しい事にフランスの折紙作家や愛好家だけでなく、他の国の人達にも会える機会が多かったです。特に2年前のバリ・オリガミ展では私もボランティアの通訳として参加し、写真や名前でしか知らなかった作家や人達と直接会う事が出来、夢のような3日間でした。又、毎年5月に開かれるコンベンションも参加者の約半数がフランス以外からで、非常に国際色豊かです。2000年の大会は、日本からの参加者を含め13の国を数えました。大会の雰囲気は参加者が80~90名という小規模なものであることもあり、リラックスしたものです。会場には好きな時に即興の講習会を開ける場所が設けてあり、プログラムされている以外に、お目当ての作家をつかまえて教えて貰っているのを良く見かけます。このためか参加者がひとつの講習に集中することもなく、前もって登録する必要が無いのは利点でしょう。只、お昼を多くの人のレストランでとるため、時間がついついオーバーし午後のセッションに響く事も多々あります。でもフランス人にとって食事の時間は友人との交流の中でとても大切に、お弁当ですませる訳には



MFPP

(フランス)

文・佐藤直幹



■機関誌「LE PLI」

いかない様です。

外国に暮らす日本人として私にも折り紙を教えてくれ、という要請がよくありますが、これがMFPPに入った事により何倍にも増えました。中でも毎年4月の「模型とおもちゃ展」のブースでのデモンストレーションはMFPPにとっても大きな行事で、同時に新規会員の獲得、MFPP独自の本の販売の場でもあります。ここで初めて折り紙にふれる人もまだまだ多く、これからもこういう機会を増やす必要があるでしょう。

フランスの作家達の中には折り紙を芸術活動の一環として捉える人達が多く、よ



■パリで開かれる「模型とおもちゃ展」のMFPPのブース 2000年4月

り複雑なもの、より斬新なものを求めるのとは違った指向があります。折り紙の芸術としての可能性の追求は前例が無く困難なものでしょう。その点私は彼らを尊敬しています。

機関誌「LE PLI」(折り、という意味)は年に4回発行されており、折り図や海外コンベンションのレポート、ブックレビューなどの情報が掲載されています。なかでも現会長のMichel Ronsseray(ミッシェル・ロンスレー)氏による折り紙と他分野との交流の記事は人気があります。

現在会員は約300名で、会はボランティアによってなっています。

毎週土曜日の午後3時~5時にパリの事務所で定例会を開いています。もしパリに旅行する機会があれば是非連絡してみてください。折り紙が大好きな方ならどなたでも大歓迎です。パリ観光のひとつの目玉になることを保証します。

お問い合わせ先

E-Mail: mfpp@worldonline.fr.(ローマ字または英語か仏語で)

事務所住所: 56 rue Coriolis, 75012

Paris France

Tel: 33 (0)1 43 43 01 69 (留守番電話)



■機関誌とは別に発行されているBOOKLET



■年に一度のコンベンション 1998年5月

Rabbit Ear つまみおり Information



第3回折紙探偵団 静岡コンベンション レポート 2000年12月9・10日

年末の忙しい時期にもかかわらず、忘年会、大掃除等の誘惑を乗り越え、今世紀最後のコンベンションを静岡で過ごそうという折り紙好きな人達に支えられ、無事開催することができました。

年末ということで、参加人数も心配されていたので、まずは一安心。

今年は、ドイツからの留学生、ユリウス・クッセロー氏の参加で、静岡コンベンションも、ついに国際化?を迎えることとなりました。

初日、まずは、昨年に引き続き前川淳氏の講演。「準備に、あまり時間がかけられなかった。」とは、御本人の弁。にもかかわらず、来年の流行語大賞に、初の折り紙界からのノミネートかと思わせる怪文いや、回文の数々。熱心にメモを

取る?御婦人の姿もありました。

今回初の試みとして、難易度があまり高くないにもかかわらず、受講人数を限定した、2時間枠の「のんびり教室」を設けました。またスタンプを使った紙の染色等も行われ、どれも盛況を博していました。

そして夜は、いよいよ懇親会の開催です。何と言っても今年の目玉は、「第1回足折り折り鶴選手権」(仮名)の開催です。審判、解説に山口真氏を迎え、北條高史氏の合図でスタート。参加選手は、折り鶴コレクターでもある前川氏をはじめ、西川誠司氏、唯一の外国人選



▲恒例となるか?! 懇親会における前川淳氏の靴下一発芸。今年はイギリスで入手した「Devil」柄



▲懇親会メインイベントとなった「第1回足折り折り鶴選手権」参加者の顔ぶれ。最後列がユリウス・クッセロー氏



▲35cm四方の紙をそれぞれ床に置いてスタート

手クッセロー氏、最年少は、小学生。そして、我がスタッフからも鈴木美恵子氏が参加し、芸術点では最高点をマーク。結果は、ハンディをものともせず、前評判通り前川氏の優勝となりました。全員自分の作った迷作を胸に、記念写真となりました。が、この選手権は冬期限定と思ったのは、私だけでしょうか。

2日目も、各教室とも大盛況。オークションも、競り落とした人達の笑顔であふれ、参加者達は、自分で折った作品と、コンベンションの思い出を胸に、家路に帰りました。

みなさん、年末のあわただしい中、御参加頂き、まことにありがとうございました。
(静岡友の会：猪ノ口洋子)



▲初心者も安心して参加できる静岡友の会ならではの企画「のんびり教室」の講習風景

▲同じく前川氏のあやとり作品「折り鶴」

◆第2回折紙探偵団関西コンベンション

今年は3月24日・25日の2日間開催

昨年に引き続き、今年も関西コンベンションの開催が決定。とにかく折り紙が好きな人が集まり、2日間にわたって折り紙を楽しもうという会です。今年は講習のクラスを48クラス用意する予定。素敵な折紙作品があなたを待っています。

期日：2001年3月24日(土)・25日(日)
場所：キャンパスプラザ京都(JR京都駅烏丸口西前の京都中央郵便局裏)
費用：大人3500円／子供(小学生以下)2500円(折り紙、折り図バックが含まれます)／親子割引 3500円(親子でバック1セット)

折紙講習：会場は京都駅すぐ横の線路沿い。京都に不慣れな遠方から参加の方にもわかりやすい場所です。講習作品は易しい物から難しい物まで色々集める予定です。

懇親会・宿泊先：昨年と同じ「ホテル松井」。アクセス便利な京都の中心地区にあります。懇親会は楽しく参加できるゲームを企画中。「徹折り」もお楽しみに。

■詳しい内容・申込用紙については下記連絡先、または関西友の会ホームページ(<http://www.nn.ij4u.or.jp/~tatekoo/OrigamiKansai/index.shtml>)まで。申込用紙も取得可能(PDF)です。申込書を郵送で入手希望の方は、返信用封筒を同封の上、以下の住所まで連絡ください。

どなたでも参加可能ですが、参加人数は原則として先着150名となっております。また、折り紙講習申し込みの優先順位は参加申込用紙到着順とさせていただきます。ご了承ください。

問合せ先

〒613-0022 京都府久世郡久御山町市田新珠城238-2

新本祐一(しんもとゆういち)

電話：090-4282-5665

E-mail: shinmoto_y@muf.biglobe.ne.jp

主なスケジュール

3月24日(土)

参加受付開始 9:30～

教室受付開始 10:00～

全体会 11:00～11:30

昼食 11:30～13:00

講習1～4 13:00～16:50

(1講習各50分休憩10分)

懇親会 18:00～21:00

3月25日(日)

参加・講習受付開始 9:30～

講習5～6 10:30～12:20

昼食 12:20～13:30

講習7～8 13:30～15:20

全体会 15:30～16:30

申し込み先

(申し込み用紙が必要です)

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1-1-2-811

立石浩一(たていしこういち)

TEL/FAX 078-861-6337

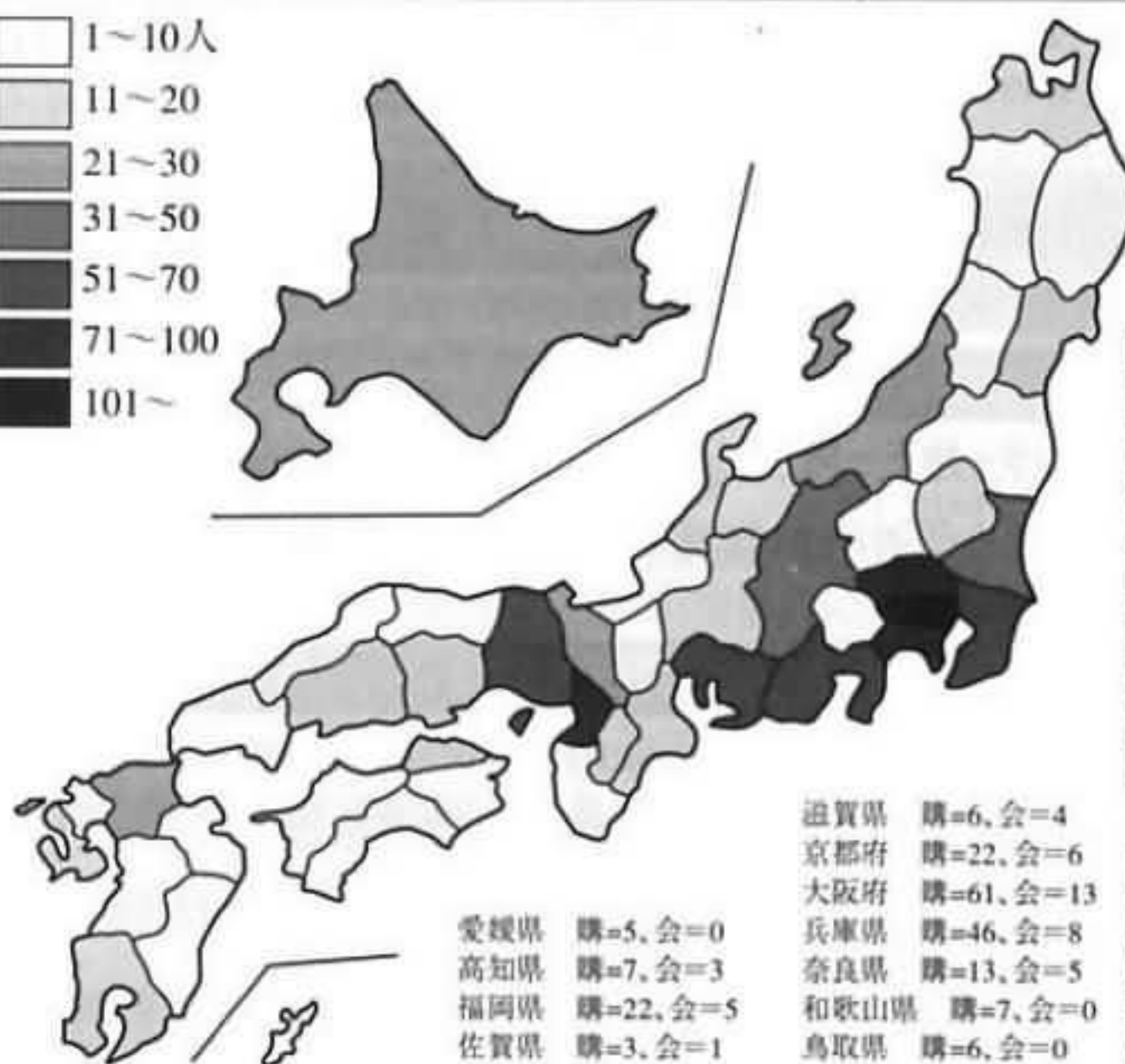
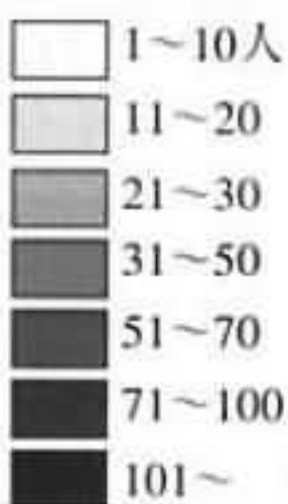
◆『折紙探偵団』購読者マップ

順調に発展を続ける日本折紙学会(JOAS)ではありますが、機関誌である雑誌『折紙探偵団』が実数において前期(10期)より落ち込んでいるという現実があります。

その大きな理由として、ダイレクトメールなどの積極的な拡販を試みた前期に比べ、今期は特別な働きかけをしなかったことなどがあげられます。

しかしながら、実際にはまだかなりの数字を維持しており、毎月購読者がコンスタントに増えているのは、素晴らしいことではないでしょうか。最近ではインターネットでその存在を知り、購読を希望する人が確実に増えているようです。

11期2001年1月15日現在の購読者数は国内1,214名、内会員は225名。海外164名、内13名が会員であり、総数は1,378名となっています。国内の購読者数を分布図で表すと、右図の様になります。



■県別購読者数

北海道	購=28, 会=1
青森県	購=9, 会=3
岩手県	購=7, 会=0
宮城県	購=16, 会=4
秋田県	購=6, 会=1
山形県	購=7, 会=1
福島県	購=4, 会=0
茨城県	購=30, 会=7
栃木県	購=12, 会=3
群馬県	購=8, 会=1
埼玉県	購=72, 会=18
千葉県	購=46, 会=13
東京都	購=169, 会=58
神奈川県	購=76, 会=19
山梨県	購=3, 会=2
長野県	購=42, 会=6
新潟県	購=22, 会=1
富山県	購=13, 会=1
石川県	購=10, 会=2
福井県	購=6, 会=0
岐阜県	購=12, 会=3
静岡県	購=49, 会=11
愛知県	購=43, 会=9
三重県	購=14, 会=1

滋賀県	購=6, 会=4
京都府	購=22, 会=6
大阪府	購=61, 会=13
兵庫県	購=46, 会=8
奈良県	購=13, 会=5
和歌山県	購=7, 会=0
鳥取県	購=6, 会=0
島根県	購=3, 会=0
岡山県	購=13, 会=1
広島県	購=16, 会=2
山口県	購=7, 会=0
徳島県	購=4, 会=0
香川県	購=12, 会=0
愛媛県	購=5, 会=0
高知県	購=7, 会=3
福岡県	購=22, 会=5
佐賀県	購=3, 会=1
長崎県	購=10, 会=5
熊本県	購=3, 会=3
大分県	購=5, 会=1
宮崎県	購=1, 会=1
鹿児島県	購=10, 会=1
沖縄県	購=3, 会=1

◆第3回折り紙の科学国際会議 参加締切迫る

63号でもお知らせした、第3回折り紙の科学国際会議の参加締め切りが迫っています。

イタリア、日本に続き今回はアメリカ、カリフォルニア州モンレーで開催されるこの大会のテーマは折り紙の科学、数学、教育です。日々折り紙の研究にいそしむ数学者、物理学者、教育者、作家達が世界中から集まり、3日間に渡ってそれぞれの研究成果を披露します。日本からの講演者も多数リストアップされており、本誌でもお馴染みの作家陣も参加します。

川崎敏和氏(「The Geometry of Origami」)、布施知子氏(「A Folded Deep Pot」)、前川淳氏(「The Definition of Iso-area Folding」)をはじめ、日本在住で同志社大学助教授のデボラ・フォアマン・タカノ氏や「オリガミクス」の芳賀和夫氏、「ミウラ折り」の三浦公亮氏など多彩な顔ぶれが見られます。もちろんRobert J. Lang氏、Thomas Hull氏など日本でも知られた海外作家にも注目です。会場には展示スペースも用意されており、世界各国から寄せられる作品を楽しむこともできます。

会場となる Asilomar Conference Center は宿泊施設も兼ねており、世界中から集まる折り紙愛好家との交流も楽しみのひとつです。また後援であるOrigamiUSAは参加者のためにオプションツアーを企画しており、バス観光からゴルフまで、春のカリフォルニア

を満喫できるように気を配っています。

参加費は宿泊料、食事代込みで一人US\$360(部屋がダブルまたはツインの場合)です。

次はいつあるかわからない折り紙の科学国際会議。興味のある方はこの機会に参加してみたい方が多いです。さらに詳しい情報を知りたい方は<http://www.ifold.org>をご覧ください。

2001年3月9日(初日)

3:00- チェックイン開始
4:00- 大会受付開始
6:00- 夕食
7:00- 開会式および全体講演

3月10日(2日目)

8:00-5:00 各テーマ別講演
6:00- 夕食、懇親会

3月11日(3日目)

8:00-5:00 各テーマ別講演

◆三岳寺折鶴まつり

今号の「新・折紙散歩」にも紹介した、三重県菰野町湯の山温泉で、3月4日(日)に「三岳寺折鶴まつり」が開催されます。折鶴の奉納、焚き上げなどの行事があります。数年前までは知る人ぞ知る話だった「折鶴伝説」を、湯の山温泉協会が大きく取り上げたようです。(前川)

静岡友の会

毎月第4月曜=やさしい折り紙の好きな主婦を中心としたグループです。気軽に遊びに来て下さい。

2月27日(月) 13時~15時。お問い合わせは16時以降、054-254-4541(増武内 山口)
会場=増武ビル 静岡市呉服町1-3-6

関西友の会

2月10日(土) 14:00~17:00
1部=長岡京市産業文化会館(3階会議室)
参加費:500円
講師:渡辺隆喜「リス他(「ビバ!おりがみ」の中から簡単な作品を数点)」
2部=場所を変えて懇親会
参加費:4,000円程度

◆例会のお知らせ

※おりがみ用紙は各自持参をお願いします。

東京友の会

会場=文京区シビックセンター地下1階
生涯学習センター「アトリエ」

参加費=400円(中学生以下半額)

講習会=午後2時~

研究会=午後4時~

●2月3日(土) 講師:北條高史「ヘビ2種」

●3月3日(土) 講師:大野博美「桜珠(作・川崎敏和)」

2月、3月は、会場がいつもの文京区民センターから向かい側の文京区シビックセンターになります。ご注意ください。最寄り駅は都営三田線なら春日駅、丸の内線・南北線の場合は後楽園駅となります。

■ORIGAMITANTEIDAN / No.65 / Published on 25, January 2001 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Mammoth" Produced by Miyajima Noboru: Photographed by Salo Hitoshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Tajiri Atsushi, Matsuura Eiko / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE

◆おりおりムッシー展 ~伊丹市昆虫館~

伊丹市昆虫館では元旦から、昆虫と折り紙の展覧会「おりおりムッシー展」を開催している。

これは折り紙を楽しみながら昆虫の生態に関心を持ってもらおう、という展覧会。

会場には田んぼや草むらのジオラマの中に折り紙の昆虫が展示してあったり、本物と折り紙とを見比べる事ができる標本箱などが用意されている。

開催期間中の第2・4土、日、祝日には来館者参加型の企画があり、また3月18日(日)には日本折紙学会員でもある、鈴木邦雄(富山大学理学部)と津田良夫(長崎大学熱帯医学研究所)の両氏による講演会も予定されている。

期間:2001年1月1日(月)~3月20日(火)

休館日:1/2、3/20を除く毎週火曜日

場所:伊丹市昆虫館2F

兵庫県伊丹市昆陽池3-1

Tel:0727-85-3582

(担当:坂本昇、明尾正昭)

観覧料:大人400円、中高生200円、
3歳~小学生100円

URL:www.city.itami.hyogo.jp/k_chou/

e-mail:ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

■おたより大募集■

宛先 113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
ギャラリー・おりがみはうす内
折紙探偵団編集部
E-mail webman@origami.gr.jp

折紙探偵団ホームページ公開中

<http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2001年1月25日発行
第11巻5号通巻65号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/田尻敦士 松浦英子

折り図制作・デザイン/おりがみはうす

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

I♥ORIGAMI おりがみはうす商品案内

※このページの商品の取扱いはいすべて「おりがみはうす」です。折紙探偵団の口座とは別になります。



第6回折紙探偵団 コンベンション 折り図集VOL.6 大好評発売中!!

B-5判256ページ
定価2,000円(税込)
送料420円(梱包込)

※郵便振替の場合は
用紙の「通信欄」に
必ず「第6回折り図集」
とご記入下さい。

神谷哲史氏の「バロサウルス」「天馬」、本誌60号に掲載された川村みゆき氏の「クイックスナップ」同じく60号表紙、西川誠司氏の「ドラゴン」、昨年の静岡コンベンションで作品が展示された川畑文昭氏の「ムース」、木村良寿氏現役復活作「ちびけらとぶす」、62号の展開図に登場した小松英夫氏の「うさぎ」、笹出晋司氏の「巨大鳥型生物(ギャ○ス)」、吉野一生基金招待者ダニエル・ロビンソン氏の「シュモクザメ」、ポール・ジャクソン氏のシンプル作品などなど66作品収録。



■ 折紙図鑑「昆虫 I」

B5判/全196ページ
カラー口絵 4ページ
定価: 3,100円(税込)
送料: 460円(梱包込)

川畑文昭、西川誠司・共著 山口 真・編
昆虫大戦争の熱い日々が今甦る。カラーページに全作品掲載。折り図の冒頭には口絵とは異なるアングルから撮った作品のモノクロ写真と作者のコメント掲載。



■ 折るころ

A4判 全108ページ
フルカラー48ページ
指導: 岡村昌夫
定価: 1400円(税込)
送料: 420円(梱包込)

本誌57号岡村氏の連載で詳しく紹介された「折紙の歴史展」の図録。折紙の貴重な歴史的資料満載で、折紙博士を自称するなら必携の一冊。

好評発売中

折り紙色紙百花 田中具子・著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル。
B-5判/120ページ/カラー口絵8ページ
定価2,500円(税込) 送料390円(梱包込)

面~The Mask~ 布施知子・著

作者がまだユニット折り紙に出会う前の情熱の作品群。
B-5判/200ページ/全27作品カラー写真紹介
定価3,300円(税込) 送料460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B-5判200ページ カラー口絵8ページ 吉野一生 著
定価2,900円(税込) 送料460円(梱包込)

只今制作中

西川誠司作品集/西川誠司 著・西川折り紙の集大成。

折紙図鑑「昆虫 II」/北條高史、前川 淳、目黒俊幸共著

世界で一番難しい折り紙の本第2弾。

折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集
一所懸命制作中です。気長に待っていて下さい。

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B-5判/箔押しロゴ入/雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能

定価750円(税込)
送料250円(梱包込)

はうすオリジナル 折り紙専用和紙

和紙両面おりがみ

2枚の民芸紙を貼り合わせて作りました。折り筋が付きやすく、もみ紙の風合いが作品づくりの幅を広げます。

サイズ/30cm×30cm 5色調/20枚入 定価1,350円
送料: 1セット/390円(梱包込) 2セット/580円 3~4セット/700円

※和紙両面おりがみは見本をお分けしています。
御希望の方は80円切手を同封の上、おりがみはうすまで。

絵はがきセット 限定50部

布施知子ユニット作品絵はがきセット

1セット18枚組(18種類) 定価1500円 送料160円
美しい自然と調和するユニット作品を絵はがきにしました。

●商品の申し込み方法●

郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)を送って下さい。

ご希望の商品名と連絡先の記入をお忘れのない様お願いします。

(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入して下さい。)

入金を確認次第、商品を送送させていただきます。

郵便振替番号 00120-9-715400
加入者名 おりがみはうす

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: origamih@remus.dti.ne.jp

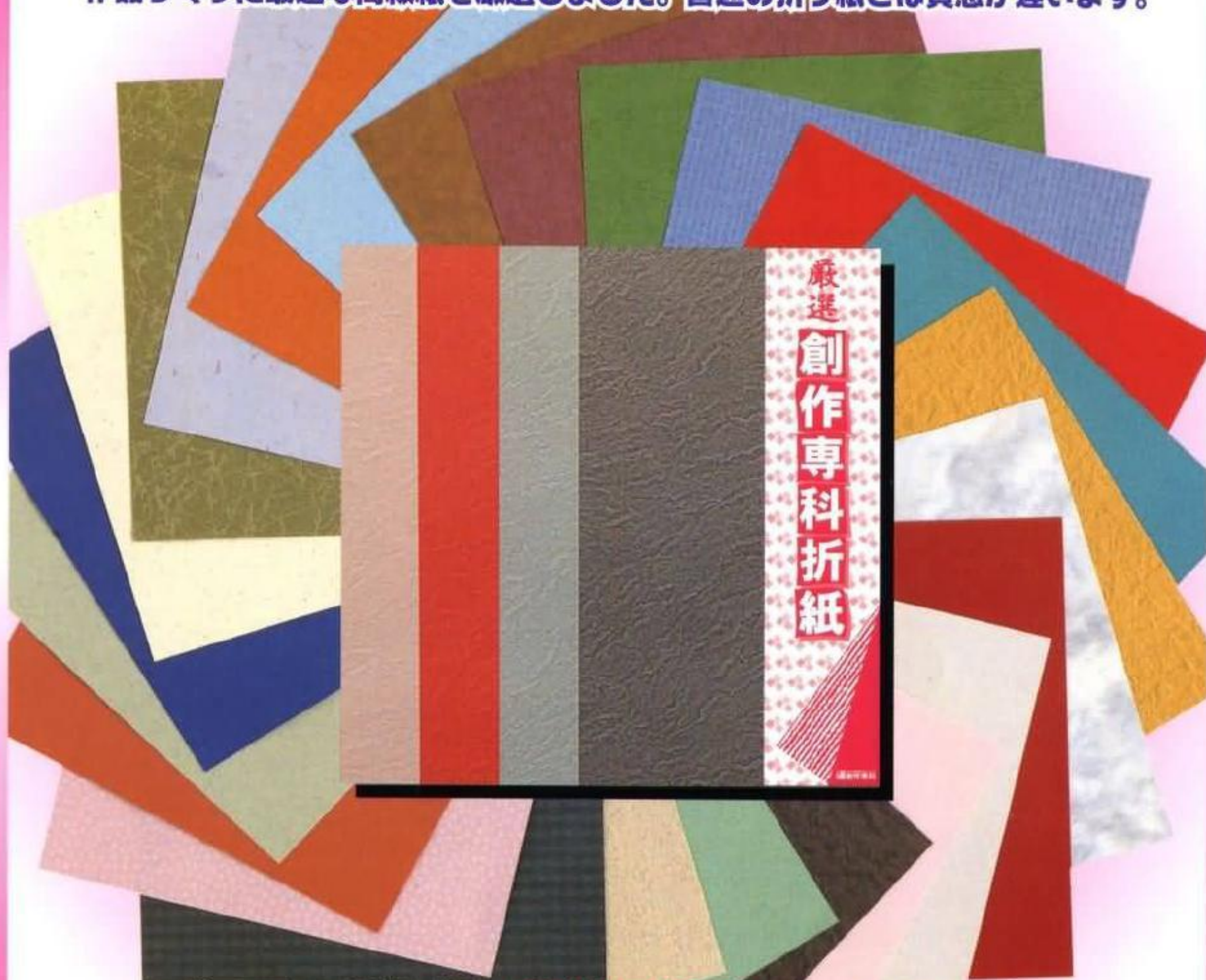
■複数商品ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

(35×35cm)

高級大判折り紙を、宅配。

24種類の折り紙 通信販売にて好評発売中。

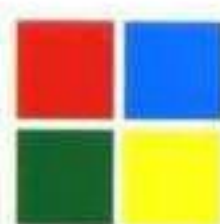
作品づくりに最適な高級紙を厳選しました。普通の折り紙とは質感が違います。



ご好評の折り紙、実物見本帳ができました。

入手方法等については直接お問い合わせ下さい。

お問い合わせ TEL 03-5244-6061
FAX 03-5244-6065



あなたの創作活動をサポートします。

創作専科

株式会社 ポップ・アイ 創作専科
〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-10-7

TEL (03) 5244-6061
FAX (03) 5244-6065